DBSWIN 5.9

J

取扱説明書

目次

1. はじめに

使用されている記号について

 警告情報を必ずお読みください

本ソフトウェアの用途

カメラ等とレントゲン画像の取り込みと管理及び患者毎の画像整理。

オプションモジュール

この使用説明書では、オプションモジュールも含む全ての機能について解説されています。お客様がご使用になれるのは、ご購入いただいた機能のみとなっております。オプションの機能（例えばDICOM、カメラ等撮影）をご希望の場合は、ご注文いただきますようお願いいたします。

商標

Windows、DirectX、DirectDrawは、マイクロソフト社の登録商標です。
その他のブランド名、及び製品名は各社の商標又は登録商標です。

ユーザー登録

DBSWINをアクティブ化するにはユーザー登録が必要です。登録されたお客様は、ソフトウェアを制限なしに使用していただくことができます。また、技術的サポートを受ける権利を有します。以下の「2.9 DBSWINをアクティブ化する」に従って登録フォームに記入し、デュールデンタル宛てに電子メールかファックス、又は郵便で送ってください。登録完了後、お客様のシステムに有効なキーコードをお届けします。

宛先:
DÜRR DENTAL AG Höpfigheimer Straße 17 D-74321 Bietigheim-Bissingen ドイツ
電子メール:registry@duerr.de   Fax:+49 7142-705-441

インストール前のデータバックアップ

本ソフトウェアのインストールに当たっては、お客様のシステムのファイルやデータをフルバックアップすることをお勧めします。

データバックアップ

データの紛失を防ぐために定期的なデータのバックアップを行っていただかなければなりません。詳細はこちらをお読みください:「2.10 データバックアップ」

他のソフトウェアへの影響

お使いのパソコンに既にインストールされている他のソフトウェアへの影響については、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。問題が発生した場合は、弊社にご連絡ください。

著作権

エンドユーザー使用許諾契約書（EULA）

本エンドユーザー使用許諾契約書（以下「本契約」といいます）は以下に示す両者の間で締結されるものです。

DÜRR DENTAL AG（以下「デュールデンタル社」といいます）
Höpfigheimer Str. 17,
D-74321 Bietigheim-Bissingen, Germany

ユーザーであるお客様（以下「お客様」といいます）

最新のエンドユーザー使用許諾契約書は、DBSWINインストール時に表示されます。

【第1条 本契約の対象】

(1) 本契約はデュールデンタルDBSWINのソフトウェア、ドライバおよびインターフェースとこれに付帯するプログラムコンポーネント（以下「ソフトウェア」といいます）を対象とします。

(2) デュールデンタル社は、お客様が合法的に取得したソフトウェアを本契約の条件および以下に示した条項にしたがい使用する権利を認めます。ソフトウェアは著作権により保護されています（ UrhG（ドイツ著作権法、以下「UrhG」といいます）の§69a以下の条項）。

(3) お客様が直接デュールデンタル社からではなく、歯科用品販売業者などを通してソフトウェアを取得した場合、第5条および第6条（保証および賠償責任）は適用されません。この場合、お客様の保証および賠償請求権は直接の販売者に対してのみ行使することができます。

(4) ただし、ドイツ製造物責任法に基づいたデュールデンタル社に対するあらゆる法的請求は、その請求が正当なものである限りにおいてこの影響を受けません。これら請求は本契約の対象外です。
(5) ソフトウェアはアップデート（最新版）およびアップグレード（開発による変更および機能の拡張）を通してデュールデンタル社により保守され、新しい仕様が提供されます。本契約の条項は将来のアップデートおよびアップグレードにも適用されます。

【第2条 本契約の適用】

以下の時点で本契約が適用されるようになります。

a) データ記憶媒体でソフトウェアを取得した場合は、ソフトウェアのインストール中にお客様が「同意する」をクリックして本契約の条項を承諾した際に、または、

b) ダウンロード製品（ウェブ版）として本契約の対象となるソフトウェアを取得した場合は、ダウンロードを開始する前にお客様が「同意する」をクリックした時点で本契約の条項を承諾したものとみなされます。

【第3条 複製およびアクセスの権利、再コンパイルおよび変更】

(1) お客様は提供されたプログラムを、このプログラムを使用するのに必要な範囲において複製することができます。必要な複製とは元のデータ保存媒体から使用しているハードウェアのハードディスクドライブにプログラムをインストールこと、およびメインメモリにプログラムを読み込むことを含みます。

(2) お客様は、お客様が使用する診療所ネットワーク内でソフトウェアを複製する権利を有します。ただし、お客様が個々のワークステーション用にライセンスを取得した場合に限ります。

(3) お客様はバックアップのためにソフトウェアを複製することができます。しかし、一度に作成および保存してよいバックアップコピーは1部とします。バックアップコピーにはその旨を記載する必要があります。

(4) お客様は上の条項で規定した範囲を超えてプログラムを複製してはなりません。プログラムコードの印刷についても同様にこれを禁じます。

(5) 著作権表示、製造番号、ならびにその他プログラムの識別に必要な特徴は、いかなる場合にも除去または変更してはなりません。

(6) UrhGの§69eの条件が適用される場合を除き、提供されたプログラムコードを別のコード形式に再コンパイルすること、形式の如何にかかわらずソフトウェアを異なる製品段階に戻すこと（リバースエンジニアリング）、およびプログラムを変更することは認められません。著作権表示、製造番号、またはその他プログラムの識別に必要な特徴はいかなる場合にも除去または変更してはなりません。

【第4条 転売および転貸】

(1) お客様はソフトウェア(ドキュメンテーションを含む)を第三者に販売または譲渡することができます。ただし、この第三者に対して本契約の内容が引き続き適用されることを第三者が承諾した場合に限ります。ソフトウェアを引き渡す前に、お客様はこれら契約条項をこの第三者に情報として提供しなければなりません。

(2) ソフトウェアを引き渡す際、お客様は存在するすべてのプログラムコピー(バックアップコピーを含む)を第三者に引き渡し、引き渡さないコピーはすべて破棄せねばなりません。ソフトウェアが引き渡された時点で、プログラムを使用するお客様の権利は失効します。

【第5条 保証】

(1) 提供されたソフトウェア(ドキュメンテーションを含む)の障害は、ソフトウェアを最初に使用した日およびそれに続くお客様からの書面通知から開始して2年の保証期間中、デュールデンタル社により修正されるものとします。修正は無償の修理または代替品の提供という形で行われ、どちらの方法を取るかはデュールデンタル社が判断するものとします。

(2) デュールデンタル社が修理または代替品の納品を実行できずまたは実行しようとせず、修理または代替品の提供がお客様の指定した期間を超えて遅延した場合、またはすべての試みが失敗に終わった場合、お客様は本契約を解除または値引きを要求する権利を有します。修正が失敗に終わったとみなされるのは、デュールデンタル社が障害を修正するのに十分な機会を与えられたにもかかわらず要求される成果を達成できなかった場合、特に過去すでに修理の試みが2回行われており、3回めの試みにおいても成果を達成できなかった場合に限定されます。ただし、BGB(ドイツ民法)の§437 に基づくお客様の損害賠償請求権はこの影響を受けません。

(3) お客様は、障害を一切含まないソフトウェア製品を作成するのは一般に不可能であることを承知しています。よって、本契約でいうソフトウェアの障害とは、契約上合意されたようにソフトウェアを使用するために必要なソフトウェアの価値および適合性を著しく損なう障害のみを指します。

(4) ソフトウェアは複合IT製品であり、お客様個々のIT環境でインストール、アップデート/アップグレードおよび設定をするためには、予備知識が必要であることをお客様は承知しています。よって、お客様のIT環境でのソフトウェアのインストール、アップデート/アップグレードおよび設定は、その技能および資格を有する人物によって行われるものとします。歯科用品販売またはIT分野に従事する、適切な訓練を受けた人物により実施されるのが理想的です。ソフトウェアのインストール、アップデート/アップグレードおよび操作中、ソフトウェアを不適切に使用した結果として生じた障害および損害について、デュールデンタル社は一切責任を負いません。これは、お客様の使用しているハードウェアおよびソフトウェア環境(オペレーティングシステム)が、 デュールデンタル社が個々に規定する、ソフトウェアを使用するために最低必要な条件を満たしていないことに起因する障害および損害についても同様です。

【第6章 賠償責任】

(1) 損害や無駄になった費用の弁済に対するお客様からの賠償請求は、その法的性質の如何にかかわらず、本条項に基づいて行われるものとします。ただし、ドイツ製造物責任法に基づく賠償責任はこの範囲ではありません。

(2) デュールデンタル社は生命または健康に対する損害、または肉体的損傷に対し無制限に責任を負うものとします。

(3) デュールデンタル社の故意または重大な過失に起因する損害に対し、デュールデンタル社は無制限に責任を負うものとします。些細な過失に起因する損害については、その過失が契約目的を履行する上で特別に重要な義務(重大な契約上の義務)の不履行を招いた場合にのみ、その責任を負うものとします。重大な契約上の義務とは、本契約を正常に履行するための基本的な前提条件をなす義務、またはお客様が通常その履行を期待している義務をいいます。重大な契約上の義務に違反した場合、デュールデンタル社は、ソフトウェアライセンスまたはメンテナンスおよびサービス業務(第9条)の枠内において一般的に予想されうる損害に限定し責任を負うものとします。

(4) データの損失に対する責任は、定期的かつ適切にバックアップコピーを作成していた場合に必要となる一般的な復元努力に限定されます。

(5) 1項から4項はデュールデンタル社の社員、従業

員、代理人の個人責任に対しても同様に適用されます。

【第7条 所有権の留保】

デュールデンタル社は、お客様との契約関係から生じる債務の支払いが完了するまで、ソフトウェアの所有権を留保します。

【第8条 契約期間】

(1) 本契約の締結期間は無期限です。

(2) ソフトウェアおよびドキュメンテーションを使用するお客様の権利は、本契約で規定された使用条件にお客様が著しく違反した場合、特に第3条および第4条に記載された使用および転売に関する条項に違反し、デュールデンタル社が重大な事由により本契約を解除した場合に失効します。この場合、お客様はすべてのデータ記憶媒体およびデータ記憶媒体のコピーを返却し、ソフトウェアのコピーすべてを削除することを保証するものとします。

【第9条 デュールデンタルによるメンテナンスおよびサービス業務(特にリモートメンテナンスについて)】

デュールデンタル社がお客様の要請により、お客様のハードウェアにインストールされたソフトウェアでメンテナンスおよびサービス業務(以下「作業」とします)を実施する場合、これら作業には以下の規定が適用されます。

(1) これら作業の代金は作業実施時点におけるデュールデンタル社の最新価格リストに基づくものとします。デュールデンタル社の請求書は遅くとも請求書日付から2週間以内に支払われねばなりません。第5条に基づくデュールデンタル社の保証業務に対する代金は不要です。

(2) 作業に関するデュールデンタル社の賠償責任については、第6条に準ずるものとします。

(3) お客様は、お客様のデータが妥当な時間内に復元できるよう、デュールデンタル社が作業を開始する前にデータバックアップを作成するものとします。

(4) お客様のハードウェアに物理的に接触することなく、リモートデータ転送システムを介して作業が行われる場合(以下「リモートメンテナンス」とします)、お客様ハードウェアへの第三者リモートメンテナンスソフトウェアのインストール、また特にリモートメンテナンスソフトウェアの使用許諾条件の順守は、お客様の責任において行われるものとします。さらに、必要なハードウェアおよびソフトウェアのリモートデータ転送システムへの接続もお客様の責任において行われるものとします。デュールデンタル社の制御範囲を超えるリモートデータ転送システムの障害に起因する損害、またはお客様のハードウェアおよびソフトウェアに第三者が不正なアクセスを行ったことにより発生した損害に対し、デュールデンタル社はその責任を負いません。

【第10条 最終規定】

(1) 本契約条項ならびに保証の変更、修正および特定は書面により確認された場合にのみ有効となります。書面による確認を要するという本規定を廃止する場合も同様です。

(2) 本契約条項のいずれかが無効であるまたは本契約条項のいずれかに法的効力がない場合、これにより残りの条項の有効性が損なわれるものではありません。

(3) 無効なまたは法的効力のない条項は、これら無効なまたは法的効力のない条項が意図する内容ともっとも近い条項により置き換えられるものとします。

(4) お客様との契約関係についてはドイツ法が適用されます。ただし、国際物品売買契約に関する国連条約を除きます。

(5) お客様との契約関係から生じるいかなる紛争においても、お客様が販売業者である場合、裁判管轄にはデュールデンタル社の裁判管轄またはお客様の裁判管轄が適用され、デュールデンタル社がその決定権を有するものとします。

必要なパソコンの条件

お使いのパソコンに様々な機器を接続したり、何種ものソフトウェアをインストールする場合、よりスペックの高いパソコンが必要となります。

一般システムについて

バージョン:	DBSWIN 5.7以上
OS:	【クライアント／アプリケーション】 Windows 8／8.1(32bit/64bit) Windows 7(32bit/64bit) Windows XP Professional(SP3以上 32bit/64bit) 【サーバー／データベース】 Windows 8(32bit／64bit、クライアント20台まで) Windows 7(32bit／64bit、クライアント20台まで) Windows Server 2008 R2(32bit／64bit) Windows Server 2003(SP2以上) Windows XP Professional(SP3以上 32bit、クライアント10台まで) 日本語を正しく表示するためにはWindowsで表示言語及び「Unicode対応ではないプログラムの言語」を日本語に設定することが必要です(この二つの設定は、Windowsの初期設定です)。
CPU:	Intel Pentium IV 1.4 GHz 以上 (推奨: デュアルコアCPU 2GHz以上) 注意:Intel Celeron、又はAMD DuronのCPUはスピードが遅いためお勧めできません。
メモリ:	1GB以上 (推奨:2GB以上)
ハードディスク／メモリディスク:	クライアント／アプリケーション:10GB以上 サーバー／データベース:100GB以上 撮影した画像の枚数によって必要なディスク容量が変わります。
入力装置:	マウス、キーボード
LAN接続:	100Mbit以上
データのバックアップ:	安全確実なデータバックアップのための推奨メディア: 磁気テープ(DAT、DITTO、TRAVAN、ADR OnStream) 外付けのハードディスクは、内蔵HDDが二つで、RAID 1(二重化、ミラーリング)を構成するタイプのみ **DBSWINデータのバックアップは必ず毎日行わなければなりません！**
モニター:	解像度1024×768以上、画面の色32bit色以上 注意:モニターは、画面の光度が高くコントラストの強いものをお使いください。強い室内光、直射日光や反射光がモニターに当たるとレントゲン画像の診断に支障をきたす怖れがあります。

製品に必要な条件

		VistaCam iX	VistaCam CL	VistaCam Digital	VistaProof	VistaScan Plus	VistaScan Perio	VistScan Mini	VistaRay 6	DBSWIN 5
マザーボード	Intel又はViaチップセット	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Nvidia又はAMDチップセット	×	×	×	×	○	○	○	○	○
	注意:SIS又はALIチップセットが使用できません。									
接続	USB 1.1					○	○		○	
	USB 2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	
	USB 3.0	○				○	○	○		
	LAN接続100Mbit以上							○		○
グラフィック	DirectDraw対応、 Microsoft DirectX 9.0c以上	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	解像度1024×768以上	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	画面の色32bit色以上	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ビデオメモリ16MB以上	×	×	×	×	○	○	○	○	○
	ビデオメモリ128MB以上	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	注意:シェアドメモリはスピードが遅いためお勧めできません。									
ケーブルの長さ	USBケーブルの最大長さ(メートル)					5m	5m	5m	5m	
	USBリピーターケーブル (各5mを3本まで)可能 15m合計の長さまで	○	○	○	○	○	×	×	×	

パソコンの電源・システム スタンドバイ

パソコンの省電力モード(スタンドバイ等)からの復帰にトラブルが生じると、DBSWIN又はサーバーが正しく起動しない場合があります。その際は、自動の省電力モード(スタンバイ、休止状態等)を全てオフにしてください。尚、クライアントが切断してしまうため、サーバーでは必ず省電力モードを全てオフにしてください。

2. インストール

2.1 はじめに

■インストールされているDBSWIN旧バージョンをアップデートする場合は**「アップデート作業の順序」**をご覧ください。

■DBSWINをインストールするためにアドミニストレーターの権利が必要です。

○開いている他の全プログラムを閉じてください。

○DBSWINのDVD-ROMをDVDドライブに挿入すると左のメニュー画面が自動的表示されます。表示されない場合DVDドライブを選択して、Start.exeを起動してください。

○「DBSWINのインストール」をクリックしてください。

○「DBSWINをインストールしますか？」のダイアログで「OK」をクリックしてください。

○指示に従ってください。

○「次へ」をクリックしてください。

■エンドユーザー使用許諾契約書(EULA)

○エンドユーザー使用許諾契約書(EULA)を読んでください。

○「使用許諾契約の条項に同意します」のボックスにチェックを入れます。

○「次へ」をクリックしてください。

2.2 単一のパソコンにインストール

ここでは、パソコン一台だけにインストールし、使用する場合の説明をします。DBSWINをネットワークの複数のパソコンで使用、又は将来的にネットワークの構築をお考えの方は「**2.3 ネットワークインストール**」をご覧ください。

■インストール項目の選択

○リストから「インストール:アプリケーション&データベース」を選んでください。

DBSWIN、SQLデータベースとサーバーのサービスをインストールします。その場合、パソコンはサーバーであると同時にクライアントとなります。

○「インストール方法」で「単一のパソコン」を選んでください。

○「データベースのローカルパス」の欄でデータの保存先を入力します。表示の推奨パスを採用するか、又はご希望のパスを入力してください。

パソコン内のディスクかパーティションのみご使用になれます。仮想ドライブ又はLANディスクは使用できません。

○「次へ」をクリックしてください。

■データベース名／医院名の入力

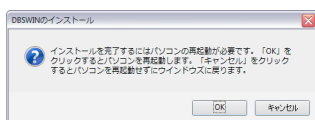
○データベース名又は医院名の入力してください。

○「次へ」をクリックしてください。

■インストール準備完了

○インストール内容の設定を確認してください。設定はリストの右欄側をクリックすると編集することができます。

DBSWINのモジュール（口腔カメラ撮影など）は、全てがインストールされます。ここで、各モジュールを有効／無効にできます。モジュールの設定は、いつでもDBSWINの設定で変更できます。

○「インストール実行」をクリックすると、アプリケーション、サーバー、ドライバなどの様々なコンポーネントがインストールされます。

インストール終了後に上記のメッセージが表示されたら、パソコンを再起動してください。

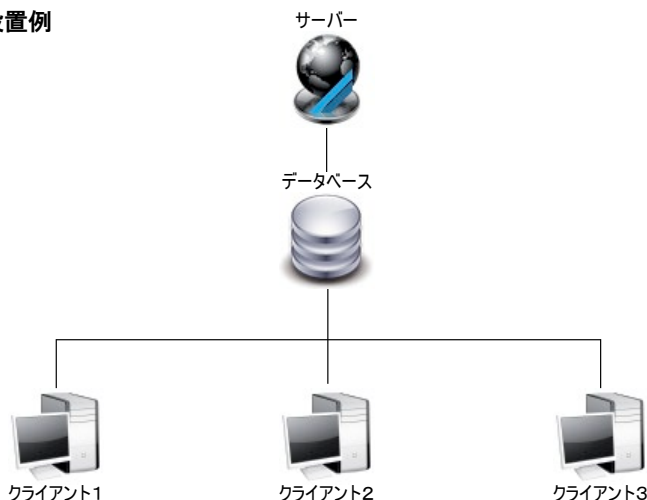
2.3 ネットワークインストール

インストール前の重要情報

○サーバーでドライブのパーティションに十分な空き容量が必要です。ハードディスクのファイルシステムはNTFSにしてください。

○ネットワーク接続を有線にするか無線にするかを選択する際には、有線の方が確実で、速度も2～10倍であることをご考慮ください。無線LANを使用する場合、電波干渉に強い規格のIEEE 802.11a/n準拠の機器のご使用をお勧めします。この機器は5GHzでデータ通信を行うため、コードレス電話等の他の機器から妨害されることがありません。

○DBSWINは、クライアント・サーバーのデータベース・アプリケーションです。データベースのフォルダは全てのクライアントで同じ仮想ドライブ又は同じUNCパスの設定が必要条件となります。

インストール・設置例

1. サーバーでのデータベースのインストール

クライアントがSQLデータベースにアクセスできるようにサーバーでのインストールが必要です。
そのため、クライアントのインストール前に、まずサーバーでの共有フォルダにSQLデータベース、さらにファイアーバードサーバーのサービス(Firebird Server Service)のインストールが必要です。

2. クライアントでのアプリケーション・インストール

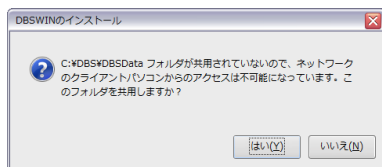
クライアントのパソコンにDBSWINのアプリケーションをインストールします。
サーバーのSQLデータベースはインストール時にアプリケーションとリンクされます。

インストールの準備

○サーバーの共有フォルダが、全てのクライアントとサーバーで表示されることを確認してください。
共有フォルダはどこでも同じドライブ文字（例:Z:)又はUNCパス（例:¥¥Server¥DBSdata）でアクセスできなければなりません。

○サーバーサービスで使用される両ポート番号（初期ポート番号: 1942, 3052)をファイアーウォールの設定で許可することが必要です。

○ネットワーク内のサーバー／クライアントの検出を速くするには、パソコンのワークグループ名を全て同じ名前にしてください。また、ネットワークアダプターの設定で、インターネットプロトコルTCP/IP(v4)のIPアドレスを手動で入力してください

例:　サーバー　IP 192.168.1.100、サブネットマスク 255.255.255.0
　　ライアント　IP 192.168.1.101、サブネットマスク 255.255.255.0

2.4 サーバーのインストール

サーバーのパソコンで共有フォルダにのDBSWINのSQLデータベース、さらにファイアーバードサーバーのサービス(Firebird Server Service)をインストールします。

■インストール項目の選択

○サーバーでもDBSWINアプリケーションをインストールする場合は、「インストール： アプリケーション&データベース」を選んでください。

○データベースとサーバーのサービスのみインストールする場合は、「インストール： データベース」を選んでください。

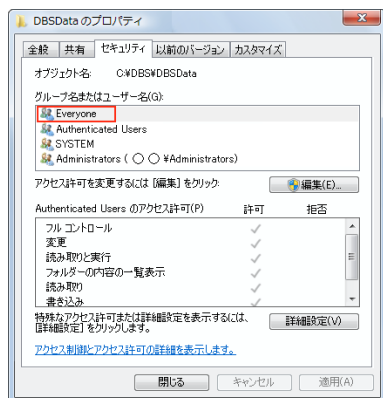
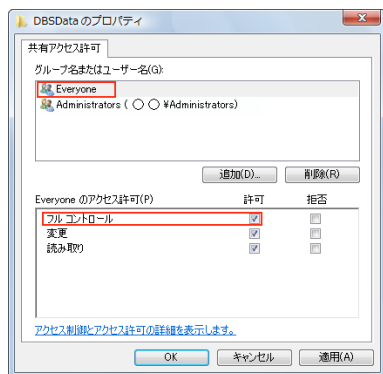
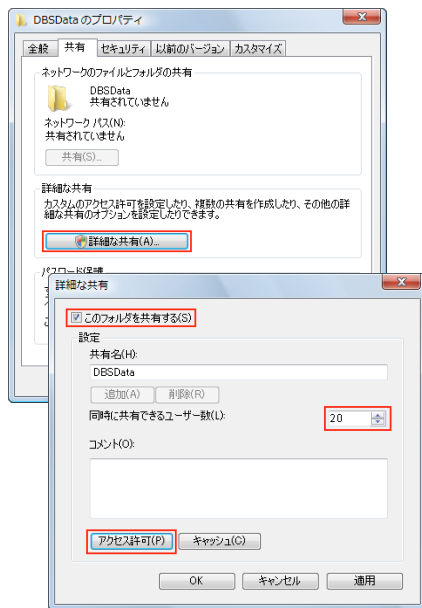
○「インストール方法」で「ネットワーク」を選んでください。

○データベースのローカルパスを入力又は確認してください。

○「次へ」をクリックしてください。−

データベースのローカルパスは、サーバー内での物理的なハードディスクパーティションのパスです(例：C:¥DBS¥DBSData)。
仮想ドライブ又はLANディスクは使用できません。

○左図のように「…このフォルダを共有しますか？」のメッセージが表示されたら「はい」をクリックしてください。

クライアントパソコンからデータベースにアクセスできるようにDBSDataフォルダの共有とセキュリティー設定が必要です。「2.5 DBSDataフォルダの共有とセキュリティー設定」**に従って行ってください。**

2.5 DBSDataフォルダの共有とセキュリティー設定

クライアントPCからデータベースフォルダ「DBSData」にアクセスできるように共有とセキュリティー設定を行います。

がまだ共有になっていない場合は、フォルダの共有設定を「フル コントロール」(変更、読み取り)にしてください。

○Windowsのエクスプローラーで「DBSData」のフォルダを右クリックし、表示されるメニューで「プロパティ」を選びます。

○「DBSDataのプロパティ」画面の「共有」タブで「詳細な共有」ボタンをクリックしてください。

「詳細な共有」の画面

○「このフォルダを共有する」にチェックを入れてください。

同時に共有できるユーザー数の設定は最低でも接続されているクライアント数以上にしなければなりません。

○「アクセス許可」ボタンをクリックしてください。

「DBSDataのプロパティ ― 共有アクセス許可」の画面

○「グループ名またはユーザー名」リストに「Everyone」の項目がない場合、「追加」ボタンをクリックして表示されるダイアログで「Everyone」と入力してください。「Everyone」を選んで、「アクセス許可」で「フル コントロール」にチェックを入れ「OK」をクリックします。

「DBSDataのプロパティ ― セキュリティ」の画面

○「グループ名またはユーザー名」リストに「Everyone」の項目がない場合、「追加」をクリックして表示されるダイアログで「Everyone」と入力してください。「Everyone」を選んで、「アクセス許可」で「フル コントロール」にチェックを入れ「OK」をクリックしてください。

詳細設定は、ネットワークアドミニストレーターにお尋ねください。

共有とセキュリティ設定が間違っていると、クライアントPCでDBSWINがインストールできなかったり、ご使用の際、データベースへのアクセスができません。
設定が正しいかどうかの確認方法：クライアントPCでWindowsエクスプローラーを開き、データベースが入っているサーバーの共有フォルダにテキストファイル(.txt)を作成／編集／保存します。この作業が行えない場合は、設定が間違っています。

■データベース名／医院名の入力

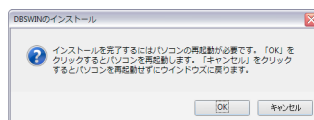
○データベース名又は医院名の入力してください。

○「次へ」をクリックしてください。

■インストール準備完了

○インストール内容の設定を確認してください。設定はリストの右欄側をクリックすると編集することができます。

DBSWINのモジュール（口腔カメラ撮影など）は、全てがインストールされます。ここで、各モジュールを有効／無効にできます。モジュールの設定は、いつでもDBSWINの設定で変更できます。

○「インストール実行」をクリックすると、アプリケーション、サーバー、ドライバなどの様々なコンポーネントがインストールされます。

インストール終了後に上記のメッセージが表示されたら、パソコンを再起動してください。

2.6 クライアントのインストール

DBSWINのアプリケーションは、クライアントのパソコンでインストールします。この作業は、同時に複数台には行えませんので、一台ずつ順番に行ってください。

■インストール項目の選択

○「インストール:アプリケーション」を選びます。

○ポート番号の右隣にある「...」のボタンをクリックすると、DBSWINサーバーを選択するダイアログが表示されます。

DBSWINサーバーの選択

サーバー名（IPアドレス）とポート番号を入力します。「...」のボタンをクリックして、表示されるリストからサーバーを選び、「検索」ボタンをクリックしてください。「OK」をクリックしてダイアログを閉じます。

サーバーでコマンドプロントを開き、ipconfig を入力すると、サーバーのIPアドレスが表示されます。

○「次へ」をクリックしてください。

■インストール準備完了

○インストール内容の設定を確認してください。設定はリストの右欄側をクリックすると編集することができます。

DBSWINのモジュール（口腔カメラ撮影など）は、全てがインストールされます。ここで、各モジュールを有効／無効にできます。モジュールの設定は、いつでもDBSWINの設定で変更できます。

○「インストール実行」をクリックすると、アプリケーション、サーバー、ドライバなどの様々なコンポーネントがインストールされます。

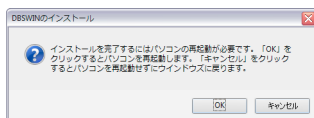
2.7 アップデート／アップグレード

アップデートを行うことで、既にインストールされているDBSWINのバージョンを更新したり、単一のパソコンのインストールをネットワークバージョンに変更することができます。

バージョンの更新又はアップグレードを行うと以前のバージョンに戻すことはできませんのでご注意ください。
作業を行う前に必ずDBSWINのデータベースのバックアップを取ってください。
DBSWINバージョン4.5.3以上の場合のみアップデート／アップグレードが可能です。それより古いバージョンをお使いの場合は、まずバージョン4.5.3にアップデートしてからでないと最新のバージョンにはアップグレードできませんのでご注意ください。

4.5.3から5.xにバージョンアップグレードする際の注意点
①バージョンアップグレードを行う際にエラーが発生する場合は、以前のバージョン4.5.3が正しくインストールされていないことが原因です。この場合、DBSWIN4.5.3やVistaConfigをアンインストールし、データベースをC:¥DBS¥DBSdata（又はD:¥DBS¥DBSdata）に移動してください。アップグレードはサーバーにDBSWINがインストールされていなくても、データーベースのみで行うことができます。この場合、インストールの際「データベースのローカルパス」にデータベースが入っているフォルダを設定してください。
②作業を行う前に全てのクライアントでDBSWINを閉じてください。バージョンアップグレードはサーバーのみで行います。サーバーでの作業が完了したら、クライアントパソコンで以前のDBSWINバージョンをアンインストールし、バージョン5.xを新たにインストールしてください。

DBSWINバージョン4.5.3をアップグレードする前の準備（サーバーのみ、クライアントでは不要）：
データベースのフォルダが、パソコン／サーバー内のディスクに存在しなければなりません（例：C:¥DBS¥DBSData）。そうでない場合は、アップデートを行う前にDBTOOLのソフトウェアでデータベースを移動してください。
ネットワーク上でデータベースを共有するため仮想ドライブ（例：V:¥）を使う場合、アップデートを行う前に設定を変更することが必要です。DBTOOLを起動して、データベースのパス変更でgdbs.iniファイルのローカルパスを選んでください（例：C:¥DBS¥DBSdata¥gdbs.ini）。このファイルはデータベースのフォルダにあります。この時、仮想ドライブパスを選ばないように注意してください。以上の作業が終了したら、仮想ドライブを切断してください。
もし、データベースがLANディスク（NAS）に存在する場合は、パソコン／サーバーに移動することが必要です。この作業はDBTOOLで行ってください。
データベースパスの変更が完了したら、一度DBSWIN4.5.3を起動して正しく作動するかを確認してください。

OSの変更（XP→7）とDBSWINのアップデート（4→5）を同時に行う場合：
①Windows XPのパソコンでDBSWIN 5にアップデートします。
②元データが入っているデータベースをWindows XPのパソコンからWindows 7のパソコンにコピーします（通常： C:¥DBS¥DBSData）。
③Windows 7のサーバーにDBSWIN 5をインストールする際「データベースのローカルパス」にデータベースが入っているフォルダを設定してください。「2.8 既存のデータベースを使用する」**参照。**
！注意：Windows7と8にDBSWINの4番台のバージョンをインストールすると不具合の原因となりますので、絶対に行わないでください。一度4番台のバージョンを入れてしまうと、アンインストールだけでなくアップグレードも行えなくなってしまう場合があります。ご注意ください。

インストール終了後に上記のメッセージが表示されたら、パソコンを再起動してください。

アップデート作業の順序

①クライアントのパソコンのDBSWINを全て閉じてください。

まず最初にサーバーのDBSWINをアップデート(上書きアップデート)してから、各クライアントを一台ずつアップデートしてください。

②DBSWINのインストールを開始して、「インストール項目の選択」の画面で「アップデート:アプリケーション&データベース」を選んでください。

データベースのパスは自動的に選択されます。通常、入力や変更の必要はありません。

DBSWINをネットワーク上で使う(クライアントがある)場合には、「インストール方法」で「ネットワーク」を選んでください。

「次へ」をクリックしてください。

③「インストール準備完了」の画面
インストール内容の設定を確認してください。設定はリストの右欄側をクリックすると編集することができます。

DBSWINのモジュール(口腔カメラ撮影など)は、全てがインストールされます。ここで、各モジュールを有効/無効にできます。モジュールの設定は、いつでもDBSWINの設定で変更できます。

「インストール実行」をクリックすると、アプリケーション、サーバー、ドライバなどの様々なコンポーネントがインストールされます。

④サーバーのアップデートが完了したら、クライアント一台毎のアップデートを行います。

クライアントでバージョン4.5.3をアップデートする前にDBSWINをアンインストールしてください。もし仮想ドライブをご使用の場合は、仮想ドライブを切断してください。バージョン5以上のアップデートは、上書きアップデートで行えます。

バージョン4.5.3のアップデートを行った後に不要なフォルダが残ります。これらは「C:¥Duerr」と旧バージョンのプログラムフォルダで、削除可能ですが、削除してよいかどうかが確実でない場合は、しなくても構いません。

2.8 既存のデータベースを使用する

既存のデータベースを使用する場合(例:サーバーの引越し)は、インストールを以下のように行ってください。

DBSWINと同じバージョンのデータベースだけがこのようにリンクされます。

○既存のデータベースを新しいパソコンに以前と同じパスへコピーしてください。

○DBSWINのインストールを開始してください。

○「インストール項目の選択」で「インストール: アプリケーション&データベース」を選んでください。

○「データベースのローカルパス」で既存のデータベースのフォルダを選んでください。

○「次へ」のボタンをクリックしてDBSWINのインストールを行ってください。

以前のインストールと現在のインストールが一致しない場合は、機能しません。この場合、サーバーマネージャの取扱説明書をご覧ください。

ユーザー登録フォームの印刷

ユーザー登録フォームをXMLファイルとして保存

ユーザー登録フォームを電子メールで送る

2.9 DBSWINをアクティブ化する

DBSWINはキーコードの入力でアクティブ化されます。これによりサーバーと全クライアントがアクティブ化します。キーコードは、ユーザー登録を済ませると、デュールデンタル社又は担当の代理店より発行されます。

DBSWINを非アクティブのまま使用する場合は、カルテ数30名分まで機能制限無しでお使いいただけます。31人目のカルテを作成すると、30日間の時間制限のカウントが始まります。時間制限以内は引き続きカルテ作成ができますが、期限を過ぎるとカルテの新規作成ができなくなります。

DBSWINをアクティブ化する時に追加料金がかかる場合があります。価格は最新のデュールデンタル価格表をご覧になるか、担当代理店にお尋ねください。

アクティブ化の手順

○「ヘルプ」メニュー内の「バージョン情報／ユーザー登録／アクティブ化」をクリックしてください。

○「ユーザー登録／アクティブ化」のボタンをクリックしてください。

○ユーザー登録フォームの該当する欄にローマ字で以下の順番でご記入ください。

1)「貴医院／施設名」と連絡先、及びお買い上げの代理店名と連絡先

2) 所有されている「ビスタスキャン」「ビスタカム」「ビスタプルーフ」等の製造番号をご記入ください。

3) フォーム下部分にある「注文するモジュール」でご購入希望のチェックボックスにチェックを入れてください。
カメラ撮影(ビスタカム、その他の口腔内カメラを使用される場合)、ビスタスキャン(ビスタスキャン全モデル使用)、DICOMなどのオプション機能をご用意しております。
注意:アクティブ化後には、ここでチェックを入れた機能のみがご使用可能となります。

DBSWINベーシック及びジョブモジュールに関しては、必須機能であるため最初からチェックが入っています。

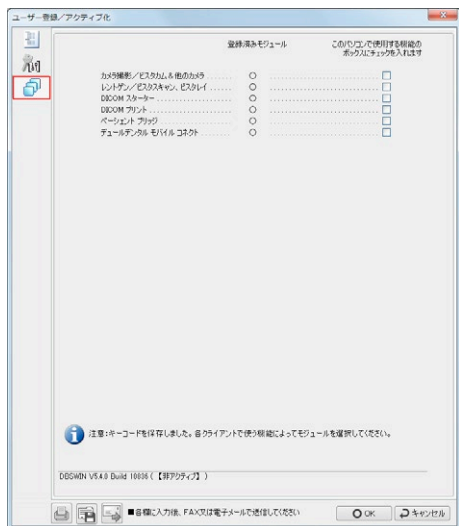
○登録フォームを電子メールかファックスでデュールデンタル社又は担当の代理店にご送信ください。フォーム左下のボタンで印刷と電子メール送信ができます。

○ユーザー登録が完了しましたら、内容を確認の上、キーコードを発行させていただきます。

アクティブ化のキーコードを入力

○鍵マークのタブをクリックし、キーコードを欄に記入してください。
キーコード全文をコピーし、欄に貼り付けて記入することもできます。

この作業はDBSWINが入っているどのパソコンからでも行うことができます。

○「OK」のボタンを押してください。

モジュールのローカル設定

○モジュールの設定タブで、使用する機能を選んでください。

モジュールのローカル設定は全てのクライアントで行うことが必要です。

○左側の列の「登録済みモジュール」に○がついている項目は使用可能です。右側のチェックボックスで項目を選択できます。

○「OK」をクリックして設定を保存し、ダイアログを閉じます。

○新しい設定を有効にするには
DBSWINを再起動してください。
アクティブ化が完了するとDBSWINキャプションバーの「非アクティブ」表示が消えます。

2.10 データバックアップ

DBSWINデータは、様々な理由(人為的ミス、ハードウェアやソフトウェアの障害、コンピュータウィルス)によって失われる可能性があります。そのため、必ず毎日データバックアップを行わなければなりません。

重要！バックアップは必ず以下のことを守って行ってください。バックアップの方法を誤り消失したデータは、復元できません！

●定期的に全データのフルバックアップを取り、さらに毎日、変更になった差分のバックアップを取ってください。

●最後に取ったバックアップを現在のデータで上書きすると、現在のデータが破損した場合に全てのデータを消失し、復元も不可能となってしまいます。そのため、月毎に取った完全バックアップは、他のデータを上書きしたり消したりせずに、必ずそのまま保管してください。

●通常のバックアップに加え、毎月一度、別のメディアで予備のバックアップを行ってください。そして、このメディアを他の安全な場所に保管してください。そうすれば事故や災害などの場合にも記録が消失せず、安心です。

●バックアップを行う前にすべてのクライアントでDBSWINを閉じてください。

●外付けのハードディスクを使用してバックアップを行う場合、速くて経済的であるという利点があります。しかし、ハードディスクは他のメディアと比べて破損の可能性が比較的高く、データ消失のリスクが存在することは否めません。そのため、外付けのハードディスクは、内蔵HDDが二つで、RAID 1(二重化、ミラーリング)を構成するタイプのみをお勧めします。

●バックアップは歯科医院など、ユーザー 様の責任において行っていただきます。お使いのバックアップシステムが確実に機能するかを定期的に確認してください。

このフォルダはインストールの際に決定します。VidimgとXrayimgのフォルダは、通常、¥DBSdata¥pr1¥　のサブフォルダです。どれかわからない場合は、DBSWINを起動し、メニューで「オプション」→「設定タブを表示」→「データベース設定」のボタンをクリックすると、3つのフォルダが表示されます。DBSWINインストールの初期設定では、全てのデータが¥DBSDataフォルダの中に存在します。データフォルダを確認するには、DBSWINを起動し、メニューで「オプション」→「設定タブを表示」→「データベース設定」のボタンをクリックすると、パスが表示されます。

DBSWINデータバックアップに必要なフォルダ

DBSData フォルダ
例：C:¥DBS¥DBSData

● 全データ：データベース、グローバル設定、レントゲン画像、カメラ等画像
注意：画像ファイルが属するフォルダがDBSDataフォルダ内ではなく、他の場所にある場合は、そのフォルダもバックアップを取ってください。

ローカル設定

● パソコン／サーバー／クライアント設定

C:¥ProgramData¥Duerr (Windows 8、Windows 7)
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Duerr (Windows XP)

データバックアップの方法

バックアップを行う際、毎回全てのデータを新しく複製する必要はありません。インストールされているプログラムのファイル(マイクロソフト「ワード」「エクセル」など)は通常変更されないため、長時間かけて毎日バックアップを取る必要はありません。しかし、毎日の全変更と新しいファイルは、いつでも復元可能にしておかなければなりません。お客様の状況に合わせて以下のバックアップの方法を組み合わせることで、理想的なデータバックアップが可能になります。

【フルバックアップ】
選択したドライブ、フォルダとファイルを全て一括で複製することです。

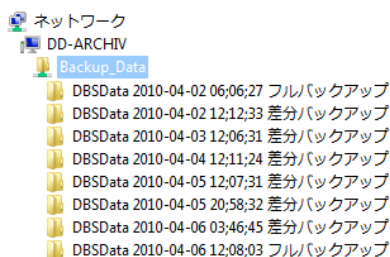
【差分バックアップ】

前回のフルバックアップ時からの変更／追加されたデータのみを複製することです。フルバックアップに比べて作業時間が短く、必要なメモリも少なくてすみます。

【増分バックアップ】

前回のフルバックアップ時からの変更／追加されたデータのみを複製。ただし次回増分バックアップを行う際は直前の増分バックアップの変更／追加分だけが複製されます。最も作業時間が短く、必要なメモリも最少ですみますが、復元作業に手間がかかります。

推奨バックアップの方策

一週間に一度のフルバックアップと毎日の差分バックアップを行うことをお勧めします。フルバックアップと差分バックアップを組み合わせることで、どの日のデータの状態でも復元することができます。この方法では、例えばコンピュータウイルスへの感染やデータの破損に数日経過してから気づいた場合でもデータの復元が可能です。ある日のデータ状態を復元したい場合、まず最後に取ったフルバックアップを復元してから、その日の差分バックアップを復元します。

フルバックアップと差分バックアップの組み合わせ例

バックアップのソフトウェアー

タスク ネーム
DBSWINバックアップ
頻度
毎日
☑ サブフォルダを含む
☑ 日時バックアップフォルダを作成
☑ ファイル属性論理
☑ ボリューム シャドウ コピー 使用
バックアップ タイプ
○ フル バックアップ　○ 増分バックアップ
◉ 差分バックアップ
フル バックアップ保管数　12
フル バックアップ実行頻度　7

最新のシャドウ　コピー機能搭載のバックアップソフトウェアをお勧めします。これでロックされてた状態のファイルも複製できます。

（バックアップソフトウェア設定例）

2.11 バックアップを復元する

バックアップソフトウェアで取ったバックアップを復元する前に、まずサーバーマネージャーでデータプールを使用不可能にすることが必要です。復元後、データプールを使用可能にしてください。サーバーマネージャーの取扱説明書をご覧ください。

3. 使用方法

3.1 基本的操作

このソフトウェアの操作は、ウインドウズの基本的操作と同じです。各機能についてご説明します。

【マウス】

「ヒント」	ボタンや項目上にマウスのポインターを置くと、使用方法などが表示されます。ご活用ください。
「クリック」	項目上でマウスの左ボタンを1回押して離します。 対象を選んだり、ボタンを押したり、メニューを選択するとき等に使います。
「ダブルクリック」	項目上でマウスの左ボタンを2回続けて押し、離します。 リストから対象を選択するときなどに使います。
「右クリック」	項目上でマウスの右ボタンを1回押して離します。 その項目で可能な操作のメニューが表示されます。
「ドラッグ＆ドロップ」	項目上でクリックしたまま離さずにマウスを動かして移動先に持って行き、離します。対象を移動させるときや、機能を実行するときに使います。
「クリック＆ドラッグ＆クリック」	対象をクリックし、マウスを移動して目的地でまたクリックします。線画を描く時などに使います。

【キーボード】

キーボードにより、入力とソフトウェアの操作ができます。欄内をクリックすると入力モードが自動的に切り替わります。例えば、「カタカナ氏名」欄をクリックするとカタカナ記入モードに変わり、「カルテ番号」欄をクリックすると英数字モードに切り替わります。また、欄によっては英数字のみ記入できる箇所（カルテ番号、生年月日）もあります。

【フットスイッチ】

デュールデンタル社製などのフットスイッチを使用して、カメラの撮影の操作を行うこともできます。デュールデンタル社製のフットスイッチでは、シリアルポート、USB又はゲームポートのタイプもご提供しております。

3.2 ログサーバーDBSLOG

DBSWIN起動時、記録のログファイルが作成されます。問題が起きた場合、技術者はこのファイルを参考にします。作業中は「ログサーバー」のタスクバーにアイコンが表示され、ダブルクリックすると開きます。ログサーバーは英語表示になっていますのでご了承ください。

ログサーバーDBSLOGはD'To:lbox(Dツールボックス)のソフトで無効にすることができます。

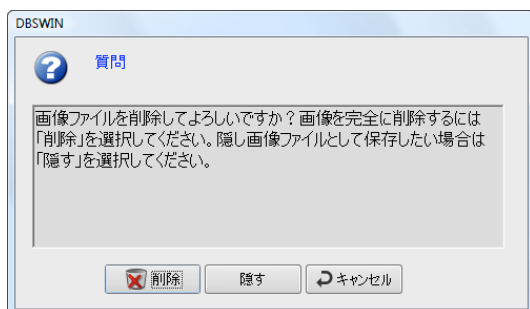
3.3 ユーザーログイン

DBSWINで「ユーザーログイン/ログオフを使用」と設定されている場合、スタートと終了の際に、ユーザーログインのダイアログが表示されます。ソフトウェアを使用するには、まずユーザーを選択し、パスワードを入力してログインしてください。パスワードを設定していないユーザーの場合(例えば「メインユーザー」)は、パスワードを入力しないままでログインできます。複数の医院データベースがある場合は、「医院名」で選択できます。ただ、他のデータベースはアクセスの権利がある場合のみ使用できます。ユーザーログインとユーザー管理はDBSWINの設定で行います(第7.1章参照)。

3.4 DBSWINの終了

「ファイル」メニューから「ログオフ/終了」を選択してください。DBSWINの設定で「DBSWIN終了時の確認メッセージ表示」か、「ユーザーログイン/ログオフを使用」を選んでいるかによって確認メッセージ又はログインダイアログが表示されます。ログインダイアログで「終了」のボタンをクリックするとDBSWINが終了します。

3.5 メッセージとダイアログ

データ入力などの際に、重要事項については、ダイアログボックスで変更の意思などを再確認されます。メッセージを読んでご希望の操作を選んでください。また、現在の作業についての情報や「警告」「エラーメッセージ」などをお知らせすることもあります。

3.6 メインウィンドウの構成要素

メインウィンドウは以下のような要素で構成されています。

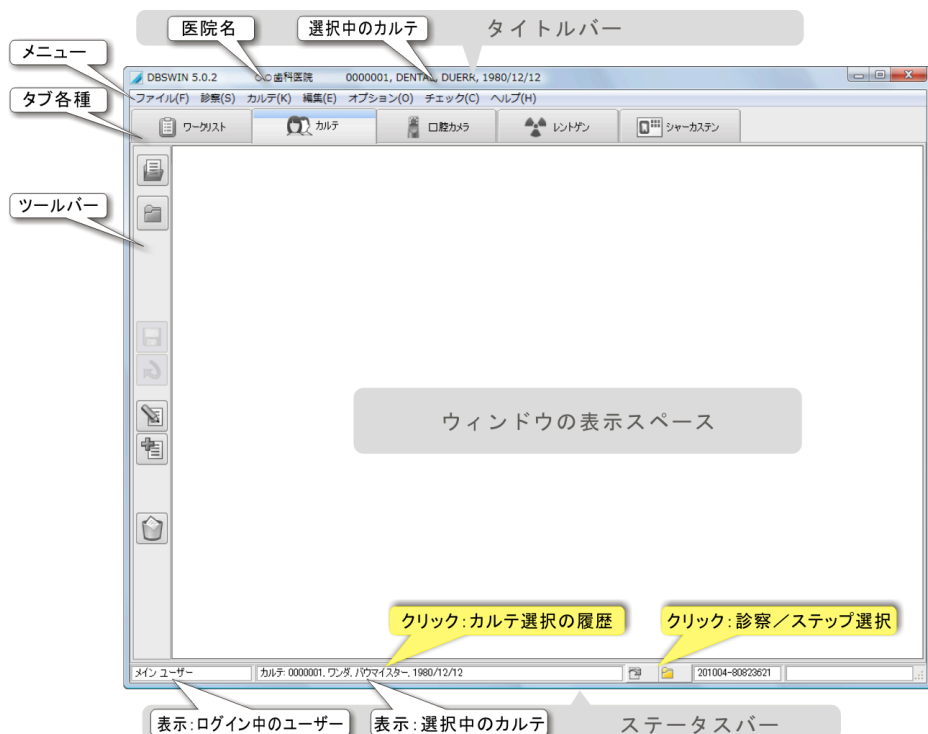
○ウィンドウ表示スペース:患者さんの情報や撮影画像が表示され、それらを編集、処理することもできます。

○タイトルバー:プログラムバージョンの情報、医院名(使用中のデータベース)、現在選択されているカルテ(カルテ番号、氏名、生年月日)が表示されます。

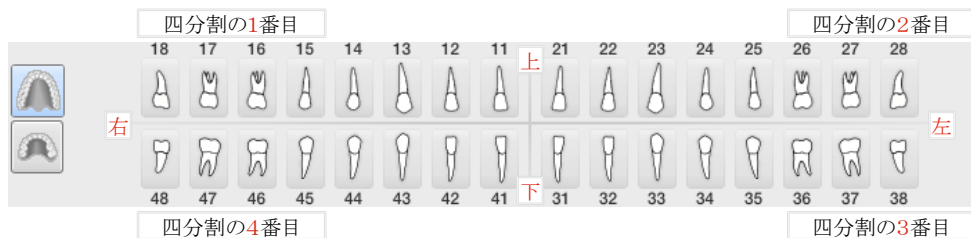
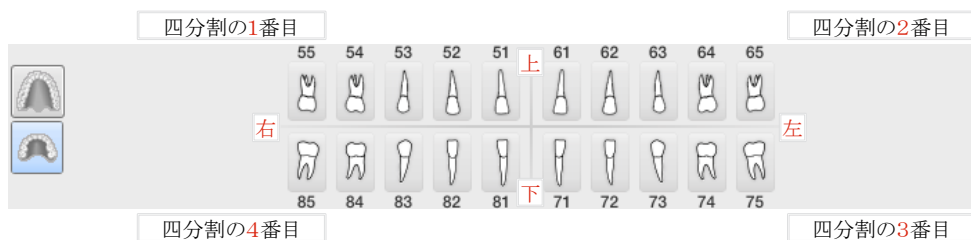
○ステータスバー:現在ログインしているユーザーと、選択中のカルテが表示されます。また、選択中のカルテ上をクリックすると、カルテ一覧の履歴を表示します。また「診察」や「DICOMステップ」のボタンもあります(これらはオプションで選択した場合に表示されます)。

○タブ:表示を切り替えます。例えばカルテ→レントゲン撮影→シャーカステンなど。タブはオプションの設定や、モジュールのアクティブ化状態によって、表示されるタブが決まります。

○ツールバー:各種作業を行うためのボタンが表示されます。

○メニュー:作業を行うための機能を種類ごとにまとめてあります。

3.7 歯の呼称システムについて

各歯を簡潔かつ正確に表現するためにDBSWINでは国際標準表記の歯番表(DIN EN ISO 3950, FDI)を採用しています。表中の歯は二桁の数字で表され、十の位は顎を四分割したうちの一つを表しています。四分の一の中で中心線(切歯から始まる)から順に番号がついています(例えば顎の右上の四分の一は「11番の切歯」から「18番の親知らず」までとなります)。必ず四分割したグループの番号が先にきて、その後に歯の番号が続きます。ですから11番は「じゅういち」ではなく「いち・いち」、21番は「に・いち」と呼びます。

【永久歯】

【乳歯】 四分割したグループを5～8で表す

3.8 撮影の作成日時

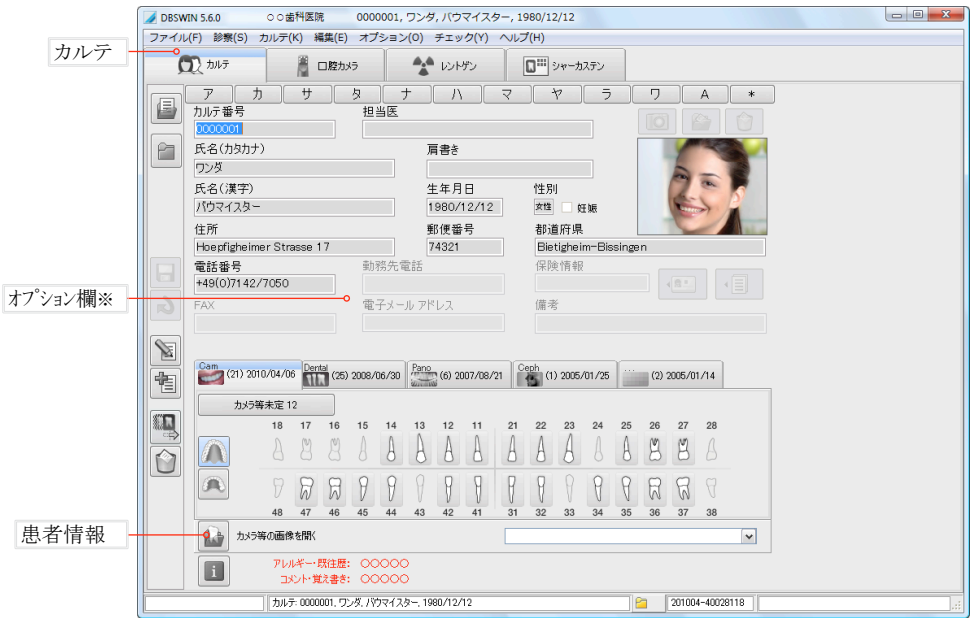
撮影画像にパソコンの日付と時間が刻印され、変更することができません。お使いのパソコンがインターネットに接続されている場合は、日付と時間は自動的にインターネットにより更新されますが、接続されていない場合、日付と時間が正確かどうかを常に確認してください。

4. カルテ

カルテで患者さんのデータを登録、変更、管理できます。カルテ画面の下部には患者さんの撮影記録が表示されます。新しく撮影を行う前に該当する患者さんのカルテを開くか、又は新規作成してください。

カルテ

オプション欄※

患者情報

※オプション欄の表示／非表示を設定できます。詳細は「**10.8 カルテのプロパティ**」をご覧ください。

ツールバーのボタン

カルテを開く: カルテ一覧を表示、カルテの検索と履歴の表示

カルテを閉じる: カルテ表示をクリア

保存: 新規作成又は変更を保存

キャンセル: 変更を元に戻す

編集 : カルテ内容を編集

新規作成: 新しいカルテを作成

スタンドアローンモード画像: デバイスのスタンドアローンモードで読み取った画像を患者カルテに加える

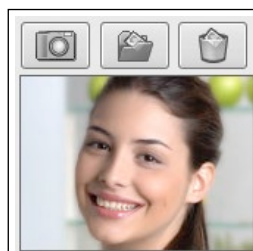
削除: カルテを削除

4.1 カルテの新規作

「新規作成」のボタンをクリックし、新しく患者さんを登録します。カルテ番号を入力するだけでも登録はできますが、取り違えを防ぐために氏名と生年月日も入力してください。PACSやDICOMデバイスをご使用の場合は、カルテ番号、氏名、生年月日を入力してください。

生年月日は西暦/月/日の順に数字だけを記入すると、斜線は自動的に表示されます。
例:19830723→1983/07/23

性別欄はクリックして男性か女性を表示させ、女性の場合は妊娠の有無もチェックしてください。

「患者情報」をクリックすると、アレルギーや既往症等の特記事項、及び医師や衛生士などのコメントを書き込むボックスが表示されます。ここに情報を書き込むと、設定によって最初の約1行がカルテの下部分に赤字で表示されます。感染症などの重要情報の場合、一行目には「コメント必読！」などの記入をし、クリックすると詳細情報が読めるようにしておくことをお勧めします。

ご希望に応じて、カルテに患者の顔写真を取り込むことができます。

「口腔カメラで撮影」のボタンで、接続されたカメラで顔を撮影し、取り込みます(カメラは「設定」で登録が必要)。

「画像ファイルを開く」のボタンで、画像ファイルを取り込めます。

「画像を消去」のボタンで、顔写真をクリアします。

「保存」のボタンをクリックすると、記入した患者データを保存します。

「キャンセル」のボタンをクリックすると、変更や記入を上書き保存せずに、元に戻します。

4.2 カルテの編集

「編集」のボタンをクリックすると、保存したカルテの変更や追加記入ができます。「保存」ボタン で編集した内容を保存できます。「キャンセル」ボタン をクリックすると、元に戻します。

4.3 患者情報の表示と編集

「患者情報」をクリックすると患者情報のボックスが表示されます。一度保存した内容を編集するには、開く前に「編集」ボタン をクリックしてください。編集を保存するには「OK」をクリックしてボックスを閉じてから「保存」ボタン を押してください。「キャンセル」ボタン をクリックすると、元に戻します。DBSWINの設定で選択すると、ここに記入した情報の一行目がカルテの下に赤い文字で表示されます。

4.4 カルテの検索

カルテ一覧の各欄に文字を入力すると項目ごとの検索ができます。

【カルテ番号で検索】

「カルテを開く」のボタンで表示されたカルテ一覧に直接カルテ番号を入力すると、自動的に検索が始まります。

番号の一部分を入力しただけで、候補が表示されます。例えば01を入力すると、01で始まるカルテ番号の患者さんが全て表示されます。また＊01と入力すると番号の途中に「01」を含む患者さんが全て表示されます。

氏名(カタカナ)やカルテ番号などの一部を入力して検索できます。*印の後に検索文字を入力します(例:*カトウ)。検索文字の前に必ず*印が入るようにしてください。入力すると同時に自動的に検索が始まります。

行の上をダブルクリックするか、又は行を選んで「OK」でカルテを開きます。

【10キーの活用】

キーボードの代わりに、マウスを使って10キーでカルテ番号を検索できます。10キーは、カルテ一覧の中のカルテ番号欄右にある▼ボタンをクリックすると表示されます。

【名前で検索】

インデックスタブでカタカナ、アルファベット順のいずれかで並べられたカルテ一覧が行ごとに表示されます。右にある ＊ のボタンで全カルテが表示されます。カルテ一覧を開いたままでも、インデックスタブをクリックして、各行の氏名一覧を表示することができます。

【カルテ履歴】

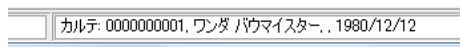
カルテを開くと履歴に記録が残ります。あるクライアントで撮影した画像ををDBSWINに保存すると、他のクライアントにも4時間は履歴が残るため、わざわざ検索して呼び出す必要がなく便利です。

カルテ下部の選択中カルテの表示の上をクリックすると履歴が開きます。

【カルテ履歴】

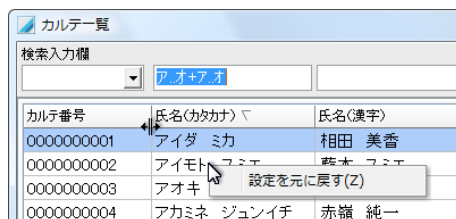
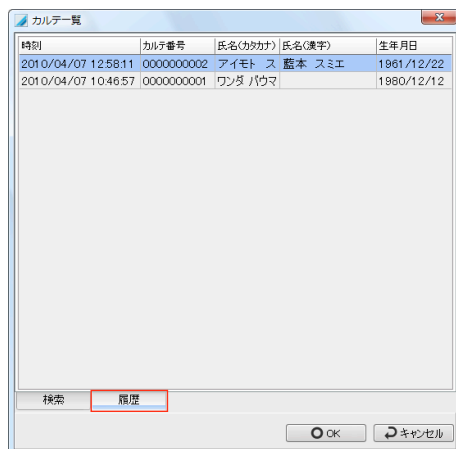
カルテを開くと履歴に記録が残ります。あるクライアントで撮影した画像をDBSWINに保存すると、他のクライアントにも4時間は履歴が残るため、わざわざ検索して呼び出す必要がなく便利です。

カルテ下部の選択中カルテの表示の上をクリックすると履歴が開きます。

カルテ: 0000000001, ワンダ バウマイスター, , 1980/12/12

【列幅の調整】

各欄の列の罫線上でマウスをクリックして引っ張ると列の幅を変更できます。右クリックすると「設定を元に戻す」というメニューが出ます。クリックすると初期設定に戻ります。

【個人情報について】

患者さんがユニットに座った時、その患者さんのカルテがモニター上に表示されているのが理想です。しかし作業の都合上、別の患者さんのカルテが見えてしまうことがあるかもしれません。そのようなことを防ぐために、上記の「列の調整」を使ってカルテ番号の欄を右に引き伸ばし、氏名や生年月日を隠して個人情報を守ることが可能です。

4.5 オプション欄

インストール直後には、オプション欄は表示されません。DBSWINの設定で表示の有無及び欄にタイトルをつける設定が可能です。「勤務先電話」「FAX」「メールアドレス」「備考」の4つの欄は、ご都合に応じて別のタイトル(例えば携帯番号等)がつけられます。詳しくは「**10.8 カルテのプロパティ**」をご覧ください。

4.6 カルテを閉じる

このボタンをクリックすると、開いているカルテを閉じます。これで、患者さんが選択されていない状態となります。この機能は、例えばモニター上の画像を他の患者さんの目にふれないようにするときに便利です。又はシャーカステンで患者さんごとではなく、全ての画像を表示したいときに使います。例えば画像をどこに保存したかわからなくなってしまった場合でも、「画像一覧」で全ての画像を表示し、日時や種類から該当する画像を見つけることができます。

4.7 カルテの削除

カルテを削除する場合は、対象のカルテを開いてから「削除」ボタンを押します。レントゲン画像は規定期間の保存が義務付けられていますので、保存期間が過ぎていない場合、完全に削除されず「凍結カルテ」となります。一度凍結カルテにしたものは、設定で再度表示することができます。詳しくは「**10.8 カルテのプロパティ**」をご覧ください。

4.8 各患者の撮影記録

カルテの下半分には各患者さんに属する撮影情報が表示されています。画像タイプのタブを選択し、歯番かリスト上で選ぶか又はボタンをクリックすると「シャーカステン」の「画像一覧」で表示します。詳細は下図をご覧ください。歯の呼称システムについて「**3.7 歯の呼称システムについて**」をご覧下さい。

4.9 患者データのインポート

カルテの患者データをレセプトソフトなどの他のプログラムからインポートすることができます。そのためには、他のプログラムがDBSWINとリンクしている必要があります。

他のプログラムからのインポート用の患者データを待っている間は、このボタンの周囲が赤くなり、有効となります。ボタンをクリックすると、受け取り中のデータをインポートします。この機能は、設定やリンクしたプログラムによって違ってきます。

4.10 健康保険カードリーダー

健康保険のICチップ付きカードが使用されている国や地域の場合、患者データをカードリーダーで読み取ることができます。詳細はカードリーダーの取り扱い説明書をご覧ください。

4.11 スタンドアローンモード画像

デバイスのスタンドアローンモードで読み取った画像を患者カルテに加えには、「スタンドアローンモード画像」のボタンをクリックして以下のダイアログを使用して作業を行います。

ダイアログにてデバイスを選択するとまだ患者カルテに加えていない画像が一覧で表示されます。画像は読み取りを行った日時の順に表示され、入力データ(カルテ番号や患者名)と合わせて表示されます。

画像を選択すると、DBSWINが一致するカルテを検索します。

ケース1：一致するカルテが見つかった場合

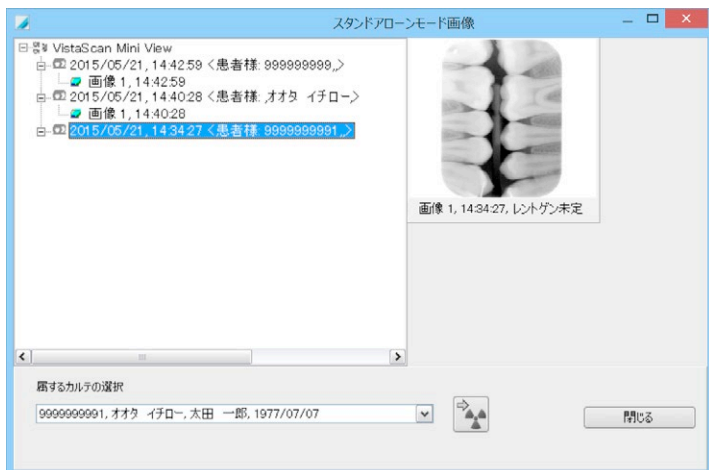
入力データと一致する患者カルテが1つの場合、そのカルテが下のドロップダウンボックスで表示されます。

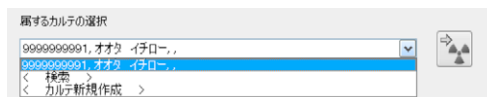
このボタンをクリックすると画像を「レントゲン」のタブに転送されます。画像処理を行ってから画像を保存してください。

ケース2：一致するカルテが見つからなかった場合

ドロップダウンリストより最適な方法を選択してください。

A) 該当する患者名をカルテより検索してください。

B) 新規カルテを作成してください。この場合、入力済のデータでカルテを新規作成します。カルテを作ったらドロップダウンリストから選択できるようになります。

ケース3：一致するカルテが複数見つかった場合

この場合複数の患者カルテがドロップダウンリストに表示されます。
リストより一致する患者カルテを選択するか、又は<検索>を選んで、一致するカルテを探してください。

一致するカルテ番号がドロップダウンリストに表示される場合は、カルテを選んで画像を加えてください。カルテデータが上書きされる場合がありますので、<新規作成>を選択しないでください(ケース1とケース3)。

ドロップダウンリストでカルテが選択されたら、 このボタンが有効になります。ボタンをクリックすると「レントゲン」のタブに転送されます。そして画像処理を行ってから画像を保存してください。

4.12 レントゲン撮影レポート

メニューの「オプション」又は「レントゲン撮影」から「レントゲン撮影レポート」を選択すると、撮影済みのレントゲンのレポートを表示し、印刷と保存することができます。

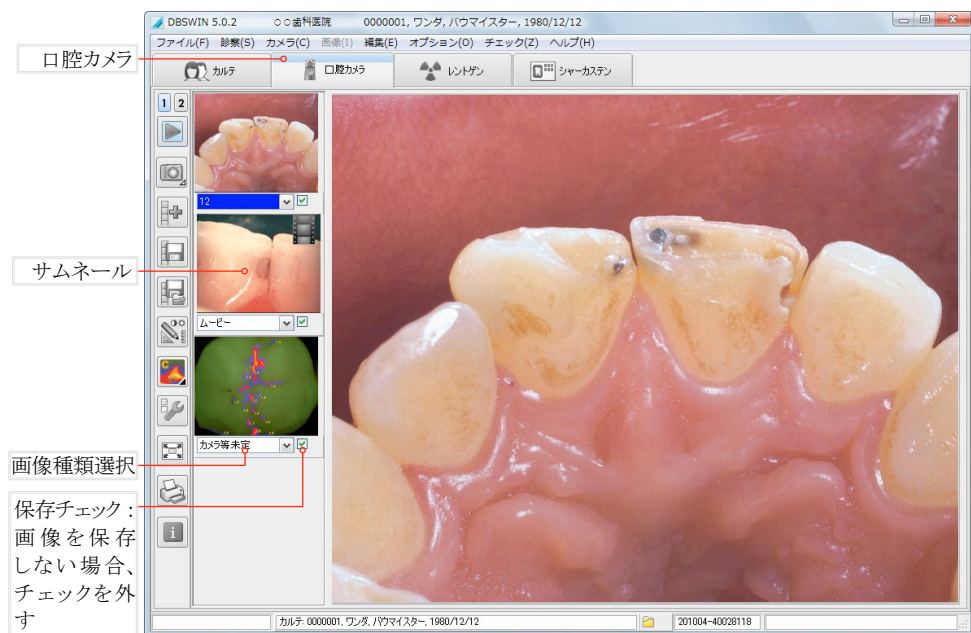
5. 口腔カメラ

パソコンにUSB等で接続されている口腔カメラなどの静止画像や動画を保存することができます。デュールデンタル製のカメラまたはWDMドライバのあるカメラが使用可能です。各画像は選択した患者カルテごとに整理・保管されます。「口腔カメラ」のタブを選択する前に、まずカメラの電源を入れ、パソコンに接続してください。又はデバイスを設置して正しい設定を行う必要があります。詳細は**「10.9 口腔カメラのプロパティ」**をご覧下さい。保存した撮影画像や動画は、後でシャーカステンで開くことができます。詳細は**「7. シャーカステン」**

口腔カメラ

サムネール

画像種類選択

保存チェック：画像を保存しない場合、チェックを外す

ツールバーのボタン

 カメラ入力の選択

  静止画像／ライブモード切り替え（スペース又はENTERキー）

  静止画撮影／動画撮影の切り替え

   静止画と動画撮影の開始・終了ボタン

  画像の保存：　チェックが入っている画像を保存

 画像の保存：画像を保存してからシャーカステンで開く

 画像処理ツールボックスの表示（詳細は**「8. 画像処理」**）

  プロフィラクシス／カリエス表示の切り替え（フルオレセンスカメラ画像のみ）

 カメラ設定：解像度、画像の調整、垂直平行方向の反射などの（詳細は**「10.9　口腔カメラのプロパティ」**）

 全画面表示（戻るには画面右上のボタンをクリック又は「Esc」キーを押す）

 印刷（詳細は**「7.7 印刷」**）

 画像情報：　画像種類などの入力ができます（詳細は**「7.8 画像情報」**）

5.1 撮影作業

カメラ撮影には以下のデバイスを使用します:

○ フットスイッチ

○ ビスタカム ハンドセットの手元スイッチ

○ マウス又はキーボード

【静止画撮影の手順】

①「口腔カメラ」のタブを選択してください。数秒後、カメラのライブ画像が自動的に表示されます。表示されない場合は「静止画像／ライブモード切り替え」のボタン をクリックしてください。

②カメラの入力 1 2 を選択します。

③オプションのフットスイッチ、又はカメラハンドセットの手元スイッチで、
静止画像とライブモードの切り替え及び撮影が簡単に行えます。
撮影はマウスとキーボードで行うこともできます: ライブモード中に「静止画像」ボタン をクリックします（「Enter」か「スペース」キーでも静止画像とライブの切り替えができます）。その後「撮影」ボタン をクリックします。対象の歯が撮影され、サムネールがリストに追加されます。

＊撮影済みの画像は縦に並んだ画像リストのサムネールに入ります。サムネール内の一つの画像をクリックすると現在のカメラ等の画像に替わって選択した画像が大きく表示されます。

④サムネール下の▼ボタンをクリックしてリストから画像種類を選択してください。

【動画撮影の手順】

①「口腔カメラ」のタブを選択してください。数秒後、カメラのライブ画像が自動的に表示されます。表示されない場合は「静止画像／ライブモード切り替え」のボタン をクリックしてください。

②カメラの入力 1 2 を選択します。

③オプションのフットスイッチ、又はカメラハンドセットの手元スイッチで、動画撮影の開始と終了をします。
撮影はマウスとキーボードで行うこともできます: ライブモード中に「動画撮影の開始」ボタン をクリックすると動画の撮影が始まり、撮影中は画面右上に赤い点が表示されます。動画撮影を終了するには、「動画撮影の終了」ボタン をクリックします。

＊撮影した動画は縦に並んだ画像リストのサムネールに入ります。動画を選ぶと大きい画面で表示され、左下のボタンで再生・停止ができます。 00:00:00/00:00:22

5.2 画像の保存

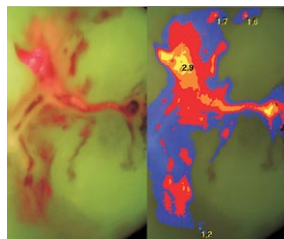
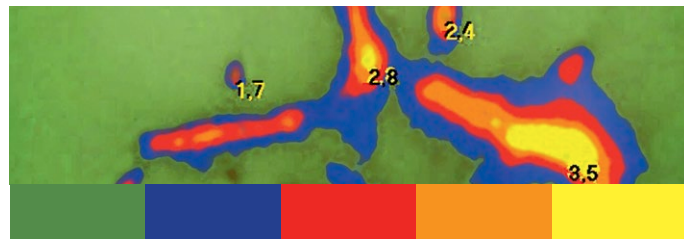
「画像の保存」のボタンをクリックすると、画像が現在開いているカルテに保存されます。保存したくない画像はチェックを外します。

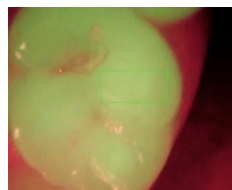
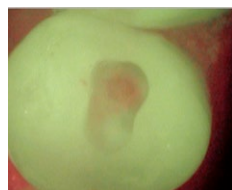
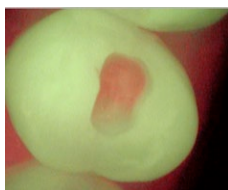
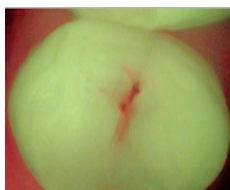
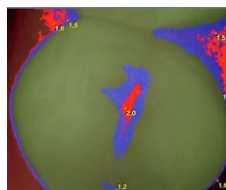
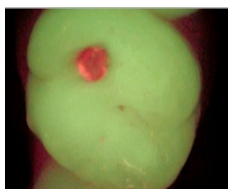
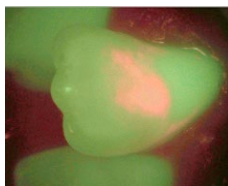
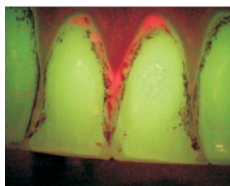
保存チェックボックスにチェックが入っている画像だけが保存されます。

5.3 フルオレセンス画像フィルタ

フルオレセンスカメラの撮影画像では、プラークやカリエスを可視化できます。さらにDBSWINソフトウェアを使うと、細菌代謝物活動性の光学的画像処理および数値解析ができるため、フィルタ機能でカリエスの状態を推測できます。カリエス部は緑～黄色に色分けされ、細菌代謝物の程度が数値で表示されます。以下の表を目安にカリエスの状態を推測できます。

フルオレセンスカメラ画像のプロフィラクシス表示(生画像、プラグ)/カリエス表示をボタンで切り替えます

このフィルタは、診断を決定づけるものではありません。あくまでカリエスの状態を推測する目安としてご活用ください。

プロフィラクシス表示(生画像、プラグ)/カリエス表示

0～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～2.5	2.5～3.0以上
健康なエナメル質	初期のエナメル質カリエス	深いエナメル質カリエス	象牙質のカリエス	深い象牙質カリエス

【サンプル画像】
1～2列目ではコンポジットフィリング下にできている二次カリエス、2枚目のフルオレセンスカメラで撮影した画像では、フィリングの下が桃色に微発光しています。フィリングを取り去ると、カリエスがはっきりと見えます。カリエス部分を削り取った後、フルオレセンスカメラで見ると、カリエスが除去されたことが確認できます。→

3列目の画像は咬合面の裂溝カリエス↓

右の画像はフルオレセンスカメラでプラークを撮影したものです。→

6. レントゲン

「レントゲン」では、レントゲン撮影の画像挿入デバイスを使って、撮影画像を読み取り保存します。デュールデンタル製のビスタスキャンやビスタレイまたは、TWAINドライバのある他社製の画像情報デバイスで画像の読み取りが可能です(複数のデバイス使用可能)。ご使用になる各デバイスを設定で登録する必要があります(ビスタスキャン／プラス／ペリオ→「ビスタスキャン」、ビスタスキャンミニ→「ビスタネット」、TWAINデバイス→「TWAINデバイス」詳細は**「10.6　モジュール設定」**をご覧ください。各画像は選択した患者カルテごとに整理・保管されます。撮影は原画像で保存され、画像処理機能を使っても、常に撮影の原画像に戻すことができます。保存した撮影画像は後でシャーカステンで開くことができます。詳細は**「7. シャーカステン」**をご覧ください。

6.1 画像挿入

「レントゲン」タブをクリックすると「レントゲン撮影」又はその前に「デバイス選択」のダイアログが表示されます。

レントゲン撮影の画像挿入を行うには「レントゲン撮影」のボタンをクリックします。

複数の画像情報デバイスが登録されている場合(例えばビスタスキャンプラスとTWAINのパノラマ装置)、「レントゲン撮影」のダイアログの前に「デバイス選択」のダイアログが表示されます。ご使用になるデバイスを選択して「接続」のボタンをクリックしてください。

「レントゲン撮影」のダイアログで、デンタル、パノラマ、セファロ、その他、又はシリーズ撮影**「6.7　シリーズ撮影」**の撮影タイプを選び、次に画像種類(各歯、バイトウイング、オルソなど)を選択します。複数の画像をスキャンする場合は、2枚目以降が「種類未定」になります。スキャン後、サムネールの下にあるボタンをクリックして種類を選択してください。この選択をしないと、画像は「種類未定」として分類され、検索が困難になるばかりでなく「撮影リポート」でも画像種類が未定となります。

また必要に応じてレントゲン装置を選択し、撮影パラメーターを記入してください。「患者さんのレントゲン記録」には、歯科医院に限らず最後にレントゲン撮影を受けた日を口頭や問診表などで尋ねて記入します。女性の場合は「妊娠」の有無をチェックしてください。

最後に、ご希望のスキャンモードを選択し、「読み取り」ボタンをクリックしてください。

レントゲン

撮影タイプの選択

歯番の選択

永久歯／乳歯の歯番

その他の画像種類の選択

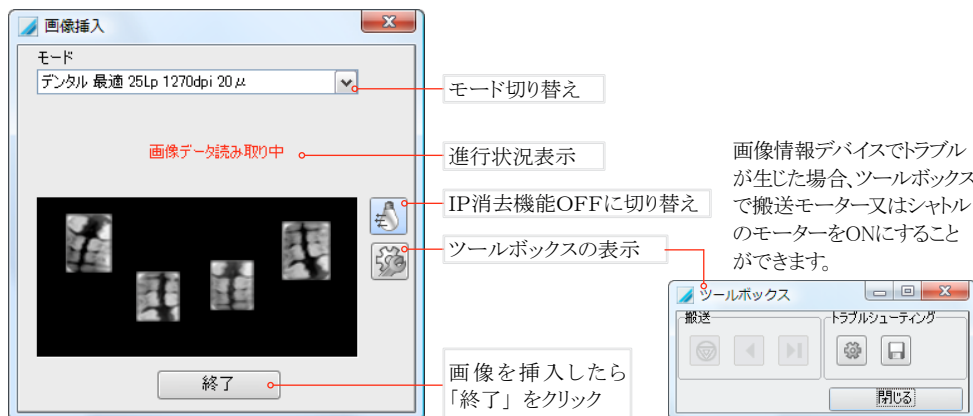
選択した画像種類／前回撮影の日付

モードの選択

画像の読み取りを開始

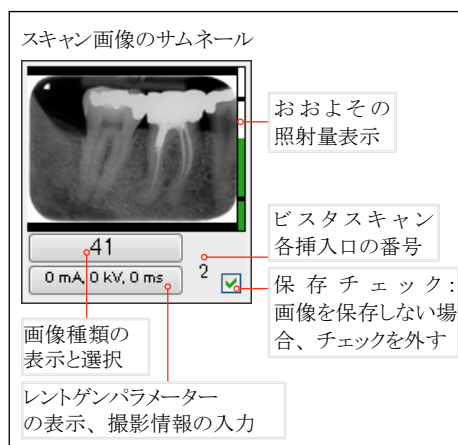
モードの設定は「ビスタスキャンのプロパティ」又は「VistaConfig」で設定します(7.66参照)。DBSWINで使用するレントゲン装置のパラメーターなどは「レントゲンのプロパティー」で設定します(7.64参照)。

読み取り

「読み取り」のボタンをクリックすると「画像挿入」ダイアログが表示され、スキャンの準備が完了します。画像挿入デバイスの取扱説明書に従って作業を行ってください。画像挿入中にこのウインドウで進行状況を見ることができます。

「デバイス準備完了／IP挿入待ち」が表示されれば、イメージングプレートをスキャンすることができます。詳細はビスタスキャン機種の取扱説明書をお読みください。

画像挿入のダイアログが開いたまま、さらにタイプの違う画像をスキャンしたい場合は、「モード」欄で別のモードを選択すればすぐにスキャンできます。

画像種類(バイトウイング、オクルーザルなど)の選択はスキャン後でもサムネールの下にあるボタンをクリックすれば選択できます。

画像挿入時、ビスタスキャンミニのディスプレイに表示される情報は、D'To:lbox(Dツールボックス)のソフトで設定ができます。

【照射量表示】

サムネールの右側に照射量を示すディスプレイがあります。ここにはレントゲン装置の適切な設定の参考とするためにおおよその照射量と画像挿入デバイスの設定が表示されます。設定値が適切であれば60%以上が緑色で表示されます(この表示はおおよそのものであり、各撮影によって変化します)。設定が高すぎたり低すぎたりすると赤く表示されます。

表示が下の黒い線以下でバーが赤くなった場合は、照射量を上げるか、画像挿入デバイスのHV値を上げます。

表示が上の黒い線以上でバーが赤くなった場合は、照射量を下げるか、画像挿入デバイスのHV値を下げます。

挿入が終わると、画像がウインドウに表示されます。画像挿入が全て終わったら「終了」のボタンをクリックし「画像挿入」のダイアログを閉じます。画像は、左側にサムネールとして縦一列に表示されます。サムネール上をクリックすると画像が大きく表示されます。各画像に画像処理を行って調整してからサムネールの下のボタンで画像種類を選びます。「画像の保存」ボタンをクリックして保存してください。

レントゲン

ツールバーのボタン

レントゲン撮影

画像の保存、撮影終了： 画像を保存してレントゲン撮影モードを終了

画像の保存、撮影終了、シャーカステンで画像を開く

画像処理ツールボックスの表示（詳細は「**8. 画像処理**」）

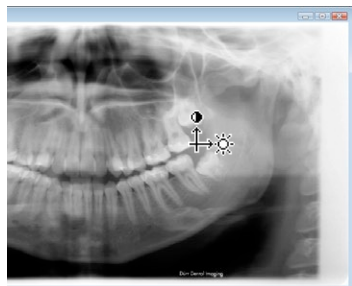
全画面表示（戻るには画面右上のボタンをクリック又は「Esc」キー）

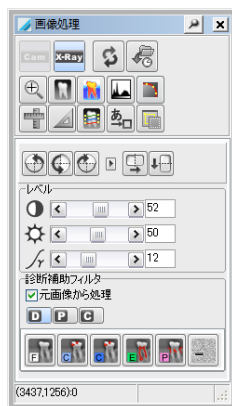
印刷（詳細は「**7.7 印刷**」）

画像情報： 画像種類などの入力ができます（詳細は「**7.8 画像情報**」）

画像の回転

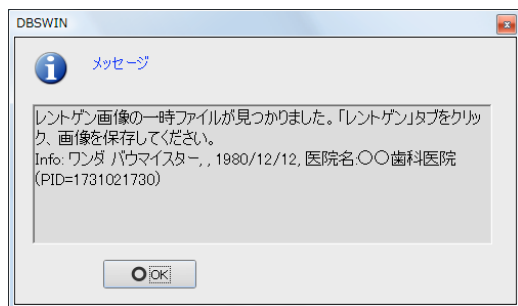
6.2 画像処理

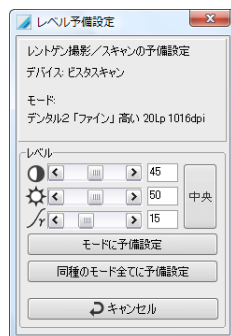
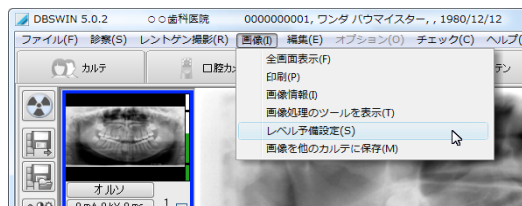
画像挿入後、自動的に画像処理のツールボックスが開きます。コントラスト、明るさ、ガンマ補正や画像の向きを調整してから保存してください。

【コントラストと明るさを変える】
画像上で左クリックしたままでマウスを縦に動かすとコントラスト、横に動かすと明るさ、斜めに動かすと両方を変えることができます。また「画像処理」のボックスでもレベルの調整ができます。

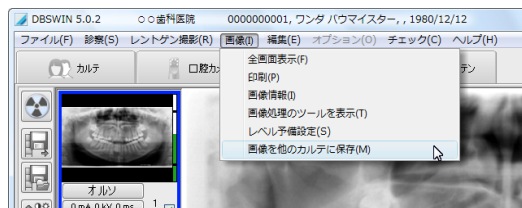
【画像の回転】
デンタル画像の場合は特に画像が正しい向きになるように回転させてください。

6.3 画像の保存

「画像の保存」のボタンをクリックすると、画像が現在開いているカルテに保存されます。保存したくない画像はチェックを外します。「レントゲン」で画像を挿入後は、その画像を保存してからでないと別のタブ／モードに切り替えることはできません。

保存チェックボックスにチェックが入っている画像だけが保存されます。

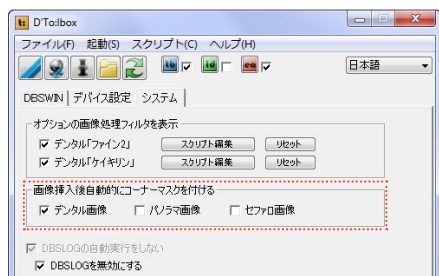
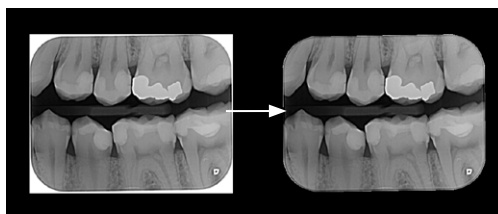
画像読み取り後、保存前にパソコンがフリーズしたり電源が突然切れたりしても、画像データは消失しません。パソコンを再起動し、DBSWINを開いてください。ここで、「レントゲン画像の一時ファイルが見つかりました。レントゲンタブをクリック、画像を保存してください。」というメッセージが表示されます。メッセージの指示にしたがい、画像をそれが属する患者カルテに保存してください。

6.4 レベル予備設定

モードごとに明るさ、コントラストとガンマ補正の予備設定を行うと、画像はスキャン後に自動的にこのレベルになります。 「レントゲン」または「シャーカステン」のメニューで「画像ファイル」→「レベル予備設定」のダイアログを開きます 。明るさ･コントラスト･ガンマ補正のレベルを好みで設定し、モードに予備設定します。設定には、今回使用したモードか、同種のモード（例えば全デンタルのモード）が保存できます。ガンマ補正は少し抑え気味（12～16）にした方が一般的に良い画像を得ることができます。

6.5 スキャンした画像を他のカルテに保存

スキャンした画像が現在選択しているカルテではなく、他の患者さんに属する場合、他のカルテに保存することができます。目的の画像をサムネール上でクリックして選び、メニューの「画像」から「画像を他のカルテに保存」を選びます。患者カルテの一覧が表示されますので、該当する患者さんを検索して選んでください。

他の患者に属する画像を現在の患者カルテに一時的に保存し、後でシャーカステンで開いて、正しい患者カルテに保存しなおせます。

6.6 自動的にコーナーマスクを付ける

挿入した画像の角と周囲には、自動的に黒いマスクを付けることができます。

画像挿入後自動的にコーナーマスクを付けるにはD'To:lbox（Dツールボックス）のソフトで画像種類によって有効／無効にすることができます。

6.7 シリーズ撮影

「レントゲン撮影」のボタンで下図のダイアログが表示されます。ここで「シリーズ撮影」のタブを選んでください。

【シリーズ撮影のテンプレートを選択】

使用する撮影のテンプレートをリストから選びます。ここでは、まだ完了していないシリーズ撮影を選び、続行することもできます。名称の最初にあるシンボルマークで、新しいシリーズ撮影か、以前の未完成のシリーズ撮影の続行かがわかります。

新しいシリーズ撮影を行う

シリーズ撮影を続行する

レントゲン撮影: ビスタスキャン

Dental デンタル | Pano パノラマ | Ceph セファロ | ... その他 | シリーズ撮影

名称	行動	更新日時	変更者
スティタス20枚	新しいシリーズ撮影を行う	2009/09/07 18:13:58	Duerr Dental
スティタス21枚	新しいシリーズ撮影を行う	2009/09/07 18:24:28	Duerr Dental
バイトウィング	新しいシリーズ撮影を行う	2009/08/24 15:08:03	Duerr Dental
スティタス14枚 2010/04...	シリーズ撮影を続行する	2010/04/11 21:01:37	メイン ユーザー

お気に入り　すべてのテンプレートを表示

記載

プレビュー

23 前回の撮影: 2007/05/11

レントゲン装置: デンタル装置

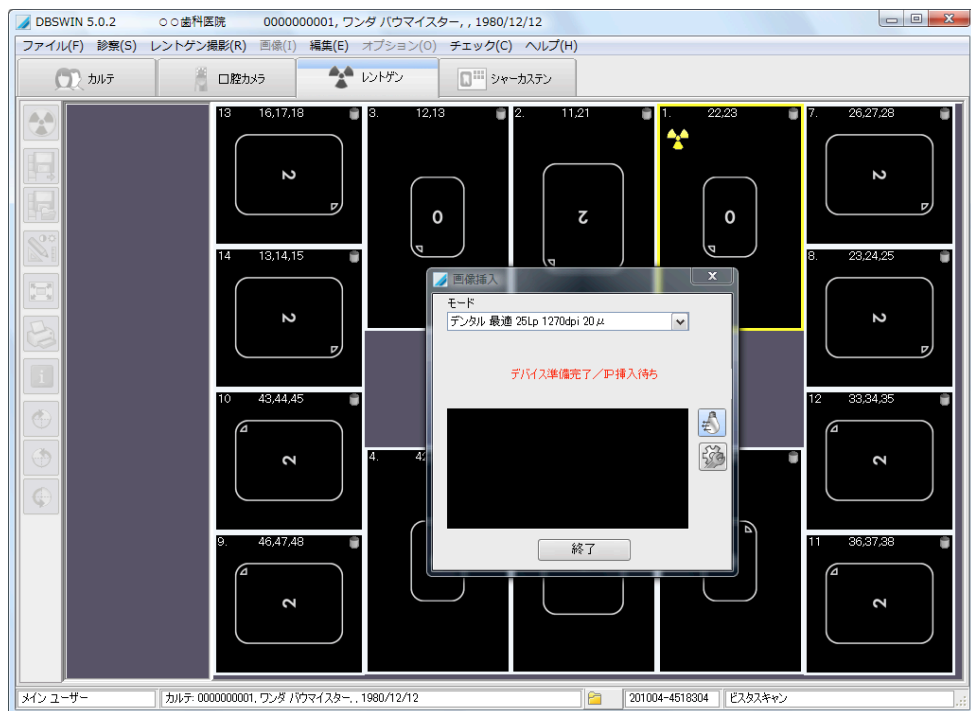
モード: デンタル 最適 25Lp 1270dpi 20 µ

撮影パラメーター: 電流 mA: 0　電圧 kV: 0　照射時間 ms: 0

患者さんのレントゲン記録: 前回のレントゲン 2010/04/11　妊娠

読み取り　キャンセル

読み取り

モードなどを選択してください(詳細は**「6.1 画像挿入」**)。「読み取り」のボタンをクリックし、シリーズ撮影の画像挿入を以下のように行ってください。

フレームは撮影順どおりに番号が付けられています。

次に読み取られる画像が入るフレームは黄色で表示

撮影順の表示

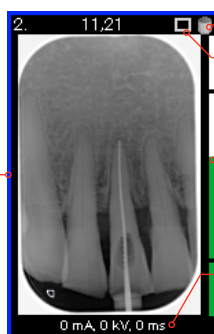
ボタン： 画像挿入を再開
一度中断したシリーズ撮影を続行

撮影媒体とサイズ、向きの表示

ボタン：この撮影を行わない

フレームの画像種類、表示範囲

◁マークを咬合面の方向にして撮影します(診断部分は隠れません)。◁マークと歯の解剖学的構造で四分割を確認できます。

アクティブな画像のフレームは青色で表示
前回読み取った画像のフレームはアクティブになります
画像フレームをクリックでアクティブにします

ボタン： 画像をテンプレートから消去／再度撮影する

ボタン：全画面表示

おおよその照射量表示

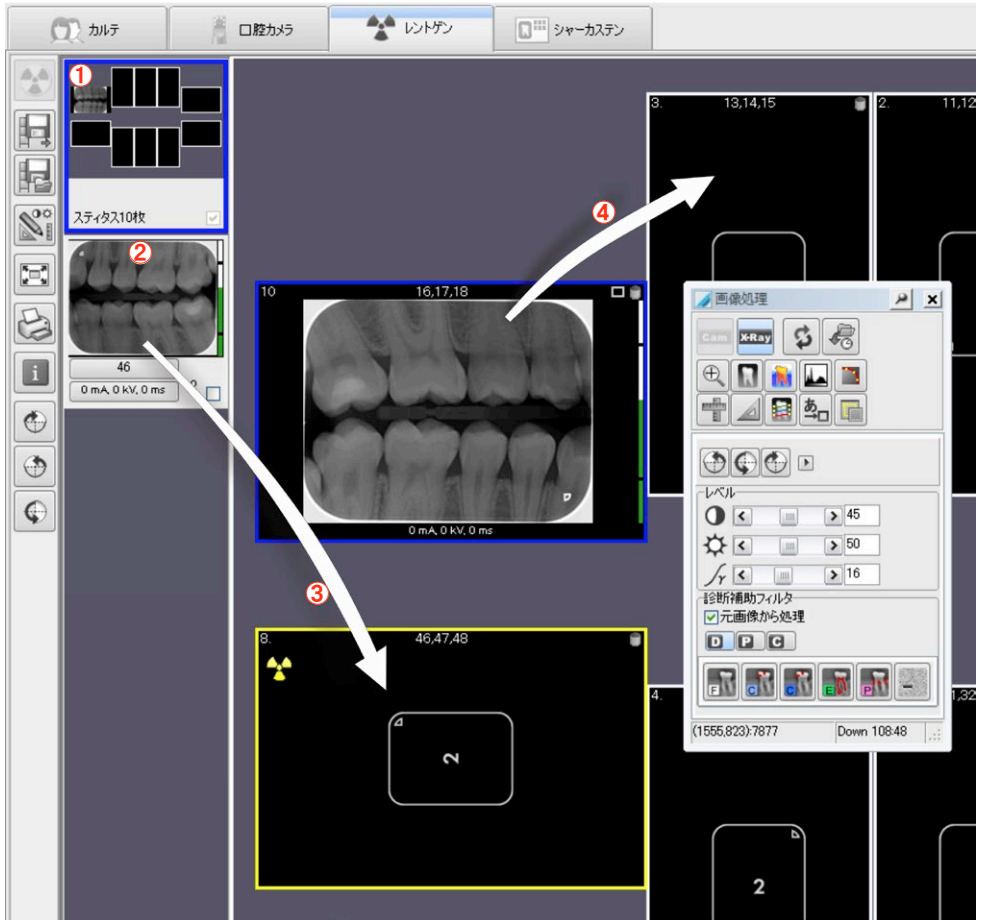
レントゲンパラメーターの表示、撮影情報の入力ボタン

【下図の説明】

①シリーズ撮影はサムネールの列にプレビューとして表示されます。

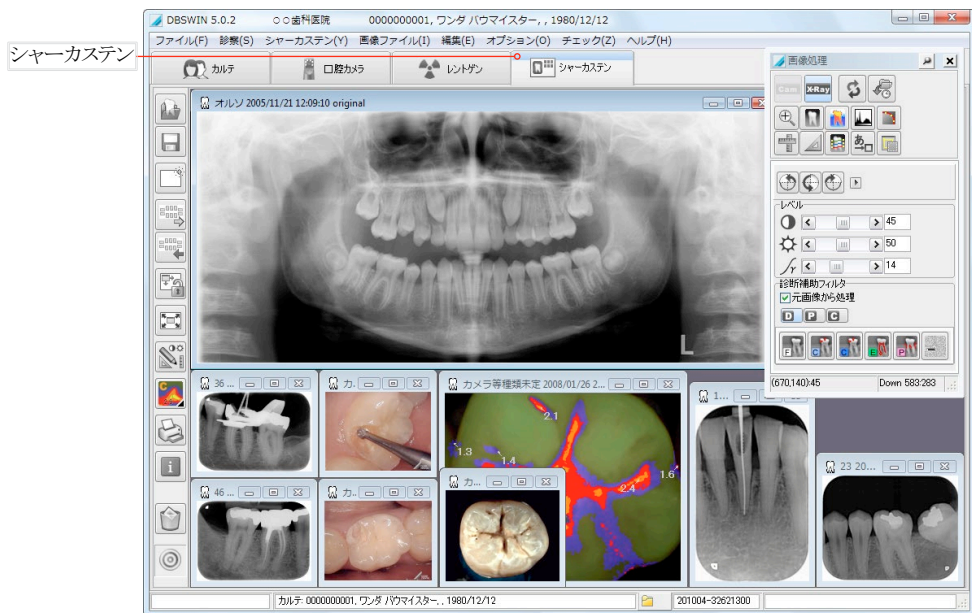
②シリーズ撮影中、このボタン で削除された画像が単一画像としてサムネールの列に追加されます。

③サムネールの列の単一画像をシリーズ撮影のフレームに移動できます。

④シリーズ撮影の画像はあるフレームから別のフレームに移動できます。また、画像を単一画像として保存したい場合は、フレームからサムネールの列に移動することもできます。

前の章でご説明したように画像のレベルと向きを必要に応じて調整し、保存してください。詳しくは「**6.2 画像処理**」と「**6.3 画像の保存**」をご覧ください。

7. シャーカステン

シャーカステンでは、画像を開いて見たり、画像処理や画像のインポート／エクスポート、印刷などができます。グループ又はテンプレートで複数の画像を並べて表示することもできます。
カルテである患者さんを選び、シャーカステンのタブをクリックすると、その患者さんに属する画像が表示されます。特定のカルテを選択せずにシャーカステンのタブをクリックすると、データベースにある全ての画像が表示されます。

シャーカステン

ツールバーのボタン

画像を開く:
画像一覧の表示

画像の保存:
選択した画像の変更を保存

クリアー:
すべての画像を閉じます

グループ／テンプレートを開く

グループ／テンプレートの保存

画像の固定／移動の切り替え

全画面表示（戻るには画面左上のボタンをクリック又は「Esc」キーを押す）

画像処理ツールボックスの表示
（詳細は「**8. 画像処理**」）

プロフィラクシス／カリエス表示
モード切り替え
（ビスタプルーフの撮影画像のみ）

印刷（詳細は「**7.7 印刷**」）

画像情報：　画像種類などの入力ができます（詳細は「**7.8 画像情報**」）

画像の削除

7.1 画像を開く

「画像を開く」をクリックすると「画像一覧」が表示されます。

【下図の説明】

①画像のサムネール上をダブルクリックすると、画像が大きく表示されます(画像一覧は閉じる)。サムネールをドラッグ&ドロップでシャーカステン上に落とすと、ご希望の場所で小さいサイズで表示されます(画像一覧が再度開く)。他の画像フレームに落とすと、代わりにそのフレームで表示されます。グループと診察を開くには、ツリー選択の中からドラッグ&ドロップしてシャーカステン上に落とします。

②ツリー選択

- 全画像 ―― 全ての画像サムネールを表示
- 絞込み ―― 画像タイプの選択と、検索／絞り込み設定に合った画像を表示
- ピンボード ―― ピンボードに入れた画像を表示
- グループ ―― 画像グループの選択
- 診察 ―― 診察画像の選択(現在アクティブな診察は黄色いシンボル、詳細は「**9. 診察**」)

③サムネール下のボタン

画像を日付又はタイプと種類で並べ替える

「検索／絞り込み」ダイアログで、絞り込みタブで表示する画像のタイプ／種類、作成期間などの条件を選択

表示される画像タイプ／種類の選択
(口腔カメラ、デンタル、パノラマ、セファロ、その他)

④別のクライアントで新しく読み取った画像サムネールを表示するには、右クリックして「更新」を選択

⑤サムネール下の欄をクリックすると画像情報を表示

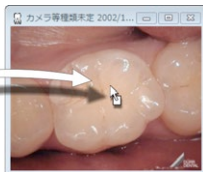
⑥タイトルバーに画像種類、作成日、及び源「original(DBSWIN読み取り画像)」、「copy(他画像の複製)」、「import(インポートした画像)」を表示

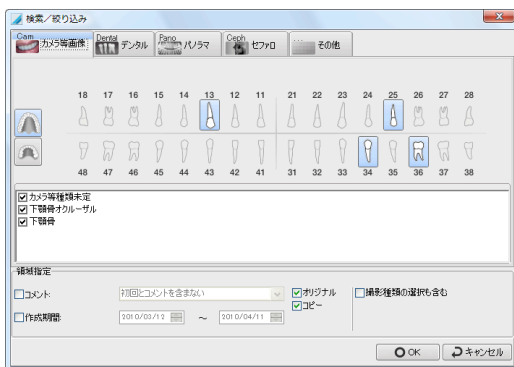
⑦開いている画像のサムネール下のテキストの色が変わる

【複数の画像を同時に開く】①開きたい画像にチェックを入れる(Ctrl キーを押しながらサムネール上をクリック) ②シャーカステン上に移動(Ctrl キーを押しながら、クリックしたままシャーカステンに移動)

画像を開く時の拡大率はD'To:lbox(Dツールボックス)のソフトで設定ができます。

「画像の固定」ボタンが押されている時には、画像フレームが固定され、フレームを移動することができません。すでにあるフレームだけに画像を入れることができます。

【画像フレームに表示されている画像を入れ替える】

画像上をクリックしたままマウスを移動させるとフレームに表示されている画像を入れ替えることができます。この作業を行ってもデータベースに保存された画像に影響はありません。シャーカステン上で画像をご都合に合わせて整理する際に使います。

画像の【検索／絞り込み】
ここで、絞り込みタブで表示する画像のタイプ／種類、作成期間などのさらに細かい条件を選択します。
例えば、歯の番号や各画像の種類、作成期間などでも絞り込めます。存在する画像種類だけをダイアログで選択できます。ある画像種類を表示したくない場合は、クリックして選択を解除してください。絞り込み設定を解除するには、行った選択を戻してください。

【保存状態の選択】

画像を保存した時の状態を「画像ファイル」メニューの「保存状態の選択」から選択できます。詳細は「**8. 画像処理**」をご覧ください。

7.2 画像の保存

「保存」のボタンをクリックすると選択した画像と画像情報の変更を保存します。

7.3 クリア

「クリア」のボタンをクリックすると、シャーカステンで開いている画像を全て閉じます。

グループ又はテンプレートを開いていた場合は、グループとテンプレートの編集モードを終了します。

7.4 グループとテンプレート

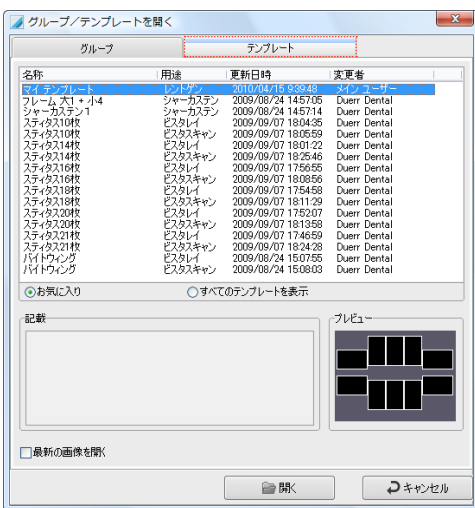
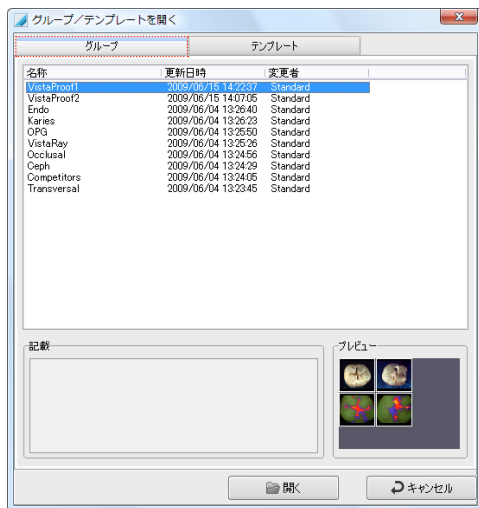
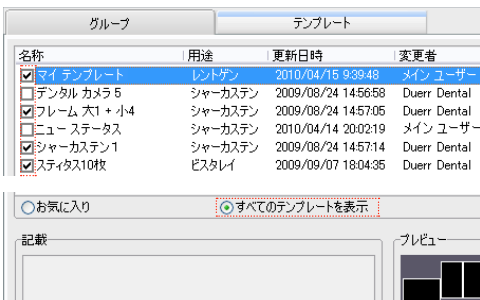
ここではグループとテンプレートの目的と使い方についてご説明します。

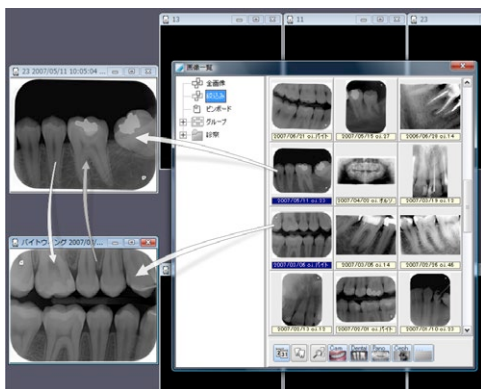
【グループ】とは、シャーカステン上の画像とその並び方をそのまま現在の患者さんに保存したものです。保存したグループは、それが属する患者さんの「画像一覧」内ツリー選択のグループに追加されます。

【テンプレート】とは、画像フレームの並び方と属する画像種類（画像なしのフレーム）のことです。使い方は:
1. 画像挿入デバイスでシリーズ撮影を行う「**6.7 シリーズ撮影**」。
2. シャーカステンである特定の配列の空フレームに手動で画像を挿入する
3. テンプレートを開くダイアログで「最新の画像を開く」にチェックを入れると、現在の患者さんの最新画像が同時に開きます。

「グループ／テンプレートを開く」: 表示されるダイアログからご希望に応じてグループかテンプレートのタブを選択してください。リストから項目を選び、「開く」のボタンをクリックしてください。シャーカステンがクリアされ、画像又は空フレームが開き固定されます。フレームを移動したい場合は「画像の固定／移動の切り替え」のボタンをクリックしてください。

「グループを保存（画像とその並び方を保存）」表示されるダイアログでグループのタブを選んでください。名称と記載欄のコメントなどを記入し、保存してください。
「テンプレートを保存（画像種類とフレームの並び方を保存）」表示されるダイアログでテンプレートのタブを選んでください。名称と記載欄のコメントなどを記入し、保存してください。

グループ又はテンプレートを開くと編集モードに入ります。編集モードを終了するには「クリア」のボタンをクリックしてください。

【テンプレートのお気に入り表示選択】
テンプレートのダイアログ表示は初期設定でお気に入りだけが表示されるようになっています。「すべてのテンプレートを表示」を選び、お気に入りのテンプレートにチェックを入れてください。

【フレームに手動で画像を入れる】
フレーム内に画像を入れるには、「画像一覧」のサムネールをドラッッグ&ドロップでフレーム内に落とします。フレーム間で画像を移動させる場合も同様に行います。

【最新の画像を開く】
テンプレートを開く際にダイアログで「最新の画像を開く」にチェックを入れると患者さんの最新の画像を同時に開きます。フレームの画像種類が決定しているもの(例えば「11」又は「バイトウイング」などの歯番や種類が上部に記載されている)のみに有効です。

【シリーズ撮影のテンプレート】
ソフトウェアには標準的な全ステイタス撮影テンプレートが入っています。新しいテンプレートを加えたり、既存のテンプレートを変更することもできます。

ステータス10枚

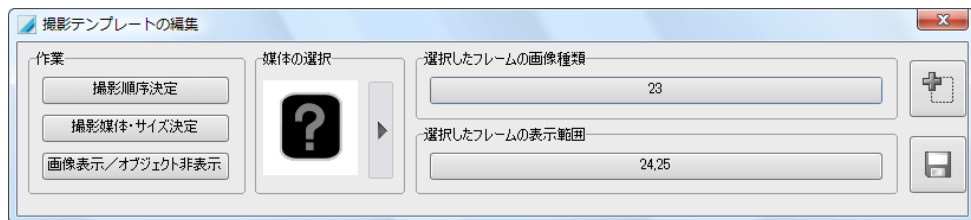
ステータス14枚

ステータス16枚

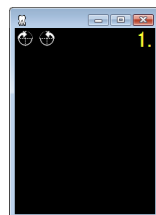
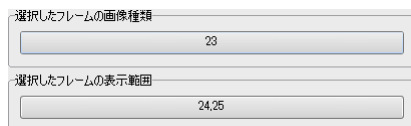
ステータス18枚

ステータス20枚

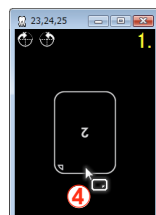
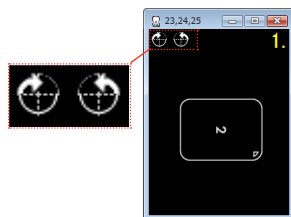
ステータス21枚

【撮影テンプレート作成／編集】
撮影テンプレートを作るには、既存のテンプレートを開き編集、画像数枚を開
いて並べ編集、空のシャーカステンで初めから作成、などの方法があります。
「シャーカステン」のメニューから「撮影テンプレート作成／編集」を選択すると「撮影テンプレートの編集」モード
に入り、下図のダイアログが表示されます。

手順

○まず全てのフレームをお好きな場所に置き、ご希望のサイズに調整してレイアウトを決めてください。

フレームを追加するには、「フレーム追加」のボタンをクリックします。

○各フレーム毎に画像種類と表示範囲を選択してください。設定はフレームの上部タイトルに表示されます。

○「撮影媒体・サイズ決定」のボタンをクリックして、各フレーム毎に撮影媒体とサイズを選択してください。設定はフレーム中央に表示されます。

23,24,25
1.
④

撮影テンプレートの編集
作業
撮影順序決定
① 撮影媒体・サイズ決定
画像表示／オブジェクト非表示
媒体の選択
②
撮影媒体(IPかCCD)を決めるにはフレームに内をクリックするか、Ctrlキーを押しながらマウスをフレーム上に移動してください。

○フレーム左上のボタンで媒体の向きを決定してください。中央の表示が回転します。

○「撮影順序決定」のボタンをクリックして各フレームに番号を付けてください。画像をクリックした順番に番号が付けられます。又は「Ctrl」キーを押しながらマウスをフレーム上に希望の順番に動かすことで番号がふられます。マウスのポインタ表示が作業中に変わります(未定の場合は「未」、又は順番の数字が表示)。設定は右上に黄色で表示されます。

【撮影テンプレートを保存】

ダイアログ右下の「撮影テンプレート保存」ボタンをクリックすると、テンプレート保存のダイアログが表示されますので、名称と記載欄のコメントなどを記入し、保存します。

【グループ/テンプレートの削除】

グループやテンプレートを削除するには「シャーカステン」のメニューから「グループ/テンプレートの削除」を選び、「グループ(又はテンプレート)削除」をクリックします。表示されるダイアログの名称リストから削除したい項目を選び「削除」ボタンをクリックします。画像データは、グループを削除しても消えることはありません。

7.5 フレーム固定

「フレーム固定」にボタンをクリックすると、画像フレームの位置をシャーカステン上で固定します。また動かしたい場合は、もう一度ボタンを押せば解除されます。テンプレート又はグループを開くと、自動的にフレームが固定されます。

7.6 全画面表示

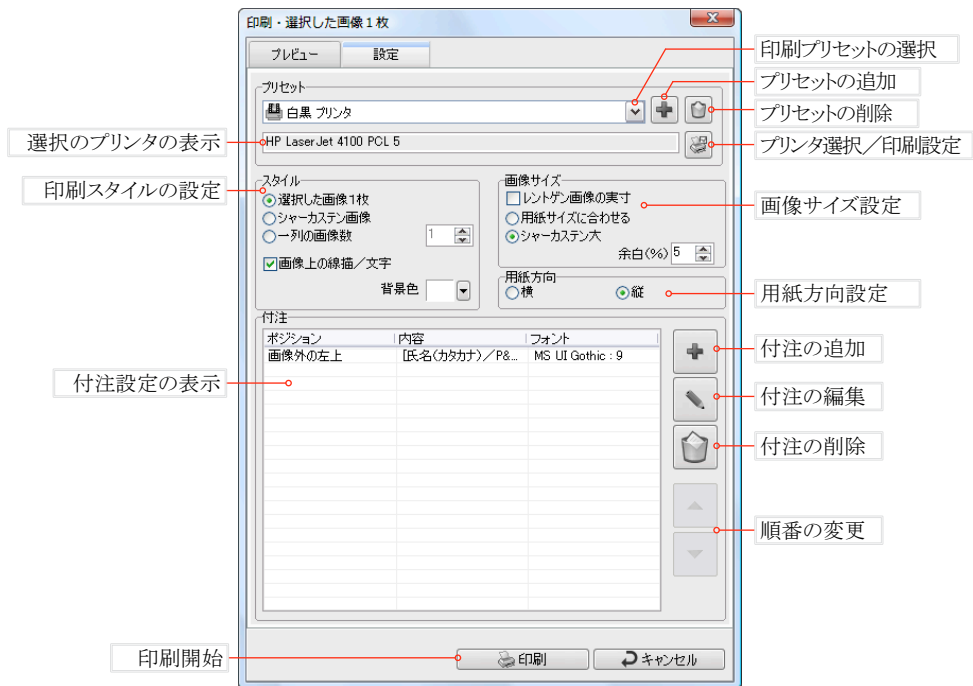
「全画面表示」のボタンをクリックすると、現在選択されている画像をモニター画面のサイズで表示します。全画面表示のときに、画面上をダブルクリックすると画像処理のツールが表示され、コントラストや明るさを変えるなどの作業ができます。元の表示に戻るには画面右上のボタンをクリックするか又は「Esc」キーを押してください。

7.7 印刷

モニター上で開いている画像をご希望の設定で印刷できます。

「印刷」ボタンをクリックすると印刷ダイアログが表示されます。設定を行い、「印刷」ボタンをクリックすると印刷が開始します。

印刷・選択した画像１枚

印刷プリセットの選択
プリセットの追加
プリセットの削除
選択のプリンタの表示
プリンタ選択／印刷設定
印刷スタイルの設定
画像サイズ設定
用紙方向設定
付注の追加
付注設定の表示
付注の編集
付注の削除
順番の変更
印刷開始

印刷の設定

【プリセット】
印刷に関する設定（選択したプリンタ、印刷スタイル、画像サイズ、付注）を名前を付けてプリセットとして保存することができます。この機能で、目的に合った印刷設定の組み合わせを保存することが可能です。右上のボタンで設定してください。

【スタイル】
選択した画像1枚だけか、複数の画像がシャーカステン上に表示されたままで印刷するか、またはシャーカステンで開いている複数の画像（左上から右へ）を並べて印刷するかを選択します。

【画像サイズ】
「レントゲン画像の実寸」1対1の等倍率で印刷されます（レントゲン画像のみ）。
「用紙サイズに合わせる」用紙サイズいっぱいに1枚、または複数の画像を配置して印刷します。
「シャーカステン大」設定した余白を残して画像を配置します。
「余白」周囲の余白を画像サイズに対する割合（%）で入力します。

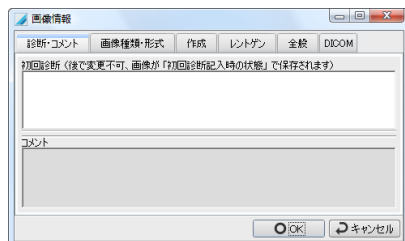
【用紙方向】
縦か横かを選択します。

【付注】
ここでは画像と一緒に印刷する付注を作成、管理します。

文字化けしたらフォント設定を確認。印刷メディアが黒の時は、フォント色は白。

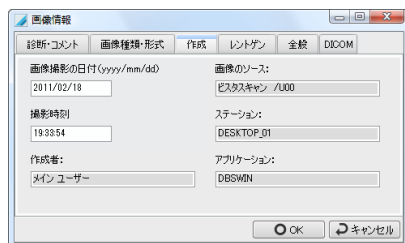
【印刷プレビュー】
印刷結果がどのようになるか表示されます。
シャーカステン上の画像を印刷する際に、プレビューで表示された画像配置が希望通りでない場合は、シャーカステン上の画像を移動させればプレビュー上の配置も動きます。

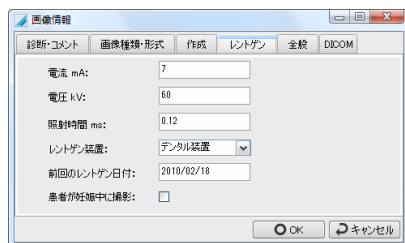
7.8 画像情報

選択した画像の情報ダイアログを表示します。以下に各タブについて説明します。

「診断・コメント」

選択した画像に関する情報を文章で書き込むことができます。ただし、「初回診断」のコメントは一度だけ書き込みができ、後で変更できませんのでご注意ください。初回以降は下の「コメント」欄に入力してください。定型句の入力は右クリックのメニューから、またはファンクションキーでもできます。定型句の設定は**「10.5 定型句」**をご覧ください。

「画像種類・形式」

画像タイプ、種類、範囲、画素数、ファイルサイズ、解像度などの形式が表示されます。「画像種類の選択」のボタンをクリックすると、画像に表示されている主な対象、例えば歯の番号を選ぶことができます。「表示範囲を選択」のボタンで画像上のほかの歯も選択することができます。

「作成」

画像作成の日付その他の情報が表示されます。この内容は撮影時に決定されます。
撮影日時は、「データベースの設定」内の「保存後も画像作成日とパラメーターの変更を可能にする」のチェックボックスをチェック状態にすれば、保存後も変更が可能です。**「10.2 データベースの設定」**を参照。

「レントゲン」

レントゲン画像の撮影パラメーターの表示、又は入力することができます。前回のレントゲン撮影の日付や女性の場合は妊娠の有無も表示又は記入できます。このタブには、撮影時に入力できます。
「データベースの設定」内の「保存後も画像作成日とパラメーターの変更を可能にする」のチェックボックスをチェック状態にすれば、保存後も変更が可能です。**「10.2 データベースの設定」**を参照。

「全般」

データベースとファイルに関する情報を表示します。画像を患者間で移動した場合は、移動する前の患者さんの名前もここで確認できます。

「DICOM」

DICOMタブの情報は、オプションのDICOMスターターが有効になっている場合のみ表示されます。

ここでは、画像のヘッダーに記入されているDICOMタグの情報を表示します(現在)。

インポートされた画像の場合、左の欄で「原画像」を選択すると、以前のDICOMタグの情報を表示します。

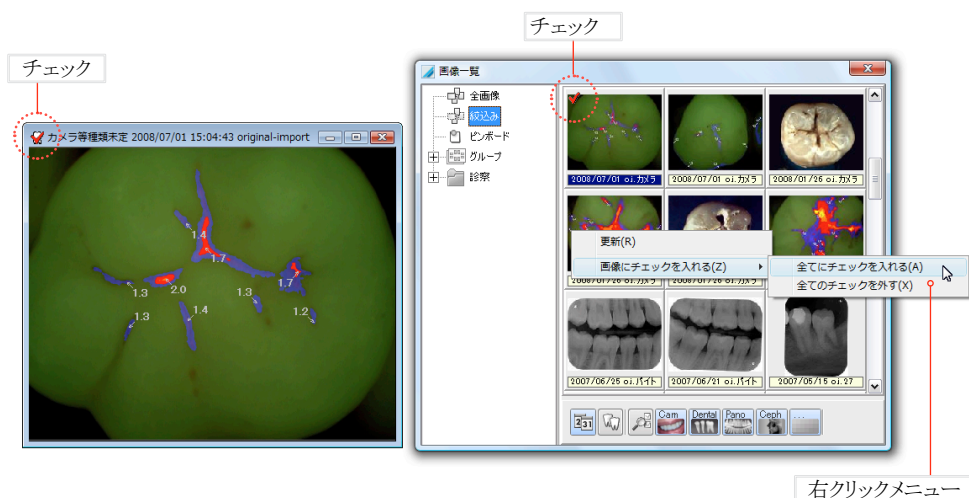
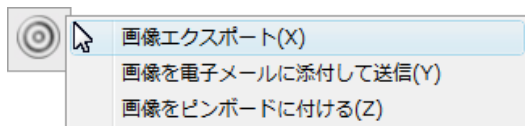
それぞれのDICOMタグに関する説明は、DICOM規格をご覧ください。

7.9 画像を削除

選択した画像を削除します。画像を削除しようとすると、 隠しファイルにすることを提案するダイアログが表示されます。このダイアログで「いいえ」をクリックすると画像は完全に削除されてしまいますのでご注意ください。レントゲン画像は法律により保存期間が定められていますので、削除には制限があります。

一度隠しファイルにした画像を再度表示する場合は、 メニューの「オプション」で「設定タブを表示」→「モジュール」→「シャーカステン」→「各種設定」→「隠しファイルの画像を再表示」の手順で行ってください。詳細は「**10.11 シャーカステンのプロパティ**」参照。

7.10 画像にチェックを付ける

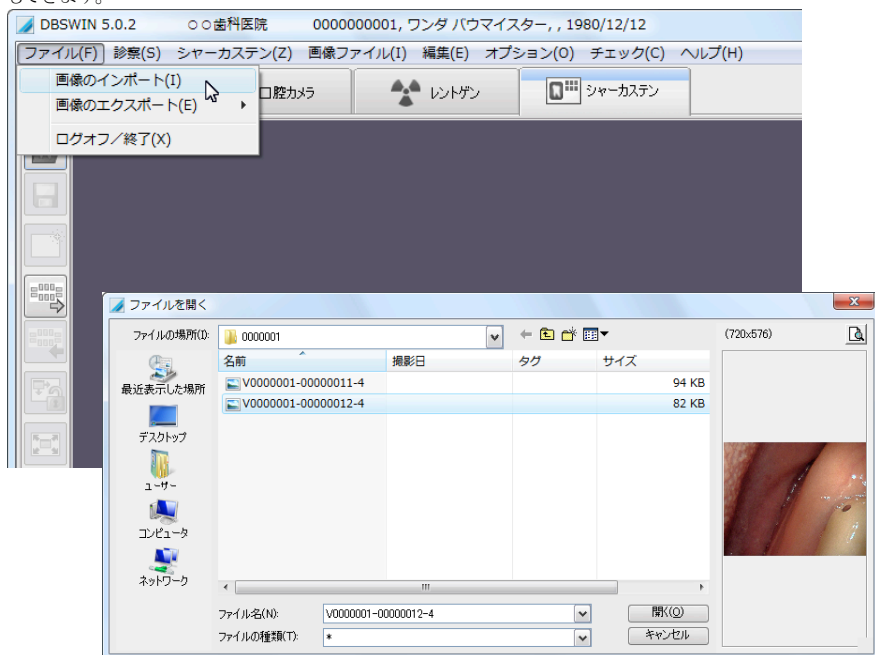
ある機能を使用したい場合、対象となる画像にチェックを付けます。例えば画像を電子メールで送ったり、エクスポートしたり、ピンボードにつけたりするときに使います。複数の画像にチェックをつけると、まとめて同じ機能を使うことができます。画像にチェックを付けるには「Ctrl」キーを押しながら開いている画像か画像一覧のサムネール上をクリックします。チェックの付いた画像には左上に赤いチェックマークが表示されます。

7.11 ドロップターゲット

画像一覧、シャーカステン上の画像、又は複数のチェックされた画像をこのターゲットのシンボル上にドロップすると以下の機能が使用できます。チェックを付けた複数の画像をまとめてドラッグするには「Ctrl」キーを押しながらターゲットにドロップしてください。全画像に機能が有効になります。

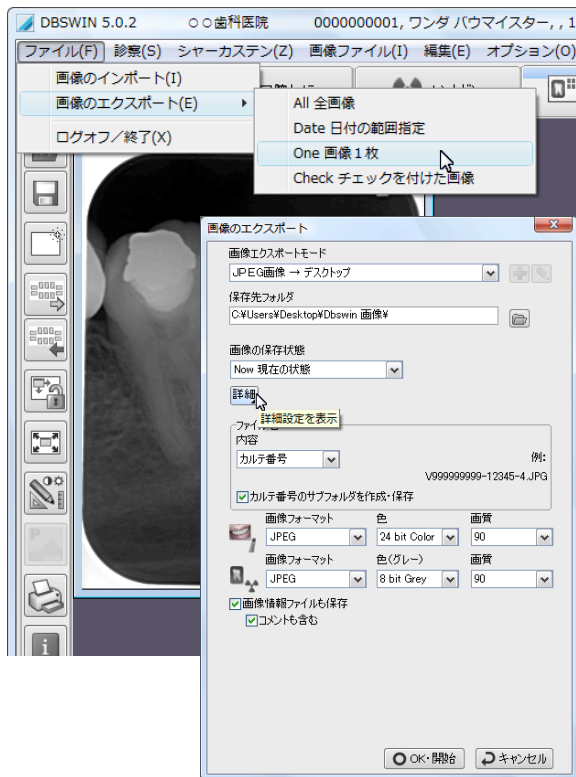
【画像エクスポート】の詳細は「**7.13 画像のエクスポート**」をご参照ください。

【画像を電子メールに添付して送信】メッセージを新規作成し、画像を添付します。この機能をお使いになるには電子メールソフトがパソコンにインストールされている必要があります。添付する画像フォーマットについては、「**10.11 シャーカステンのプロパティ**」をご参照ください。

【画像をピンボードにつける】画像を画像一覧のピンボードに付けます。

7.12 画像のインポート

DBSWINのデータベースに画像や動画をインポートし、ある患者カルテに保存することができます。メニューの「ファイル」から「画像のインポート」を選択して、「ファイルを開く」のダイアログでインポートしたい画像のファイルを選んでください。このとき、複数のファイルを選択して同時にインポートすることもできます（フレームを引くか、Ctrlキーを押しながら選択）。「エクスプローラ」から直接シャーカステン上にファイルをドロップしてインポートすることもできます。

7.13 画像のエクスポート

DBSWINのデータベースの画像をエクスポートすることができます。メニューの「ファイル」→「画像のエクスポート」で表示される項目の中からエクスポートの方法を選択してください。

【All 全画像】
カルテ又はデータベースにある全ての画像をエクスポートします。

【Date 日付の範囲指定】
日付の範囲を指定してエクスポートします。

【One 画像1枚】
シャーカステン上で選択した画像を1枚だけエクスポートします。

【Check チェックを付けた画像】
シャーカステン上でチェックを付けた画像をエクスポートします。

「画像のエクスポート」ダイアログで、あらかじめ設定してある「画像エクスポートモード」を選択できます。エクスポートモードには関連する全ての設定が網羅されています(保存先フォルダ、画像の保存状態、画像フォーマットなど)。「詳細」のボタンをクリックすると全ての設定を手動で変更できます。エクスポートモードの編集／保存は、DBSWIN設定で行ってください。「10.11 シャーカステンのプロパティ」参照。

線や文字を書き込んだ場合

画像をエクスポートする場合、以下の点にご注意ください。

①書き込んだ線や文字は白黒になります。

②線や文字もエクスポートしたい場合は、「画像の保存状態」で書き込み後の状態(「現在の状態」「前回保存した状態」等を選択してください。

③書き込んだ線が細すぎてエクスポート画像上で見えにくい場合はシャーカステンで太くしてください。

データベースの全ての画像をエクスポートするには、カルテを選択しないで、又は選択したカルテを閉じてシャーカステンタブを選んでください。「カルテがまだ選択されていません。全ての画像を一覧で表示しますか？」というメッセージが表示されますので「はい」をクリックしてください。
メニューの「ファイル」→「画像のエクスポート」→「All　全画像」を選択し、ダイアログで設定を選んでエクスポートを行います。

7.14 対応している画像フォーマット形式

DBSWINは様々な画像フォーマット形式に対応しています:Dicom (.dcm)、TIF画像 (.tif .vtf .xtf)、ビットマップ(.bmp)、JPEG (.jpg)、JPEG2000 (.jp2 .jpc .j2k)、RAW (.xyz .raw)などがインポートやエクスポートできます。特定の動画形式(.avi .mpeg .mp2)のインポートもできます。インポートした画像や動画のタイトルには「import」と表示されます。「画像一覧」のサムネールには「i.」と表示されます。

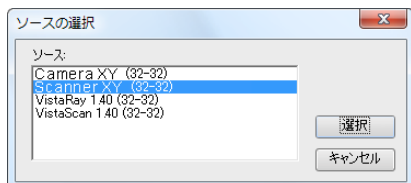
7.15 画像を他のカルテに移動

画像が現在選択しているカルテではなく、他の患者さんに属する場合、他のカルテに移動することができます。目的の画像を開いて選択し、メニューの「画像」から「画像を他のカルテに移動」を選びます。患者カルテの一覧が表示されますので、該当する患者さん検索し選択してください。

7.16 他のソフトで画像を開く/処理

DBSWINの画像を他のソフトウェアを使って開き、作業や処理をすることができます。メニューの「画像ファイル」から「画像を他のソフトで開く/処理」を選んでください。処理が終わったら画像をDBSWINにコピーとして保存できます。他の処理プログラムはオプションで設定することができます。**「10.11 シャーカステンのプロパティ」**参照。

7.17 スキャナー又はカメラから画像を挿入

TWAIN対応のスキャナーかカメラから画像を挿入することができます。「シャーカステン」のメニューから「TWAINソースの選択」を選んでダイアログを開き、画像挿入デバイスを選択してください。

その後「シャーカステン」メニューから「スキャナー又はカメラから画像を挿入」を選ぶと、デバイスから画像の挿入が可能になります。

挿入した画像はシャーカステン上に重なって表示されます。画像を保存するには、「保存」のボタンをクリックし、ダイアログで画像タイプ(レントゲン又はカメラ等)を選んでください。

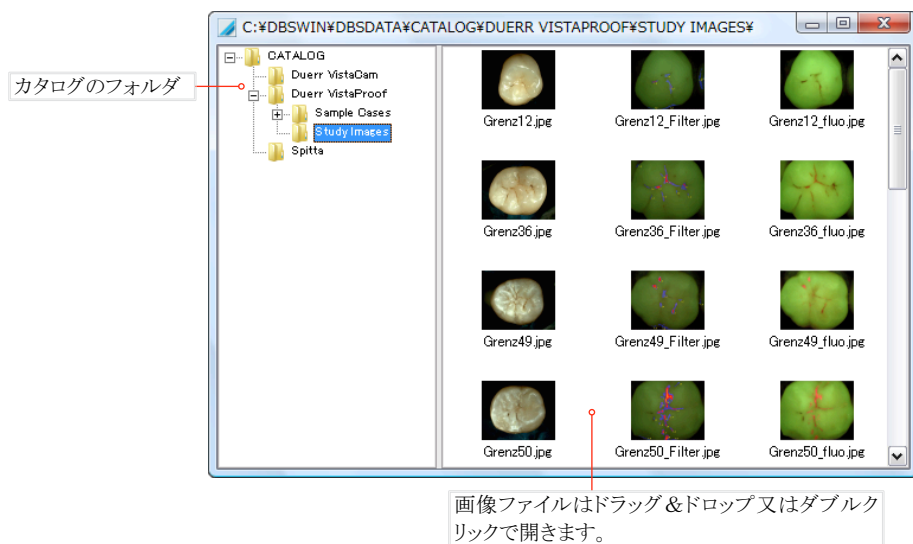
7.18 オリジナル画像のコピー

画像ファイルをコピーするにはメニューの「画像ファイル」から「コピー」をクリックしてください。コピーした画像のタイトルには「copy」、オリジナル画像には「original」と表示されます。「画像一覧」では、サムネールの下にオリジナル画像は「o.」コピー画像は「c.」と表示されます。

コピー画像のオリジナルを表示するには、メニューの「画像ファイル」で「コピー元のオリジナル画像を開く」をクリックします。

7.19 画像のカタログ

「画像のカタログ」には、様々なソースからご自分で参考画像を集めることができます。これらの画像はシャーカステン上でどんな患者さんのカルテが開いている時でも表示できます。

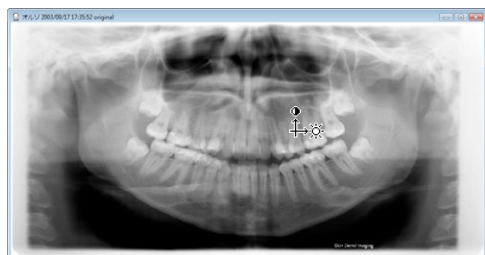
カタログを表示するには、シャーカステンのメニューから「開く」→「画像のカタログ」を選択します。

カタログに画像を追加するには、エキスポートの機能を使うか、又は手動でカタログのパス内に画像ファイルを入れます。カタログのパス設定に関しては「**10.11 シャーカステンのプロパティ**」をご参照ください。

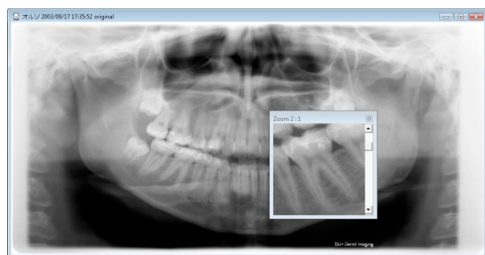
8. 画像処理

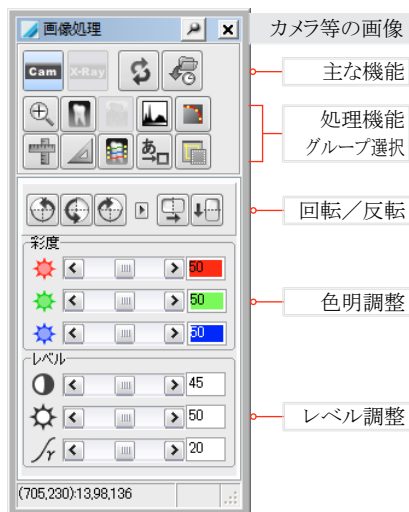
画像処理の機能で、画像の表示方法(コントラスト、明るさ、ガンマ補正等)を変えることができます。また画像上にコメントや図を書き込んだり、計測数値を表示することも可能です。以下に画像処理を使ってできる様々な可能性についてご紹介します。画像処理の機能は口腔カメラ、レントゲン、シャーカステンで使用できます。

「画像処理ツールボックス」このボタンをクリックするか、又は画像上をダブルクリックすると画像処理のツールボックスが表示されます(全画面ではダブルクリックで表示)。

8.1 主な機能

画像処理のツールボックスの中で、一番上の画像処理の主機能「Cam」か「X-ray」が選択されていると、画像上をクリックして以下の機能が使えます。

【コントラストと明るさを変える】

画像上で左クリックしたままでマウスを縦に動かすとコントラスト、横に動かすと明るさ、斜めに動かすと両方を変えることができます。

【ズームウインドウ】

画面上を右クリックすると、その場所にズームウインドウが表示されます。スクロールバーで拡大の度合いを調整できます。右クリック&Shiftキーのメニューでフレームを非表示にすることができます。左クリックでズームウインドウを移動できます。

【画像処理ツールボックス表示設定】

タイトルバーのボタンでツールボックスの表示設定をします:

 「ピン」現在位置を記録(マウスで移動可)

 「マグネット」自動的に画像脇に付きます(固定)

右クリックメニュー内で自動ロールアップと透明度の設定ができます。「自動ロールアップ」→不使用時、自動的にボックスを巻き上げます。「透明度」→自動ロールアップ時に、設定した比率でボックスを透明にします。

【カメラ等の画像を処理する主な機能】
画像の向きを回転・反転したり、彩度やレベルの調整を行うことができます。

【レントゲン撮影の画像を処理する主な機能】
画像の向きを回転・反転したり、レベル調整および診断補助フィルタをかけることができます。

【元に戻す／やり直し】
最後に行った画像処理を元に戻し、もう一度クリックするとやり直しができます。この機能はレベルや彩度には使えません。

【保存状態の選択】
このボタンで画像を保存した時の状態で開くことができます。行った画像処理を元に戻したい場合は、このボタンを押せば変更前の状態で開くこともできます。

保存状態は以下から選べます。

○「Last 前回の保存状態」

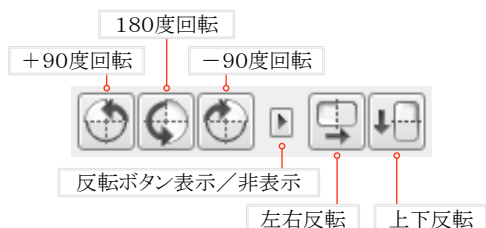
○「Diag 初回診断記入時の状態」:この状態は「画像情報」のダイアログで「初回診断」の欄に記入すると追加されます

○「First 最初の保存状態」:レントゲン撮影後、最初に保存した状態(撮影時に画像処理をしなかった場合は、「撮影の原画像」と同じ)

○「Take 撮影の原画像」:データを読み込んだときの原画像(画像処理をしていない状態)

□「グループ名」:画像がグループに保存されている場合、ここにグループ名が表示されます。
これを選択すると画像がグループに保存した時の状態で表示されます。

8.2 画像の回転／反転

右図のボタンで画像を回転・反転できます。

8.3 レベルと彩度の調整

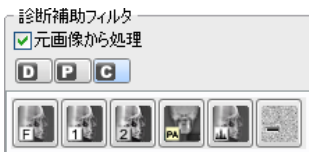
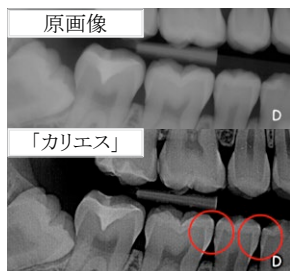
画像のレベルと彩度をスライダーで調整できます。コントラストと明るさは画像上をクリックして上下左右にマウスを動かすことで調整できます。

8.4 診断補助フィルタ

レントゲン画像の診断を補助するためにフィルタを使うことができます。フィルタを使うと画像上に写し出された組織や特定の部分をよりわかり易く表示できます。

デンタル、パノラマ、セファロの画像タイプによって専用のフィルタがあります。通常は、元画像にフィルタをかけますが、そうしない場合は「元画像から処理」のチェックを外してください。フィルタをかけたい画像を選んでからフィルタのボタンを押してください。
また、スキャンモードであらかじめ設定しておくとスキャンの際に自動的にフィルタがかかります。スキャンモードの設定は「VistaConfig」で行います。

【デンタル専用フィルタ】
デンタル「ファイン」
デンタル「カリエス」
デンタル「カリエス 2」
デンタル「エンド」
デンタル「ペリオ」
デンタル「ノイズ除去」

【パノラマ専用フィルタ】
パノラマ「ファイン」
パノラマ「スタンダード」
パノラマ「歯根膜隙1」
パノラマ「歯根膜隙2」
パノラマ「ペリオ」
パノラマ「骨組織強調」

【セファロ専用フィルタ】
セファロ「ファイン」
セファロ側面「1」
セファロ側面「2」
セファロ正面 PA
セファロ ヒストグラム適正化
セファロ「ノイズ除去」

8.5 画像の拡大

ルーペのボタンをクリックすると、ズーム機能を使って画像や画像の一部分を拡大表示できます。

拡大・縮小
画像上を左クリックで拡大、右クリックで縮小

フレーム拡大
画像上の一部分を拡大します:拡大したい部分の左上角をクリックし、次に右下角の位置をクリックすると、選択した部分が拡大表示されます。

ウィンドウを画像サイズに合わせる

画像をウィンドウサイズに合わせる

ズームウインドウ(画像上の拡大フレーム)

拡大率%

31

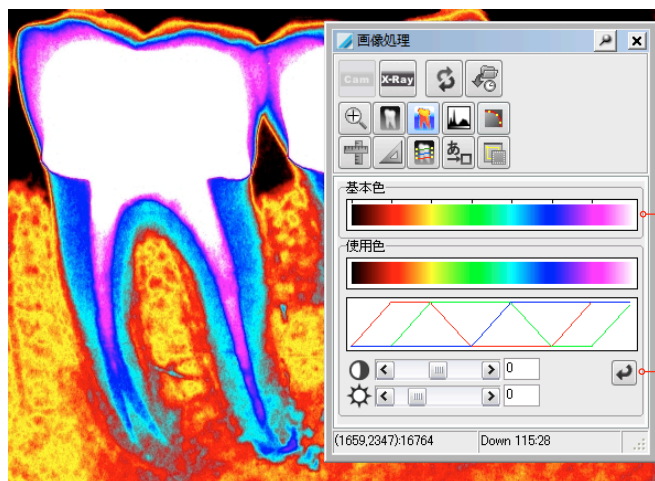
拡大率
現在の拡大率が表示されます。また、25、50、75、100、200%の中から拡大率を選ぶことができます。

画像の表示されている部分は、ここで黄色いフレームになっています。フレームをマウスで移動させ、表示領域を変えることができます。

8.6 基本フィルタ機能

各ボタンををクリックすると選択した画像にフィルタをかけることができます。

8.7 カラーライズ

カラーライズの機能を使って、白黒のレントゲン画像をカラーで表示することができます。ただし、カラーライズした画像は保存とエクスポートができませんので、ご注意ください。

使用する色はお好みで変えることができます。 基本色のカラーバーで変えたい色をクリックし、表示されるダイアログボックスからお好みの色を選んでください。

明るさ、コントラストと色を基本に戻す

8.8 ヒストグラム（画素の濃度分布）

ヒストグラムの機能はレントゲン画像の分析の際に役立ちます。この機能は画像中のグレー段階の分布をグラフで表示します。つまり、ビスタスキャンのレントゲン画像のグレー段階は、左端の0（黒／高い照射量）から右端の65.535（白／低い照射量）にわたっています。グラフ上で高い部分のグレー段階が多く分布していることになります。

レントゲン画像のグレー段階に関して、マウスでグラフ下のバーをクリックして引っ張ると、表示したい範囲を選択することができます。選択した範囲が表示され、グレー段階が広がります。また、輝度の設定でヒストグラムの輝度を選択できます（線形・linear、 平方根・sqrtなど）。 これにより、人の目では確認が不可能な小さな違いまでもが強調され、確認できるようになります。

16ビットグレー段階では濃度の分布が大きいため、画像がより鮮明に見えます

表示する輝度範囲をマウスで選択（表示したい範囲をマウスでクリックして引っ張る）

ヒストグラム輝度の選択

適切な輝度範囲を自動的に設定（ここにチェックが入っているとビスタスキャンの画像の「VistaConfig」で設定された範囲外の上下を切り捨てます）

8.9 コーナーマスク

コーナーマスクのボタンをクリックすると、レントゲン画像の角にある白い枠部分が背景の色になります。これは、白い部分を隠すことでまぶしくなるのを防ぎ、レントゲン画像の診断がし易いようにするための機能です。ビスタスキャンの全てのデンタル画像で使用できます。ただし、パノラマ画像などで使用する場合は、周縁を手動で修正する必要があります。

周縁修正：周りの線が表示され、マウスで修正できます。

コーナーマスクの周縁を自動的に計算・決定します。

コーナーマスク機能を入り／切りします。

コーナーマスクの自動計算・決定が適切でない場合は、周縁修正のボタンをクリックしてマウスで接続点を動かしてマスクの範囲を調整してください。

8.10 長さと角度の計測

「長さ計測」と「角度計測」の機能で、画像上に長さと角度を描くことができます。レントゲン画像上での計測値はほぼ正確ですが、ビデオ画像やインポートした画像上では正確でないことがありますのでご注意下さい。

「長さ計測を加える」

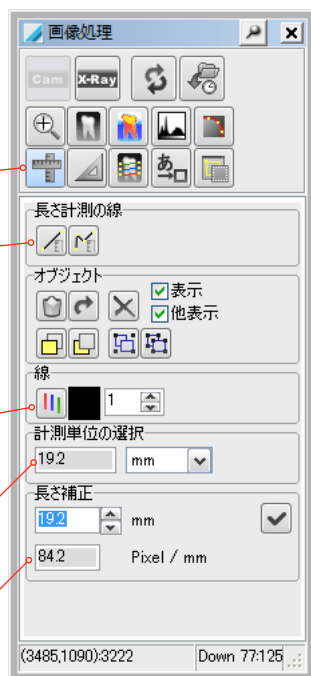
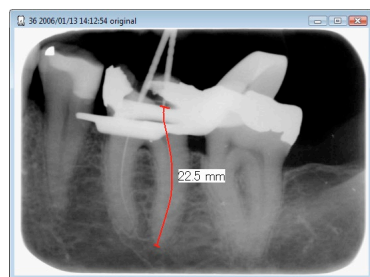
オブジェクトの長さを測るには、まず「長さ計測」のグループボタンを押します。新しい計測線を描く度に「長さ計測の線」の直線／複数線ボタンを押してから描き込みます。

「直線」
画像上の計測開始点をクリックし、そのままマウスを動かして計測終了点でもう一度クリックします。

「複数線」
画像上の計測開始点をクリックし、中間点で次々クリックし、計測終了点で右クリックします。

「線」
線の太さや色の設定は描く前に行い、既に描いた線を変更する場合は線をクリックして選択してから行ってください。

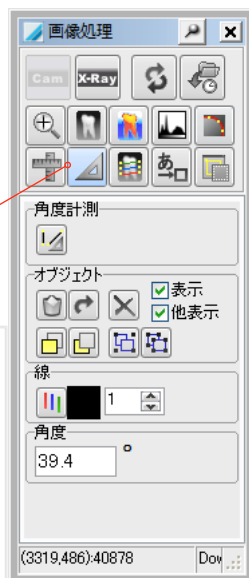
「計測単位の選択」
計測値は線の横に表示されます。表示単位はピクセル、cm、mmとインチから選択できます。

「長さ補正」
計測線の長さを補正するには、線を選択し、正しい長さを入力して右のチェックボタンで決定してください。そうすると画像上の全ての計測線の長さが補正されます。

レントゲン画像内の長さと角度の目安を知るために、基準となる物体も一緒に撮影し、補正することが必要です。ただし、投影による歪みが存在するため、完全に正確に計測することは困難であり、計測結果として使用することはできません。

【長さ・角度表示の文字サイズ】
文字が小さすぎる場合は、計測をする前に「線描・文字」の中の「文字」ボタンを押して表示される文字サイズを80以上に設定してください。

「角度計測を加える」

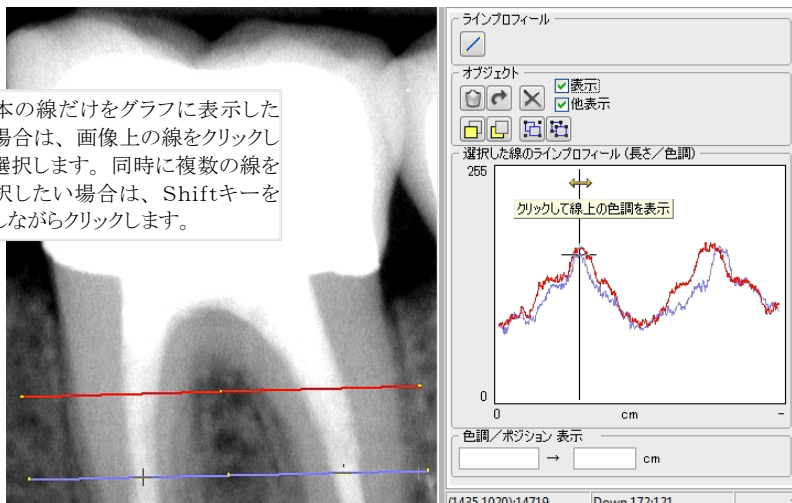
オブジェクトの角度を測るには、まず「角度計測」のグループボタンを押します。新しい角度計測の線を描く度に「角度計測」のボタンを押してください。

画像上に角度を表す2本の線を描いてください。線は交わっていなくても構いません。1本目の線の書き始めをクリックし、マウスを移動して終了点でクリックします。2本目の線も同様に描きます。

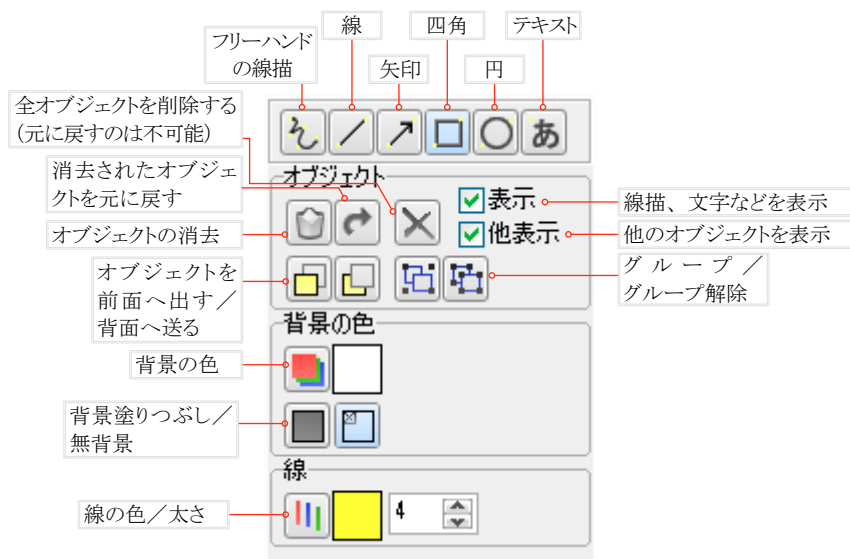
既にあるオブジェクトか線につなげて描きたい場合は、「Alt」キーを押しながらクリックすると一番近い点につながります。

8.11 ラインプロフィール

この機能を使うと、画像上に描いた線が通っているところの画素の濃度(グレー段階や色)をグラフで表示することができます。

「ラインプロフィールの線を引く」ボタンを押してから画像上に線を描きます。各線に色をつけることもできます。線グラフは、描いた線と同じ色で表示されます。

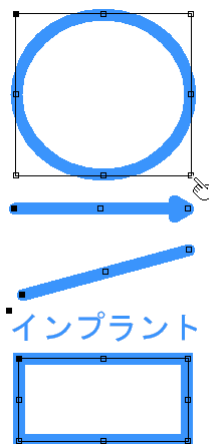
グラフ上をクリックすると縦横に交わる線が現れます。グラフ上でマウスを移動させると画像上でも交差する線が同時に動いて正確なポジションがわかります。

8.12 線描・文字

線描・文字機能を使って画像上に線や矢印その他のオブジェクトを描いたり、テキストを貼り付けたりできます。

【オブジェクト線描】

新しいオブジェクトを描くためには、まず描きたいオブジェクトの作成ボタンを押してください。画像上をクリックして開始点を決めてください。次にマウスを終了点まで動かし、クリックして決定してください。既にあるオブジェクトに点をつなげるには、Altキーを押しながらクリックします。テキストを貼り付けるには、まずテキストの欄に書き込み、画像上をクリックして位置を決めます。

様々なオブジェクトに例えば色や背景、フォントサイズを決めることができます。これらは、各ボタンで選んでください。

オブジェクトを変更するには、まずオブジェクトの作成ボタンがどれも押されていない状態であることを確認してください(ボタンが押されている場合はもう一度押すと元に戻ります)。次に、マウスをオブジェクト上でクリックして選択します。選択されたオブジェクトには点が付き、色や背景などを変更することができます。

オブジェクトの位置を移動するには、まず上記の方法で対象を選択してからもう一度クリックします。ポインターが手の平に変わり、マウスを動かすと付いて来て位置を移動できます。移動先で、もう一度クリックするとオブジェクトを離せます。線、四角、円の場合は、選択した際に現れる点の上をクリックすると大きさや長さを変更できます。対象が小さすぎて点が見えないときは、拡大してから行ってください。

【テキスト文字】

画像上にテキストを入れるには、「テキスト入力欄」に書き込むか、欄右側の▼ボタンをクリックしてデータ変数を加え、画像上をクリックすると、そこにテキストを貼り付けることができます。

テキスト

オブジェクト

表示

他表示

背景の色

テキスト入力欄

テキストの入力欄

$$DATE$$

データ変数の選択

例

［日付表示／DATE（H）］

文字サイズ

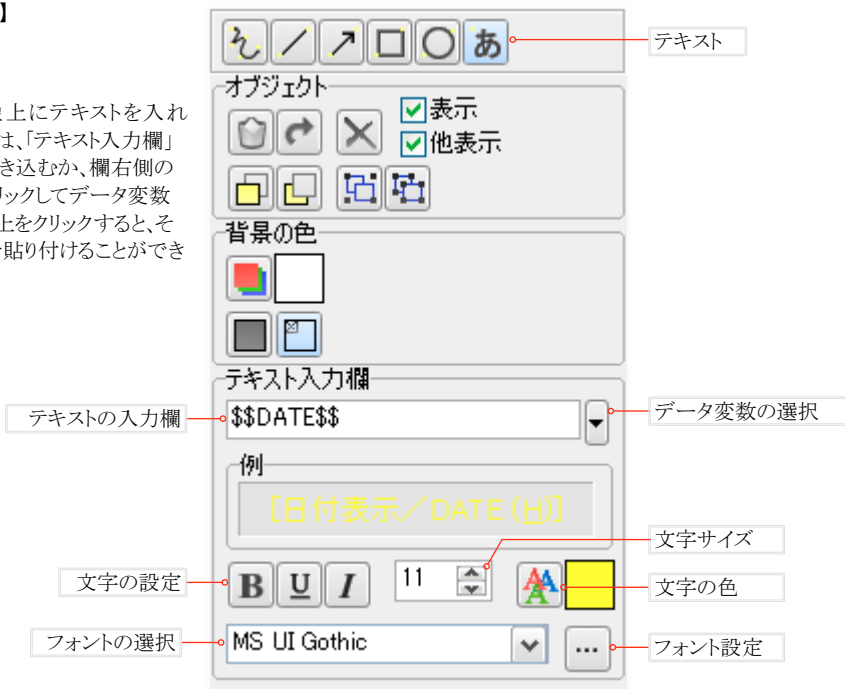
文字の設定

11

文字の色

フォントの選択

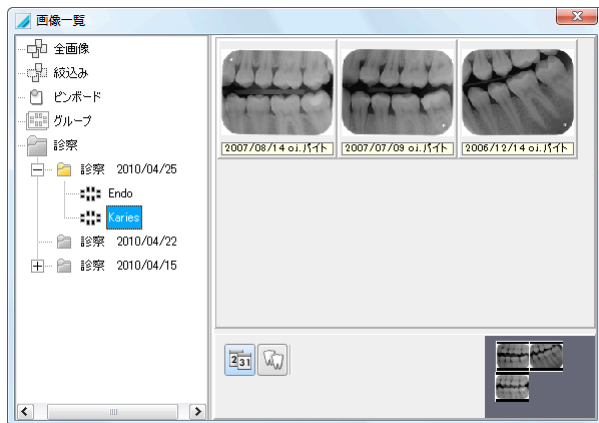
MS UI Gothic

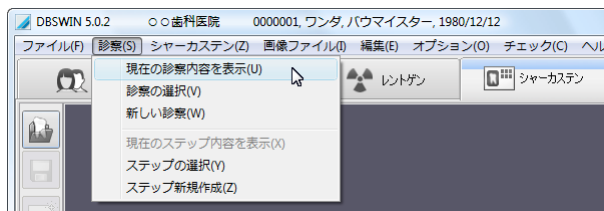
フォント設定

8.13 関心領域の切り取り

画像の中で特に注目したい部分を「関心領域」として切り取り、新しい画像として保存することができます。

9. 診察

DBSWINの撮影において、全画像の展望を得やすくするため、患者さんの来院ごとの撮影を診察グループとしてまとめます。画像一覧で来院日時と共に表示します。

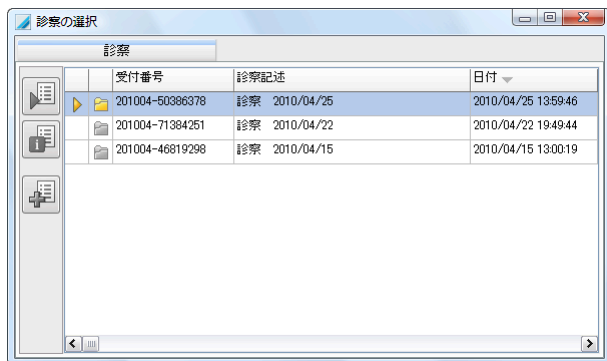
診察の表示／非表示は、DBSWINのプロパティで設定できます。詳細は「10.7　DBSWINのプロパティ」をご覧ください。

現在アクティブな診察は、黄色いシンボルで表示されます。

「診察」をダブルクリックするか、ドラッグ&ドロップでシャーカステン上に落とすと、診察の画像がシャーカステン上に表示されます。

【診察のメニュー】

メニューの項目で現在の診察内容を表示したり、診察を選択又は新しい診察を作成したりできます。

9.1 診察の選択

診察メニュー又は、タスクバーのボタンで「診察の選択」ダイアログを表示します。ダイアログで診察を選択、又は新しい診察を作成したり現在の診察内容を表示したりできます。

新しく撮影した画像は、自動的に現在のアクティブな診察に追加されます。後で変更することはできません。

	選択した診察をアクティブ化します。新しく撮影した画像は、この診察に追加されます。リストの診察上をダブルクリックしてもアクティブ化できます。
	選択した診察の内容を表示します。
	診察を新規作成します。

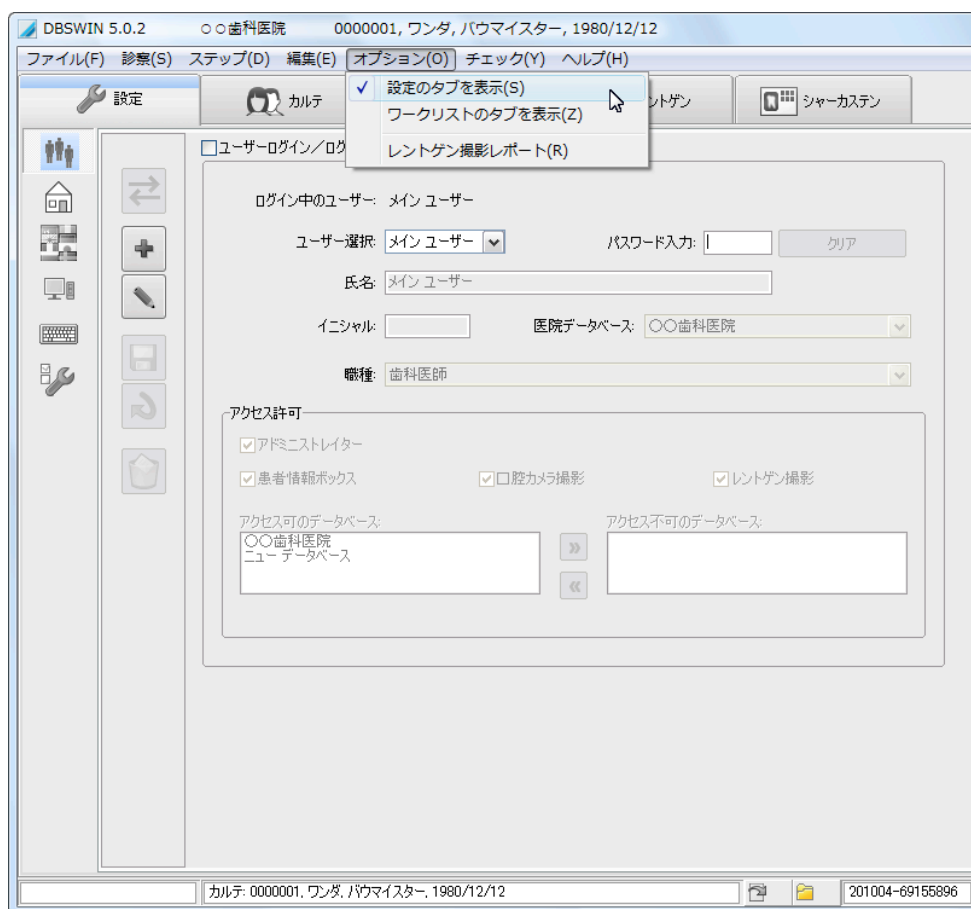
9.2 診察の新規作成

診察メニュー又は､｢診察の選択｣ダイアログで新しい診察を作成することができます。es erscheint der ｢診察のプロパティー｣のダイアログが表示されますので､必要事項を入力し｢OK｣のボタンで保存します。

撮影をまだ行っていない内は､診察のプロパティーを編集できます。

10. 設定

設定タブを表示するには｢メニュー｣の｢オプション｣で｢設定タブを表示｣を選びます。

注意:設定が行えるのは、ユーザーログインに関してアドミニストレイターの権利がある場合のみです。

10.1 ユーザー設定

DBSWINでは、ユーザーによってデータベースへのアクセス許可、又は使用できるプログラムの機能を制限することができます。どのユーザーがDBSWINで作業(例えばカルテの新規作成、レントゲン撮影など)を行ったかが記録されます。

ユーザーログインと権利設定を有効にするには「ユーザーログイン／ログオフを使用」にチェックを入れます。

現在ログイン中のユーザーを削除することはできません。削除するには、まず他のユーザー名でログインしてから行ってください。そのためにはリストからユーザーを選び「ユーザーの切り替え」のボタンをクリックしてください。

ユーザー情報入力欄：氏名、イニシャルを記入、医院のデータベース、職種を選択する欄があります。職種で「歯科医師」を選択すると、カルテのページの「担当医」のリスト内にユーザー氏名が入ります。

DBSWIN を起動・終了する際には、ログイン／ログオフの作業が必要になります

ログインで使用するパスワードを入力してください（半角ローマ字）。注意：パスワードを入力しない、又はユーザー名と同じ場合は、パスワードなしでログインすることができます。

ログインユーザーを選択、又は新規作成ならユーザー名の入力

パスワードの削除

ユーザーのアクセス許可を設定できます。アドミニストレーターは全ての権利を有します。

ツールバーのボタン

ユーザーの切り替え:
選択した他のユーザー名でログイン

新規作成:
新しいユーザーを登録

編集:
ユーザーを編集

保存:
新規作成したユーザー又は変更を保存

キャンセル:
ユーザーの変更を保存しない

削除:
選択したユーザーを削除

10.2 データベースの設定

データベースの設定の変更や新しいデータベースの作成及び既にあるデータベースの消去ができます。

設定　カルテ　口腔カメラ　レントゲン　シャーカステン

データベースの設定
使用中のデータベース:　〇〇歯科医院
データベース名／選択:　〇〇歯科医院 — データベースの選択、及びデータベース名の入力欄

データベースのパス
フォルダ:　C:¥DBS¥DBSData¥pr1¥database¥ — データベースのパス
医院名:　〇〇歯科医院
選択のデータベースはこの医院で使用されています

カメラ等画像ファイル
フォルダ:　C:¥DBS¥DBSData¥pr1¥VidImg¥ — カメラ等画像ファイルのパス
画質:　100 — 圧縮率／画質設定

レントゲン画像ファイル
フォルダ:　C:¥DBS¥DBSData¥pr1¥XrayImg¥ — レントゲン画像ファイルのパス
保存式:　ロスのない圧縮 — 圧縮率／画質設定
最短保存期間:　5　年 — 最短保存期間
☐ レントゲン撮影パラメーターの入力が毎回必要
☑ 保存後も画像作成日とパラメーターの変更を可能にする — 撮影パラメーター入力の設定

ツールバーのボタン

データベースを切り替える

新規作成:
データベース新規作成

編集:
データベース設定の編集

保存:
変更を保存

キャンセル:
変更を保存しない

データベース内の画像確認／修復
詳細は「サーバーマネジャー取扱説明書」をご覧ください。

削除:
選択したデータベースを削除

【データベースを切り替える】

複数のデータベースがある場合、「データベース」の欄で選び、このボタンをクリックするとデータベースを切り替えます。

【データベース設定の編集】

「編集」のボタンをクリックすると、以下のようにデータベースの設定を変更できます。

○データベース名
名称を変更するには、「データベース」の欄に新しい名前を入力します。

○カメラ等画像の設定
画質:保存するカメラ等画像の画質／圧縮率を設定できます。100に設定すると画質は落ちず、低い圧縮率で保存されます。画質の低い設定にすると圧縮率は高くなり、ファイルのサイズは小さくなりますが、画質は落ちます。

○レントゲン画像の設定
圧縮率／画質:レントゲン画像では、圧縮の方法が3種類あります。
圧縮しない＝ファイルサイズは100％
ロスのない圧縮＝ファイルサイズは元の50～60％に縮小、画質は落ちない
ロスのある圧縮＝画質を100に設定した場合:ファイルサイズは元の40～50％に縮小、画質を90にすると:ファイルサイズは元の20～30％に縮小される。
レントゲン画像のロスのある保存方法を選択すると設定によっては画質が落ちることがあるのでご注意下さい。
また、使用する場所の法律に従った保存方法(ロスのある圧縮の認可／不認可)を守ってください。

○最短保存期間
レントゲン画像の最短保存期間を設定します。レントゲン画像はこの設定期間が過ぎるまで削除できません。

レントゲン画像は各国の法律で定められた期間以上必ず保存しなければなりません。日本では画像を最低でも5年間は保存するよう定められています。

○レントゲン撮影条件のパラメーター入力が毎回必要
ここにチェックを入れると撮影の度にパラメーターを入力しなければなりません。

○保存後も画像作成日とパラメーターの変更を可能にする
ここにチェックを入れると、撮影画像を保存した後でも作成日とレントゲンパラメーターを変更することができます。

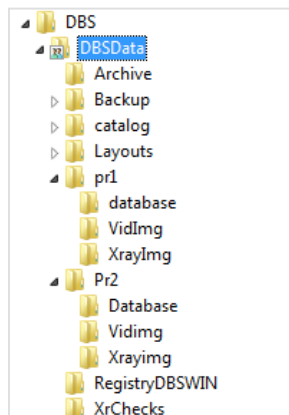
【データベースの新規作成】

「新規作成」のボタンをクリックすると、新しいデータベースを作成できます。新しいデータベースの名前(例えば医院名)を入力してください。DBSWINで必要な保存場所(フォルダ)が自動的に記入されますが、必要であれば書き込むことができます。データベース作成を完了するには、「保存」ボタンを押してください。

【データベースを削除】

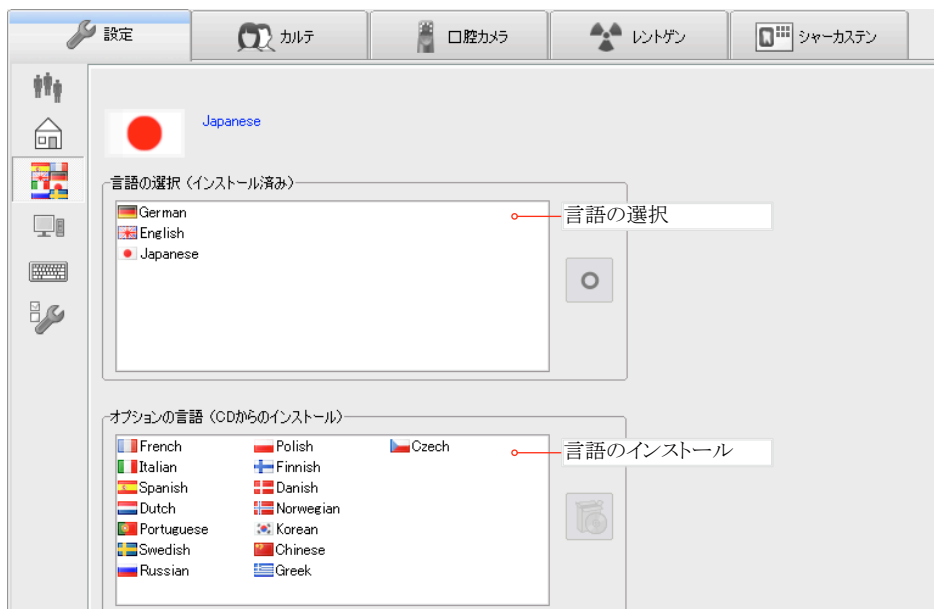
現在使用していないデータベースを削除することができます。データベースを欄から選択して、「削除」ボタンを押します。その際、データベースのフォルダやファイルは削除されず、DBSWINのデータベースとのリンクが削除されるだけです。ファイルはエクスプローラで、手動でのみ削除することができます。

注意:「ユーザー」のページで登録されたユーザーの医院データベースを削除するとそのユーザーに別の医院データベースを設定しなければなりません。

【DBSWINデータのフォルダ】
フォルダは、データベース1＝pr1のように作成されており、サブフォルダは以下のようになっています:
database＝データベース
VidImg＝カメラ等画像
XrayImg＝レントゲン画像

【データベースのパスを変更】
データベースのパスは「サーバーマネジャー」で変更することができます。

DBSWINのデータベースと画像ファイルが保存されているフォルダを手動で移動するとDBSWINが起動しなくなります。

10.3 言語設定

言語のページでは、DBSWINの画面とデータベースに使用される言語を選択できます。言語を切り替えるには、ご希望の言語を選択し、右にある「言語の採用」のボタンをクリックしてください。言語を変更するとDBSWINの再起動が必要になります。

10.4 システム設定

このページには、メモリやディスク容量などパソコンの情報が表示されており、またディスク空き領域の警告リミットはここで設定できます。警告リミットを変更するには「編集」ボタンを押してください。

ツールバーのボタン

システム設定の変更:

「コンピュータ名」
できるだけわかり易く、ネットワークの場合は他のステーションとの違いをはっきりさせてください。

「領域不足警告／領域不足エラー」
残りディスク容量が設定した「領域不足警告」以下になると警告メッセージが表示され、「領域不足エラー」の容量以下になると、データや画像が入力できなくなります。「領域不足警告」は、新しいハードディスクを準備するまでの時間を考慮して、なるべく余裕を持って設定してください。

保存:
変更を保存

キャンセル:
変更を保存しない

10.5 定型句

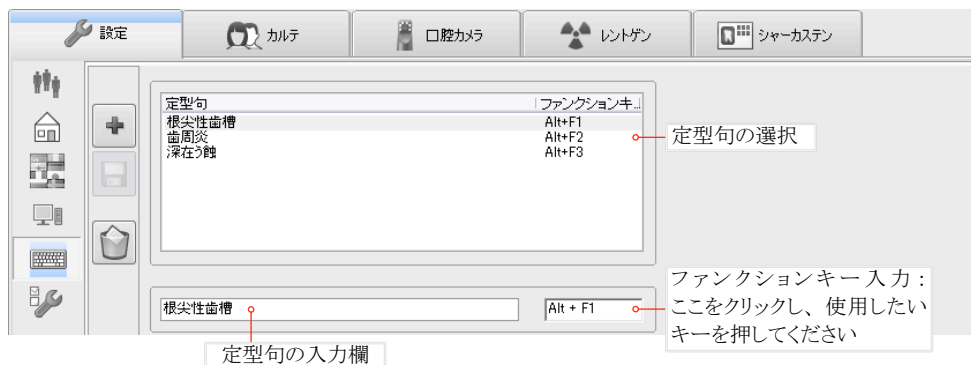
画像情報のダイアログ「7.8 **画像情報**」で定型句を使うと、診断・コメントを素早く入力することができます。 このページに定型句を入力して、ファンクションキーを設定します。ファンクションキーは、例えばF1からF12までのキー、又はAlt、Ctrl、Shiftキーとの組み合わせでも設定ができます。

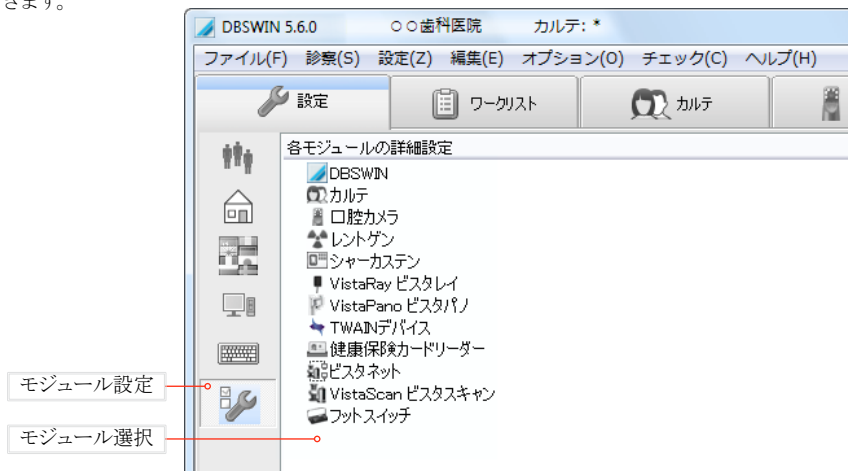
画像情報のダイアログには、ここで入力したテキストをファンクションキーまたは右クリックのメニューから書き込めます。

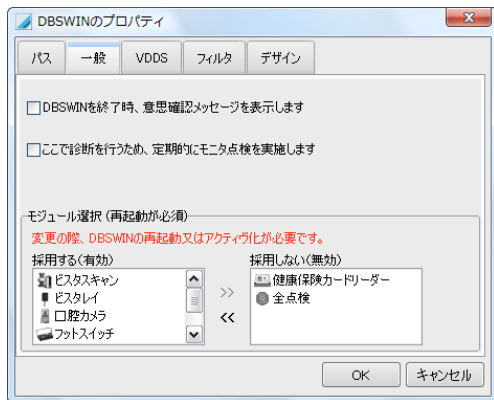
ツールバーのボタン

定型句の追加

保存:
変更を保存

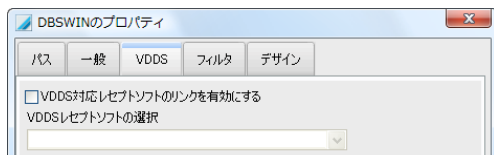
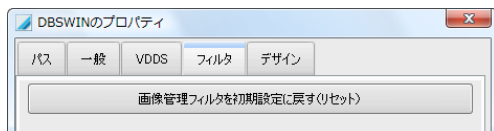
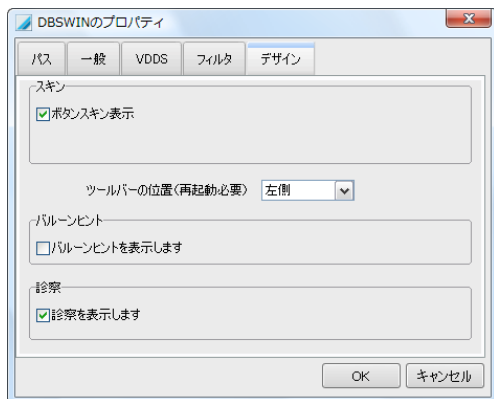
削除:
選択した定型句を削除

10.6 モジュール設定

DBSWINには様々なプログラムモジュールが入っており、各アイコン上をダブルクリックするとモジュールのプロパティが設定できます。

10.7 DBSWINのプロパティ

【パス】
DBSWINに関するパスを表示します。

【一般】
「DBSWINを終了時、意思確認メッセージを表示します」にチェックを入れると、プログラムを閉じる際、ダイアログで意思を確認します。

「ここで診断を行うため、定期的にモニター点検を実施します」にチェックを入れると、定期的にモニター点検のダイアログが表示されます。

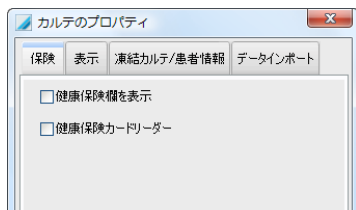
「モジュール選択」では、採用するモジュールを選択できます。モジュールを選び、矢印のボタンを押してください。

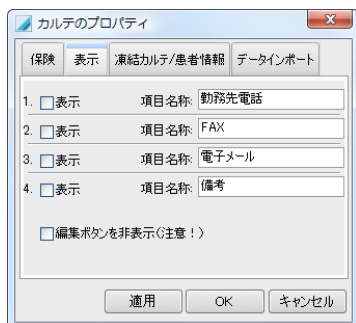
「ビスタスキャン ミニ」をご使用の場合「ビスタネット」を採用する

【VDDS】
VDDSのメディア・インターフェース形式に対応するレセプトソフトウェアをここでリンクさせます。

【フィルタ】
画像管理のフィルタを変更した場合、ここで初期設定に戻せます。

【デザイン】
「スキン」 ボタン、タブなどのスキンデザインを表示します。

「ツールバーの位置」 ツールバーを左右のどちらに置くかを設定できます。

「バルーンヒント」 バルーンヒントの表示設定

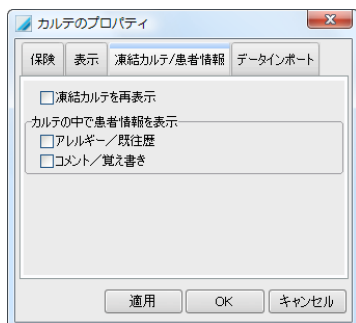
「診察」 DBSWINの診察機能を有効にします（メインメニューの「診察」メニュー、メインウインドウの下中央に「診察」ボタン、シャーカステンの画像一覧の「診察」項目表示）。DICOM機能をご使用の場合は、「診察」機能が有効になります。

10.8 カルテのプロパティ

【保険】

チェックを入れると健康保険欄又は健康保険カードリーダーのボタンがカルテに表示されます。

【表示】

オプション欄を表示したり、非表示にしたりできます。表示した欄に項目・名称の入力ができます。

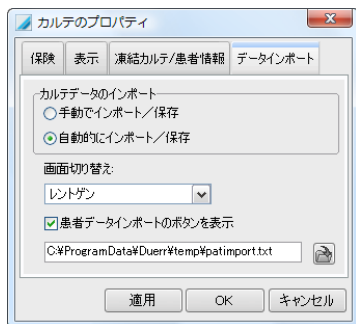
「編集ボタンを非表示」

DBSWINではカルテの編集を行わない場合、ここでカルテの編集ボタンを非表示にすることができます。例えばカルテデータを全てレセプトソフトかDICOMサーバーによってインポートする場合、又はネットワークのクライアントでのカルテデータ編集を不可能にする場合に使用します。

【凍結カルテ／患者情報】

「凍結カルテを再表示」

全ての凍結したカルテをカルテ一覧で再表示します。なお、凍結したカルテを一度開くと、普通のカルテに戻ります。他の開かなかった凍結カルテは、そのまま凍結カルテとして残ります。このチェックを外すと凍結カルテは表示されません。

「カルテの中で患者情報を表示」

表示したい項目にチェックを入れてください。

【データインポート】

「カルテデータのインポート」

ユーザーが手動で患者データインポートのボタンで行うか、自動的に保存と上書きを行う

カルテデータのインポートを自動に設定した場合、現在開いているカルテが閉じ、画像が閉じられ、ダイアログも閉じます。インポートデータのカルテを選択、その後設定した画面に切り替えます。

「画面切り替え」

カルテデータのインポート後、自動的に切り替える画面の選択

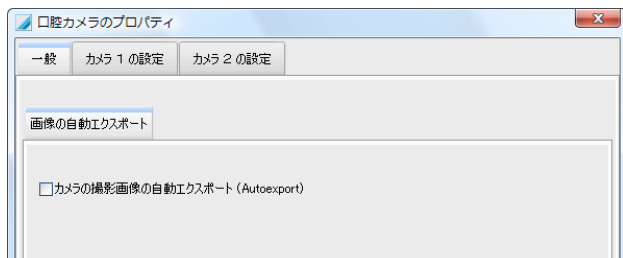
「患者データインポートのボタンを表示」

カルテ画面の中に患者データのインポートボタンを表示する設定

「データインポートファイル」

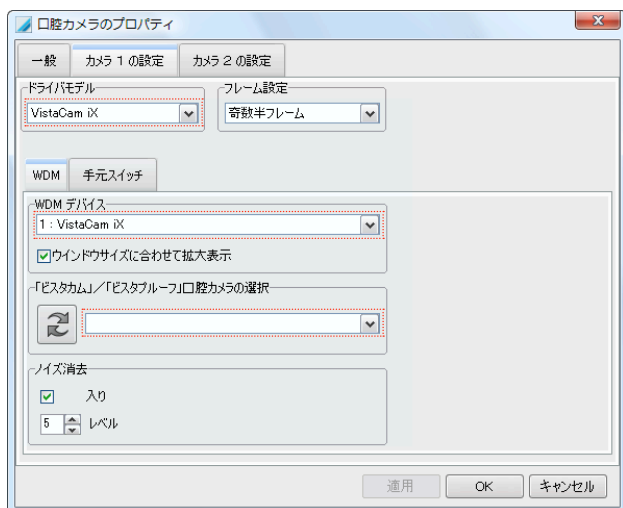
レセプトソフトにリンクするときには、データインポートファイルを入力します

10.9 口腔カメラのプロパティ

（オプション）

【一般】

「口腔カメラの撮影画像の自動エクスポート」にチェックを入れると、口腔カメラの撮影をするときには常に画像をエクスポートします。注意！画像形式と保存先の設定は「Autoexport」のプリセットで行います。詳細は**「10.11 シャーカステンのプロパティ」**をご参照ください。

注意:VistaCam iXの場合、上記の赤枠部分の設定を確認してください。

注意:VistaCam Digital又はVistaProofの場合、上記の赤枠部分の設定を確認してください。

【カメラ1、2の設定】

口腔カメラ等をお使いになる前に、カメラの設定が必要です。

「ドライバモデル」でカメラのドライバを選択してください。左図のようにVistaCam iX、VistaCam DigitalとVistaProofに必要な設定を行ってください。

「WDMデバイス」でインストール済みのカメラのみが表示されます。その中からVistaCamのモデル（又は他のカメラ）を選択してください。

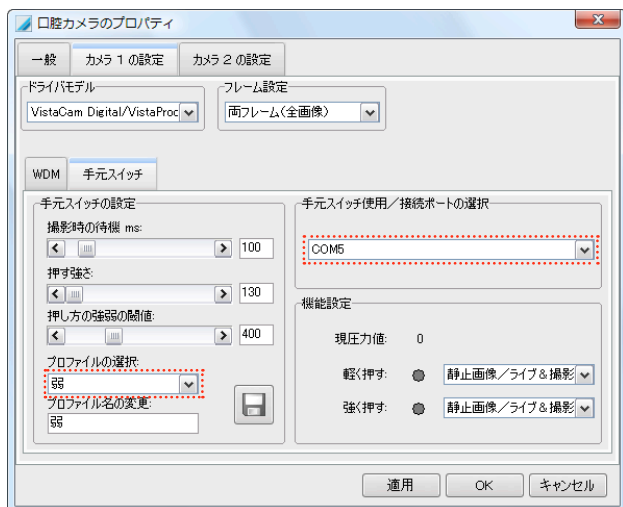
カメラがWDMデバイスのリストに表示されていない場合は、カメラのドライバが正しくインストールされていないか、カメラが接続されていないか、又は前回使用したのと違うUSBに接続されている可能性があります。ドライバをインストールするか、カメラを別のUSBに接続してみてください。

「ビスタカム／ビスタプルーフ口腔カメラの選択」

VistaCam DigitalとVistaProofの場合、ここで種類を選択してください。接続したビスタカムがリスト内に表示されていない場合は、左側の矢印のボタン「ビスタカム再検索」をクリックしてください。

【手元スイッチ】

VistaCam iXの設定

「軽く押す」 → 手元スイッチを押した時の機能をここで選択します。標準設定は「静止画像／ライブ」になっています。スイッチを押すと画像を撮影し、もう一度押すとライブ画面に戻ります。画像撮影後、自動的にライブ画面に戻るようにするには、「撮影」を選んでください。

【手元スイッチ】

VistaCamとVistaProofの設定

ダイアログの右半分:

「手元スイッチ使用／接続ポートの選択」 → コンボボックスから手元スイッチの正しいコンポートを選択してください。手元スイッチは、使用しない場合「不要」を選択します。

「機能設定」 → 手元スイッチの握り方に関して、二つの機能がここで設定できます。手元スイッチを握ると、その数値が「現圧力値」として表示されます。ページ左側の「押し方の強弱の閾値」で設定された値より低いと「軽く押す」とみなされ、強いと「強く押す」とみなします。

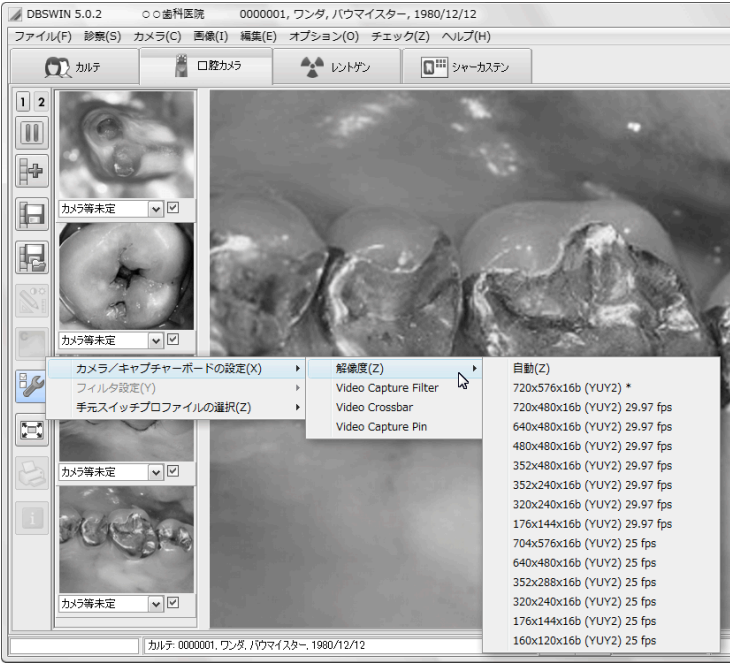
ダイアログ左半分:

「プロファイルの選択」 → 編集するプロファイルを選択します。

「撮影時の待機 ms」 → ここで行う設定は、画像のブレを防ぎます。

「押す強さの最小値」 → 押す強さは、この値以上でないと感知されません。

「押し方の強弱の閾値」 → 押す強さが、この値を超えると「強く押す」となり、超えない場合は「弱く押す」とみなされます。設定の際は、手元スイッチを握りながら、ページの右半分を見て行ってください。

「口腔カメラ」タブでのカメラ設定

【解像度の設定】

ここでは接続したカメラの可能な解像度が表示されます。可能な最大(正しい)解像度をここで選んでください。現在選択されている値には＊印がついています。

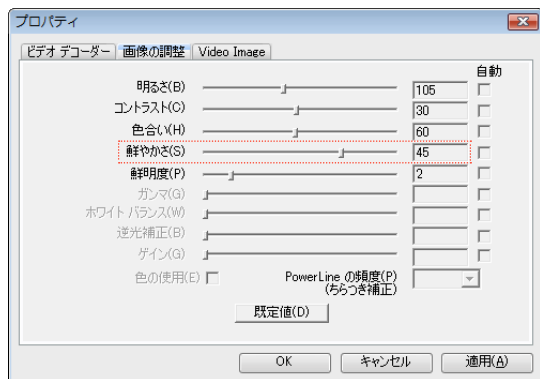
VistaCam iX⇒704 x 576

VistaCamDigitalと
VistaProof⇒720 x 576

注意:「Video Capture Pin」のダイアログでも解像度の設定が必要です。次ページ下参照。

Video Capture Filter→

【ビデオ デコーダー】

通常は、ここでの設定は必要ありません。

Video Capture Filter→

【画像の調整】

明るさ、コントラスト、鮮やかさ等の設定はここで行います。

VistaCam iXの場合は設定が不要です。

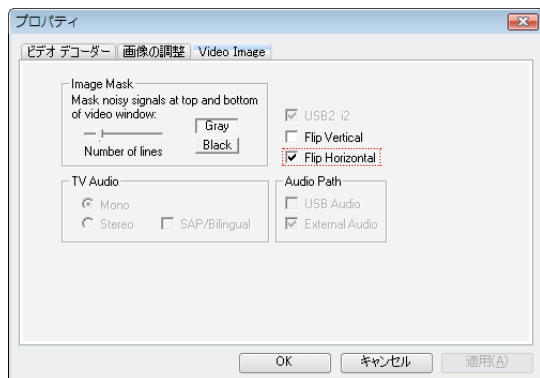
VistaCam Digitalの場合は、以下の設定をお勧めします:

明るさ: 105

コントラスト: 30

色合い: 60

鮮やかさ: 45

鮮明度: 2

Video Capture Filter→

【Video Image】

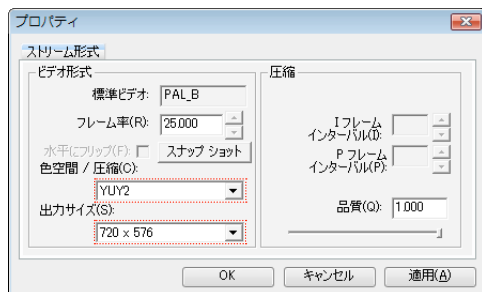
この画面はVistaCamDigitalとVistaProofのみにあります。

「Image Mask」で、画像の上部や下部にグレーや黒の縁取りをつけることができます。カメラ画像の枠部分に多少の乱れがあってもこれでカバーできます。

「Flip Horizontal」にチェックを入れると、画像が裏返しに反転するので、カメラを動かすと、モニター上でも同じ動きになり便利です。一度試されることをお勧めします。

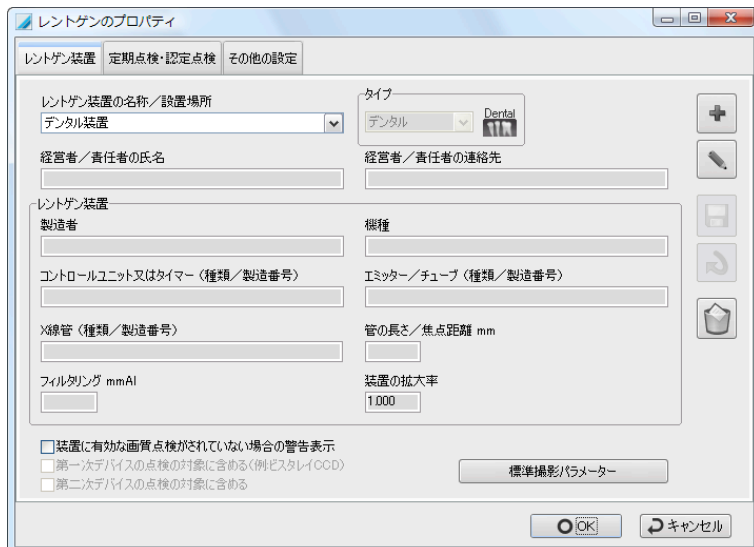
Video Crossbar→

【Crossbar】

通常は、ここでの設定は必要ありません。

Video Capture Pin→

【ストリーム形式】

ここでは画質に関する重要な設定を行います。「色空間/圧縮」ではYUY2を選択してください。

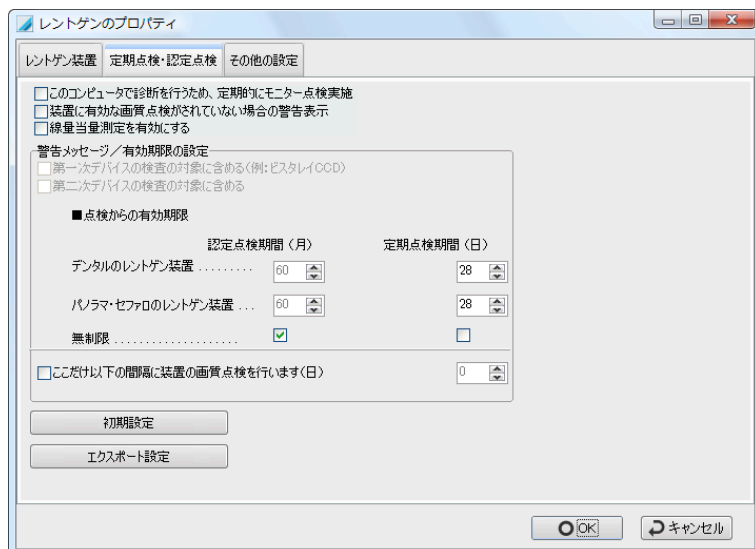
「出力サイズ」ではカメラの解像度と同じ数値を選択することが重要です。

VistaCam iX⇒704 x 576

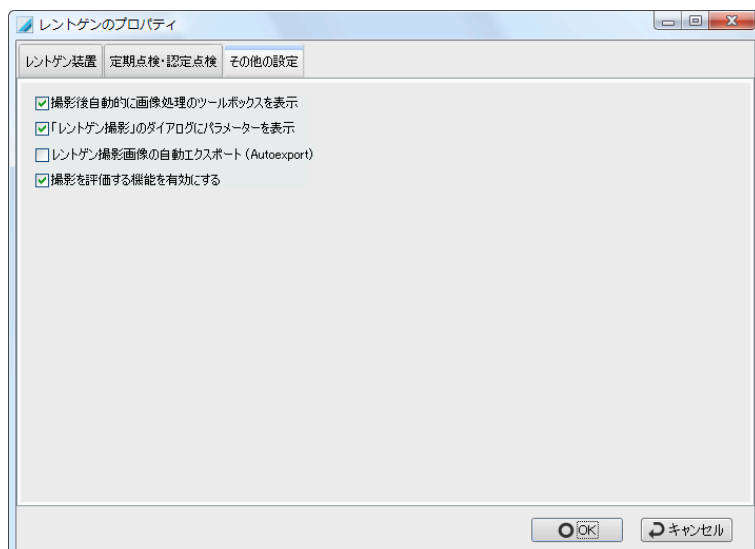
VistaCam DigitalとVistaProof⇒720 x 576

10.10 レントゲンのプロパティ

（オプション）

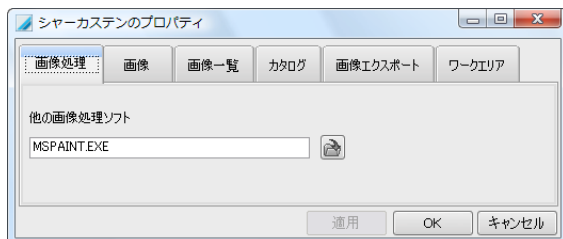
【レントゲン装置】ここにはレントゲン装置と標準撮影パラメータを記入します。これは全ての撮影パラメータを記録として残したい場合や、そうすることが法律で定められている場合に有効です。また、ここでレントゲン装置の定期点検又は認定検査 を行ったり、定期的なテストの実施を設定できます。

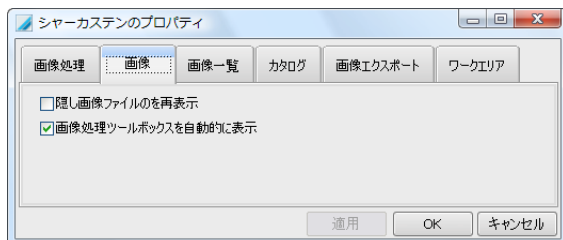
【標準撮影パラメーターの入力】

【定期点検･認定検査】

このページで定期点検などの設定を行います。

【その他の設定】

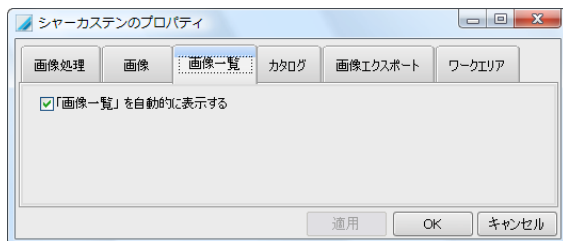
ご希望の項目にチェックを入れてください。

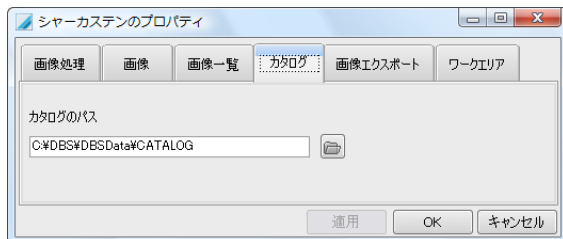
「レントゲン撮影画像の自動エクスポート」
撮影画像を自動的にエクスポート先に保存又は送信する場合ここにチェック入れることが必要です。
注意！画像形式と保存先の設定は「Autoexport」のプリセットで行います。詳細は**「10.11　シャーカステンのプロパティ」**をご覧ください。

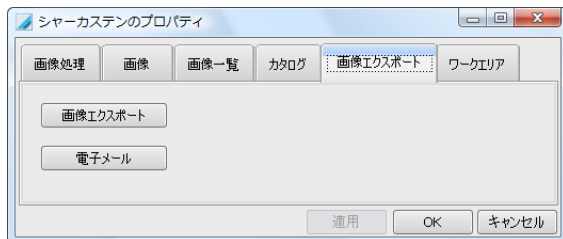
10.11 シャーカステンのプロパティ

【画像処理】

他の画像処理ソフトを選択します。ここで設定したソフトはシャーカステンで使用できます。「**7.16　他のソフトで画像を開く／処理**」参照。

【画像】

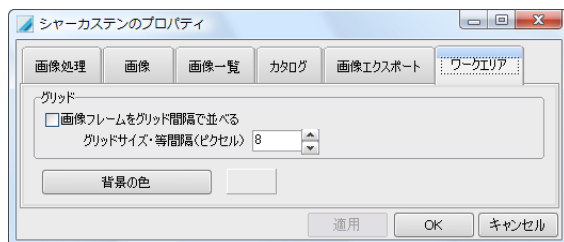
「隠しファイルの画像を再表示」にチェックを入れると、一度隠しファイルにした画像を再度表示します。「**7.9 画像を削除**」参照。

「画像処理のツールを自動的に表示」にチェックを入れると、画像をダブルクリックで開くとき、ツールボックスが自動的に表示されます。

【画像一覧】

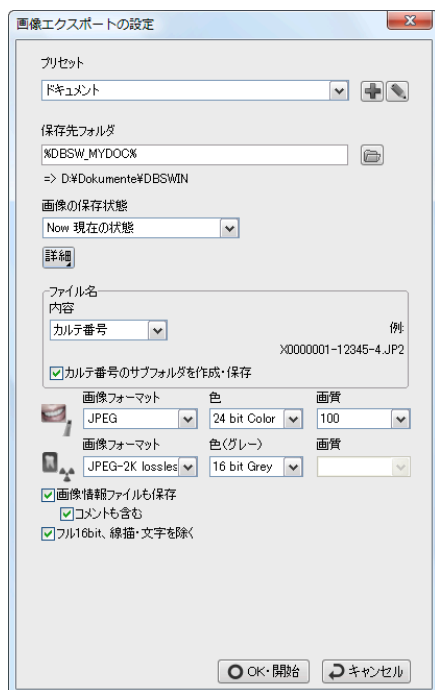
「画像一覧を自動的に表示する」にチェックを入れると、シャーカステンの画面に切り替えたとき、画像一覧が自動的に表示されます。

【カタログ】

カタログのパスは、ここで選択します。

【画像エクスポート設定】

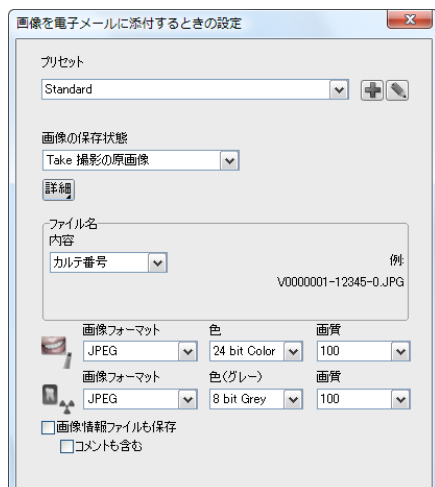
画像をエクスポートする際の画像形式などをダイアログで設定します。

「電子メール」電子メールに添付する際の画像形式などをダイアログで設定します。

【ワークエリア】

「グリッド」
画像フレームをグリッド間隔で並べる設定

「背景の色」
シャーカステンの背景の色を選択できます。

【画像エクスポートの設定】

プリセットには関連する全ての設定を同時に保存できます(保存先フォルダ、画像の保存状態、画像フォーマットなど)。

プリセットを追加するにはのボタンをクリックします。既にあるプリセットを編集するにはのボタン、保存するにはのボタンをクリックしてください。

【画像を電子メールに添付するときの設定】

上記と同じく、左図のダイアログで行います。

10.12 ビスタネット

次の製品のみの設定:「ビスタスキャン ミニ」、「ビスタネット」全製品

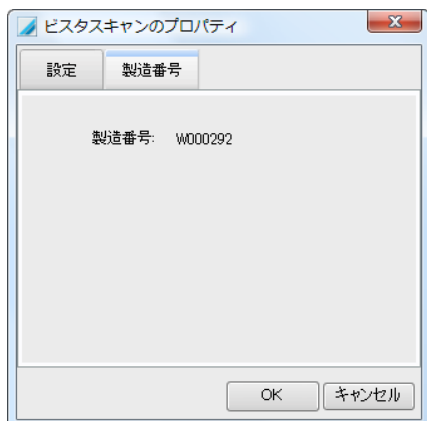
ビスタネットのシンボル上をダブルクリックすると「VistaConfig」の画面が表示され、ここでデバイスの設定ができます。

10.13 ビスタスキャンのプロパティ

次の製品のみに有効な設定:「ビスタスキャン プラス」、「ビスタスキャン ペリオ」、「ビスタスキャン」

【設定】

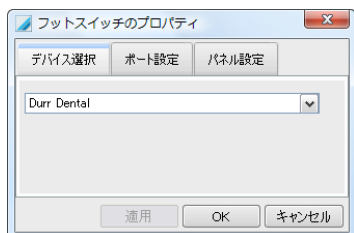
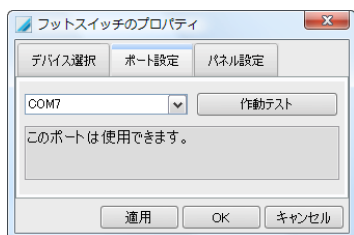
「デバイス設定」のボタンをクリックすると、「VistaConfig」が起動します。ビスタスキャンに関する設定は、全てここで行います。

「モードの事前選択」で、ご希望のモードを選択してください。

【製造番号】

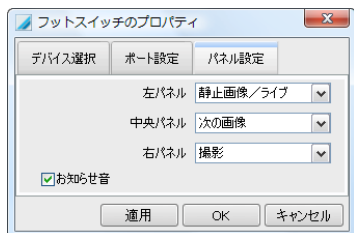
ビスタスキャンの製造番号が表示されます。

10.14 フットスイッチのプロパティ

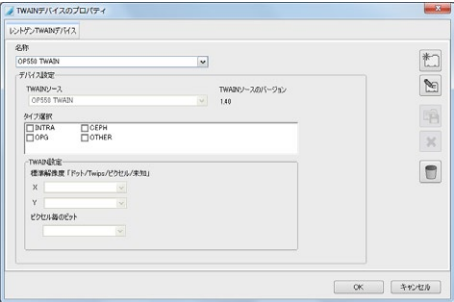
口腔カメラの撮影で使用するフットスイッチの設定を行います。

「デュールデンタル社製フットスイッチ」
〇コードレスフットスイッチ
無線レシーバーUSB接続　No.2100-770-09
〇有線フットスイッチ
USB接続ケーブル3m　No.2100-770-17

【デバイスの選択】
フットスイッチのメーカーやモデルを選択します。

【ポート】
フットスイッチの接続ポートを選択します。

フットスイッチの作動テストを行います。この機能はデュールデンタルのフットスイッチのみで使用できます。

【フットスイッチの作動テスト】
パネルの踏んだ部分と選択した機能がここに表示されます。

【パネル設定】
フットスイッチの各パネルの機能をここで選択できます。

10.15 TWAINデバイスのプロパティ

（オプション）

【レントゲンTWAINデバイス】

DBSWINではデュールデンタルの機器だけでなく、他社製の機器も使用することができます。他社製のX線装置などTWAINドライバ有りの画像情報デバイスは、ここで登録してください。互換性のある装置の画像が「レントゲン」タブで挿入できます。詳細設定については、X線装置の製造業者にお問い合わせください。

11. DICOM

（オプション）

DICOMの機能を使用するには､｢DICOM　スターター｣及び｢DICOMプリント｣のオプションモジュールをアクティブ化することが必要です。

DICOMの機能でDICOM装置(RISサーバー､PACSサーバー､イメージサーバーなど)に接続できます。また DICOMプリンタで印刷ができます。

11.1 DICOM設定

設定タブのモジュール設定でDICOMアイコンをダブルクリックすると｢DICOMのプロパティ｣のダイアログが表示され､設定を行うことができます。

DICOMのプロパティ／全般

｢AEタイトル｣ Application Entity Title

DICOM接続(ネットワーク内)でDBSWINクライアントを認証するために他と区別した名称にする必要があります。AEタイトルはネットワーク内で同じものがあってはなりません。初期設定で｢DBSWIN_<コンピュータ名>｣になります。用途: DICOMワークリストサーバーからワークリストを受信するときの検索基準。**｢11.10 ステップの検索｣**の章を参照。画像保存通信システム(PACS)を使用する場合､認証するため又はデータ保存の確定を提供(Storage Commitment)する際に入力が必須です。**｢11.2 DICOM装置の設定｣**(ストレージ設定)を参照。

｢ステーション名｣ Station Name

初期設定でウインドウズの
コンピュータ名になります。
用途:このパソコンの撮影画像のDICOMタグ｢Station Name (0008,1010)｣に記載されます。

｢設置場所｣ Performed Location

ワークステーションの設置場所。
用途:このパソコンで作成したMPPSステップのDICOMタグ｢Performed Location (0040,0243)｣に記載されます。

｢匿名化｣ 用途:画像を匿名化してエキスポートする際に患者名の代わりとなる仮名。

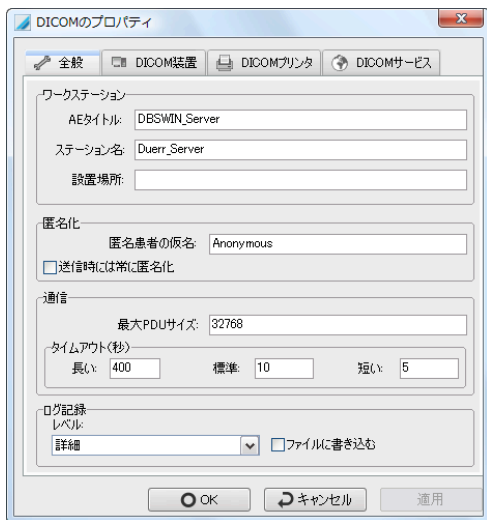
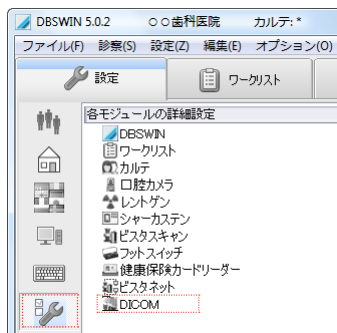
｢最大PDUサイズ｣ DICOMのデータ送信時のデータブロック最大サイズ。

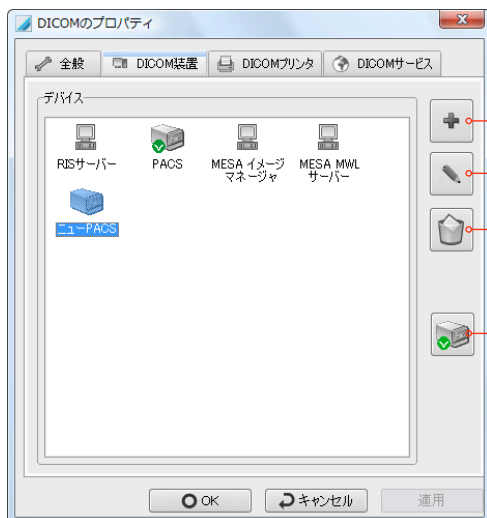
｢タイムアウト･長い｣ 送信エラー発生時､ネットワーク接続を確認する際のタイムアウト。

｢タイムアウト･標準｣ 接続する時のタイムアウト

｢タイムアウト･短い｣ データ送信時のネットワーク接続確認のタイムアウト

｢ログ記録･レベル｣ 記録の詳細さレベル設定

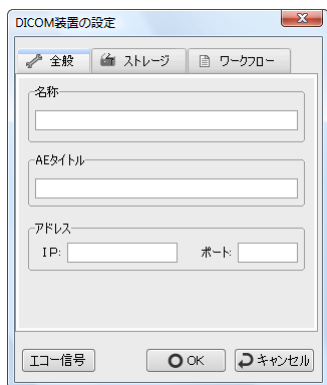
｢ログ記録･ファイルに書き込む｣ ログ記録を別のDICOMログファイルに書き込む

11.2 DICOM装置の設定

DICOMのデータ通信は、登録されたDICOM装置／デバイス間で可能です。「DICOMプロパティ」のダイアログの「DICOM装置」で全てのデータ通信デバイスの登録と設定を行います。

DICOMのプロパティ／DICOM装置

「DICOM装置の設定」のダイアログを開き、DICOMデバイスを追加します。

選択したデバイスの設定ダイアログを開きます。

選択したデバイスを削除します。

選択したデバイスを「DICOMアーカイブ装置」として設定し、シンボルに緑色のチェックマークをつけます。
このボタンは、選択したデバイスの設定で「データ保存の確定を提供」にチェックが入っている場合に有効となります（DICOM装置のストレージ設定）。

DICOM装置の設定

DICOM装置／デバイスの設定ダイアログが3つに分かれています。

「全般」
デバイスの認証とネットワーク接続設定

「ストレージ」
デバイスに画像を送信する設定（DICOM Storage SCP）

「ワークフロー」
デバイスからワークリストを受け取る設定（DICOM Worklist SCP）

DICOM装置が対応できる機能は別々に設定します（SCPストレージ及びSCPワークリスト）。

DICOM装置が両機能を持っている場合は、以下のことに注意が必要です:

○ 両機能が同じIPアドレスと同じポート番号で提供される場合:
　ひとつのデバイスで登録し、「ストレージ」と「ワークフロー」の両方を設定してください。

○ 両機能がひとつのデバイスだが、異なったIPアドレスとポート番号で提供される場合:
　ストレージ機能とワークフロー機能を設定したそれぞれ二つのデバイスで登録することが必要です。

全般

デバイスの認証とネットワーク接続設定

「名称」

デバイスに便宜上の名前を付けます。

「AEタイトル」

DICOM装置のAEタイトルを入力します(必須)。

「アドレス」

DICOM装置のIPアドレスとポート番号を入力します(必須)。

「エコー信号」

このボタンをクリックすると、入力した設定でデバイスへの接続が行われるかどうかテストします。正常に接続されれば、入力欄が緑色に変わります。

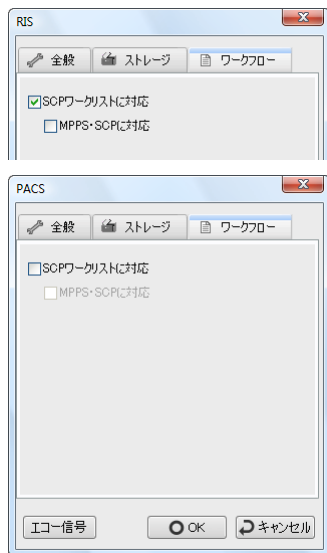
ストレージ

デバイスに画像を送信する設定(DICOM Storage SCP)

「SCPストレージに対応」

このデバイスに画像を送信する場合、ここにチェックを入れます。

「アーカイブ」

画像アーカイブデバイス(PACSなど)からデータ保存の確定を提供してもらいたい場合は、ここにチェックを入れます。
注意:この設定のためには、DICOMの装置が「DICOM Storage Commitment SCP」に対応していることが必要です。この装置に送信した「データ保存の確定を提供」の画像ファイルが、DBSWINのデータファイルから削除できるようになります。削除後にこの画像をDBSWINで開く場合、この装置から取り出されます。

ワークフロー

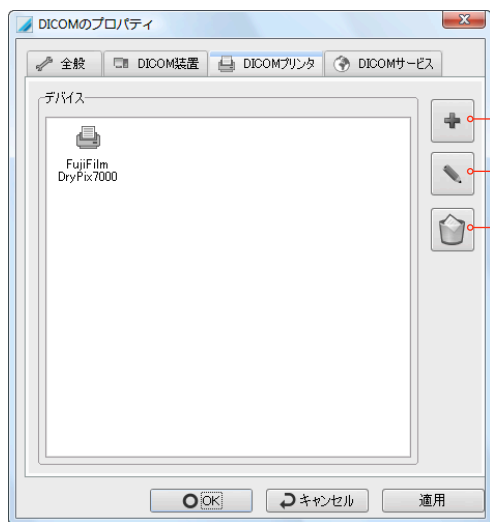
デバイスからワークリストを受け取る設定(DICOM Worklist SCP)

「SCPワークリストに対応」

デバイスからワークリストを受け取る設定。
注意:この設定のためには、DICOMの装置が「DICOM Worklist SCP」に対応していることが必要です。

「MPPS・SCPに対応」

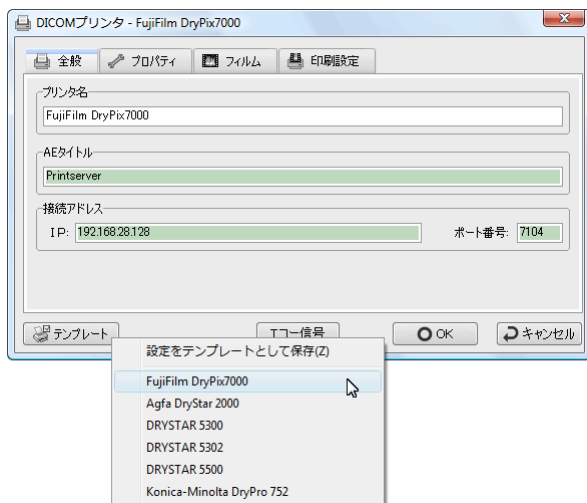
デバイスにワークリストステップの状態をDICOM MPPSで伝達する。
注意:この設定のためには、DICOMの装置が「DICOM MPPS SCP」に対応していることが必要です。重要:MPPSをご使用の場合、デバイスへ常に接続している必要があります。

11.3 DICOMプリンタの設定

DICOMのプロパティ／DICOMプリンタ

DICOMプリンタを登録／設定します。

「DICOMプリンタ」のダイアログを開き、DICOMプリンタを追加します。

選択したプリンタの設定ダイアログを開きます。

選択したプリンタを削除します。

全般

「プリンタ名」

プリンタに便宜上の名前を付けます。

「AEタイトル」

DICOMプリンタのAEタイトルを入力します（必須）。

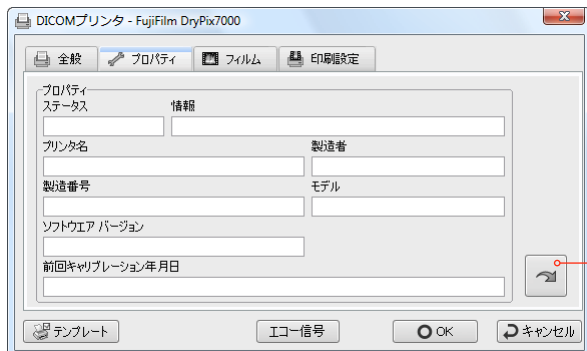
「接続アドレス」

DICOMプリンタのIPアドレスとポート番号を入力します（必須）。

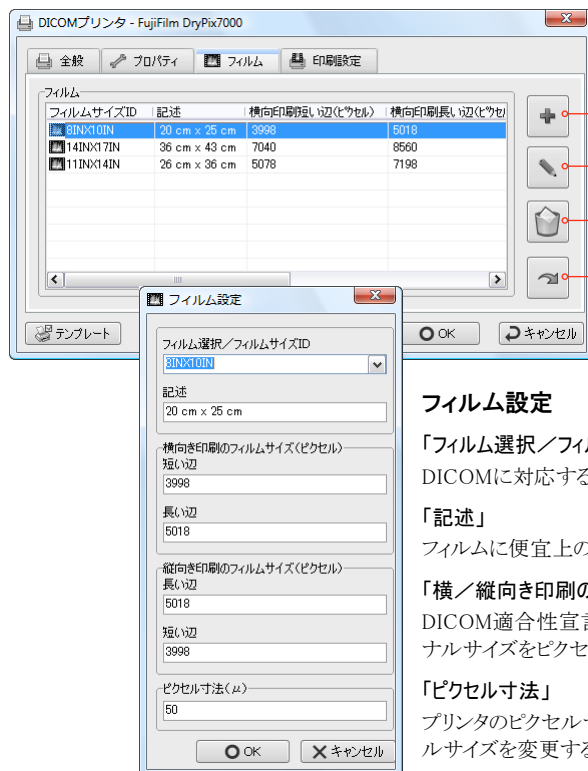
「テンプレート」

プリンタ設定のインポート／ファイルとして保存

「エコー信号」

このボタンをクリックすると、入力した設定でデバイスへの接続が行われるかどうかテストします。正常に接続されれば、入力欄が緑色に変わります。

プロパティ

プリンタの情報を表示します（プリンタがこの情報送信機能に対応する場合のみ）。

ボタンをクリックするとプリンタから情報を受信します。

フィルム

DICOMプリンタのフィルム媒体の設定

フィルムサイズを追加します。

選択したフィルムの設定ダイアログを開きます。

選択したフィルムを削除します。

フィルムのリストをプリンタから受信します。

フィルム設定

「フィルム選択／フィルムサイズID」

DICOMに対応するフィルムIDの選択

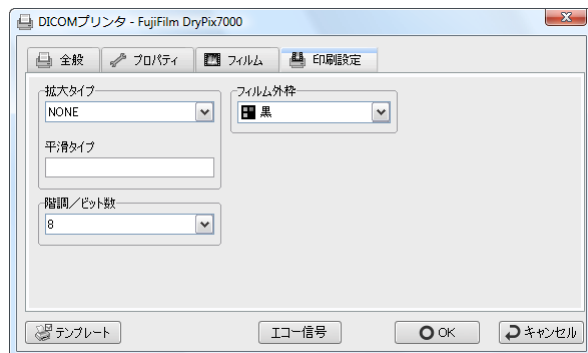
「記述」

フィルムに便宜上の名前を付けます。

「横／縦向き印刷のフィルムサイズ」（四つの欄）

DICOM適合性宣言書に記載されているようにフィルムのオリジナルサイズをピクセルで入力します。

「ピクセル寸法」

プリンタのピクセルサイズを使用します。プリンタで縦横のピクセルサイズを変更する場合、ここで入力し直すことが必要です。

「印刷設定」

DICOMプリンタの機種と設定によってここで印刷の設定を行います。

「拡大タイプ」

標準設定は「NONE」となります。

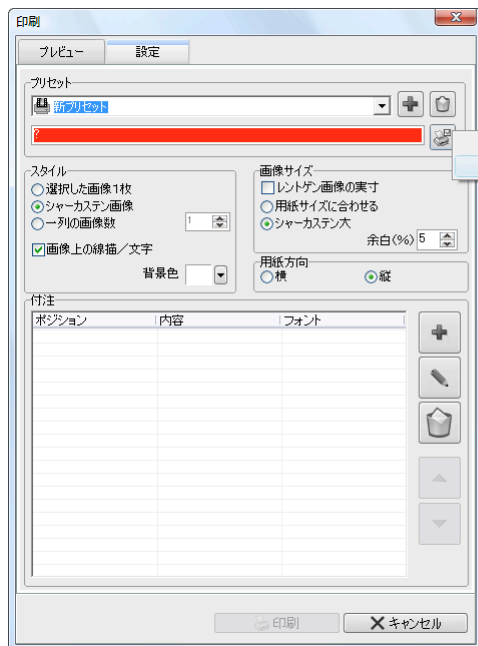
「平滑タイプ」

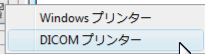
拡大タイプが「CUBIC」の場合、ここに入力できます。

「階調／ビット数」

DBSWINに対応している8か12か16のビット数を選択します。

「フィルム外枠」

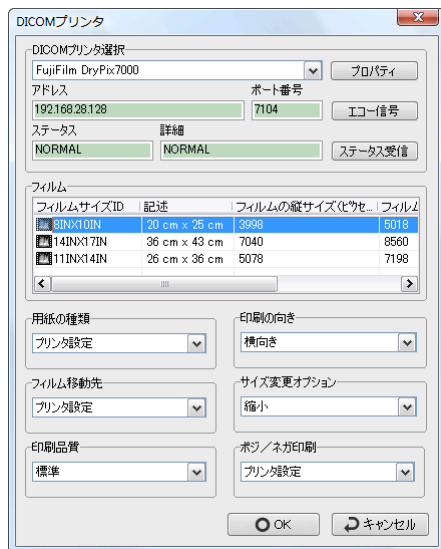
プリンタ設定、又は白か黒を選択します。

印刷プリセット

印刷に関する設定を名前を付けてプリセットとして保存することができます。

DICOMプリンタ用印刷プリセット作成方法

①上のボタンをクリックして印刷プリセットを新規作成します。

②新規プリセットの名前を付けてください。

③のボタンをクリックして、表示されるメニューで「DICOM プリンタ」を選ぶとDICOMプリンタの設定ダイアログが表示されます。

④下記の「DICOMプリンタ」のダイアログで設定を行ってください。

DICOMプリンタ

「DICOMプリンタ選択」

リストからプリンタを選択します。

「エコ信号」

DICOMプリンタへの接続を確認します。

「ステータス受信」

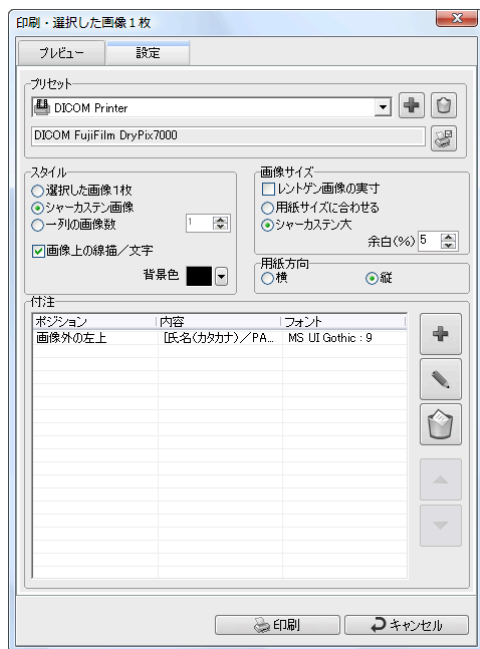
DICOMプリンタからステータス情報を受け取ります。

「フィルム」

リストから印刷に使用するフィルムを選択します。

「OK」

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

⑤上図のダイアログに戻りますので、ご希望の付注の設定をしてください。詳細は「7.7 印刷」をご覧ください。

11.4 DICOMプリンタでの印刷

○シャーカステンで印刷する画像1～複数枚を開きます。

○画面左のツールバーからのボタンをクリックして印刷ダイアログを開きます。

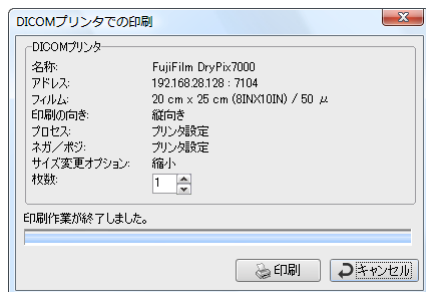
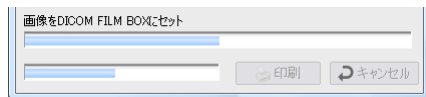
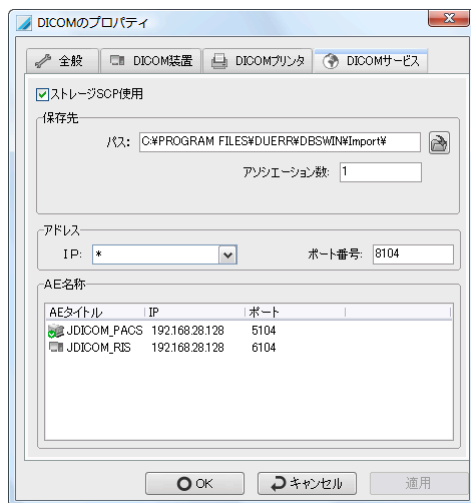
○DICOMプリンタ用に作成したプリセットを選びます。

○スタイルと画像サイズなどを選択してください。詳細は「**7.7 印刷**」をご覧ください。

印刷 のボタンをクリックすると「DICOMプリンタでの印刷」のダイアログが表示されます。

このダイアログで設定の確認ができます。印刷する枚数を選び、「印刷」ボタンをクリックするとDICOMプリンタに画像が送信されます。

印刷中は、ステータス情報がダイアログの下部に表示されます。

印刷作業を終了するには「キャンセル」をクリックしてください。

11.5 DICOMサービス

DICOMアーカイブに保管した画像(DBSWINのデータから削除したファイルのみ)を開くために再度受信するためにはストレージSCPの設定が必要です。

「ストレージSPC使用」

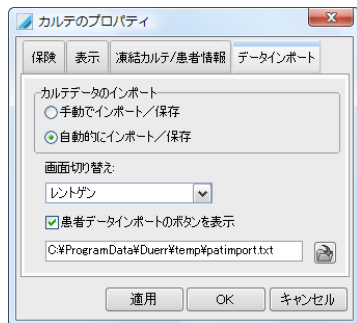
DICOMアーカイブと共にデータ保存の確定を提供(DICOM Storage Commitment SCP)をご使用になる場合、ここにチェックを入れてください。

「保存先」

再度受信した画像は、保存先のパスで一時的に保存されます。

アソシエーション数は通常「1」にします。

「アドレス」

DBSWINにアクセスできるIPアドレスとポート番号を入力します。DICOMアーカイブ装置側の設定で、このアドレスと「全般」タブのAEタイトルを登録することが必要です。
* はDBSWINはローカルワークステーションの全てのIPアドレスにアクセスできます。

カルテデータのインポートの設定

DBSWINでワークリストを使う場合には、カルテデータのインポート設定を有効にしてください。

「カルテデータのインポート」

ワークリストをご使用の場合、「自動的にインポート/保存」を選択します。

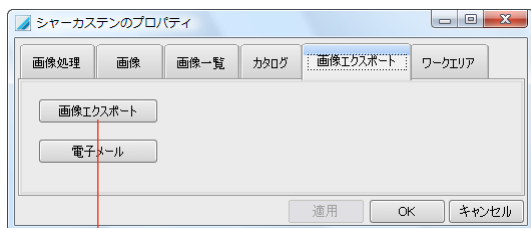
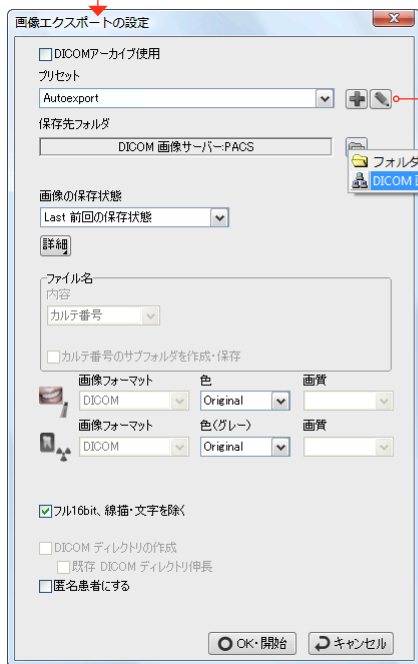
「画面切り替え」

ワークリストでステップを開始するとき、自動的に切り替わる画面を選択します。

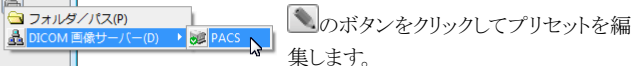
「データインポートファイルのパス」

患者データをインポートするためのファイルのパスを入力します。
標準設定: C:¥ProgramData¥Duerr¥temp¥patimport.txt

11.6 画像をDICOM装置(PACS)に送信

DBSWINの画像エクスポート機能を使ってDICOM装置に送信したり、画像保存通信システム(PACS)に保管することができます。「DICOM装置」の設定で登録したデバイス及び「SCPストレージに対応」が有効になっている場合のみ、画像を送信できます。画像はシャーカステンで開いてから送信するか、又は新しい撮影ごとに自動的に送信することもできます。自動送信の場合は事前に画像エクスポートのプリセットを設定しておくことが必要です。

設定タブのモジュール設定で「シャーカステン」アイコンをダブルクリックすると「シャーカステンのプロパティ」のダイアログが表示されます。「画像エクスポート」タブ内の「画像エクスポート」ボタンをクリックすると「画像エクスポートの設定」ダイアログが表示されます。

【画像エクスポートの設定】

①「プリセット」選択

a)自動的に画像を画像保存通信システム(PACS)に送信する場合は、「Autoexport」を選択し、のボタンをクリックしてプリセットを編集します。

b)自動送信を利用しない場合は、画像をシャーカステンで開いてから送信するため、新しいプリセットを追加することができます。のボタンをクリックしてプリセットを追加し、プリセットの名称を入力します(例:DICOM画像サーバー)。シャーカステンで画像を開いてからプリセット「Autoexport」を選んで送信することもできます。

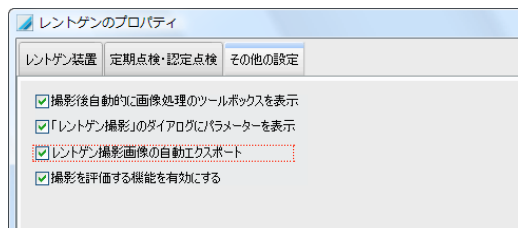
②「DICOMアーカイブ使用」設定

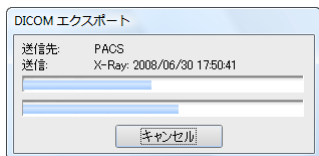
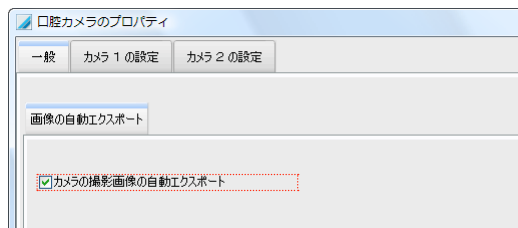
OFF(標準): 撮影画像が画像保存通信システムへ送信された後、DBSWIN以外のビューアーソフトウェアでも開いて分析することができるようになります。
ON: 撮影画像をDBSWINのみで分析し、画像保存通信システムはアーカイブとして利用する場合。

③「画像の保存状態」設定

ここでは通常「Last 前回の保存状態」を使用します。この設定では画像の変更(濃淡の設定など)も共に送信されます。送信した画像は他のビューアーソフトウェアでも表示することができます。

「Take 撮影の原画像」はエクスポートされた画像をDBSWINのみで分析する場合に使用します。画像情報システムから受け取った生画像を送信し、画像上に施した変更等は送信されません。

④その他の設定は、用途に合わせて行い、のボタンをクリックして設定を保存してください。

画像の自動送信

撮影した画像を自動的にDICOM装置に送信するには「レントゲンのプロパティ」と「口腔カメラのプロパティ」のそれぞれにおいて「…撮影画像の自動エクスポート」にチェックを入れることが必要です(左図の赤枠内参照)。

【DICOM エクスポート経過表示】

画像をDICOM装置に送信する際、左図のように経過が表示されます。これは自動・手動送信の両方で表示されます。

【手動でシャーカステンから画像をDICOM装置に送信】

シャーカステンでPACSに送信する画像を選択します。メニューの「ファイル」→「画像のエクスポート」で表示される項目の中からエクスポートの方法(例えば「All　画像1枚」「Check　チェックを付けた画像」など)を選択して画像エクスポートをします。「**7.13 画像のエクスポート**」の章と、この章の最初の部分をご覧ください。

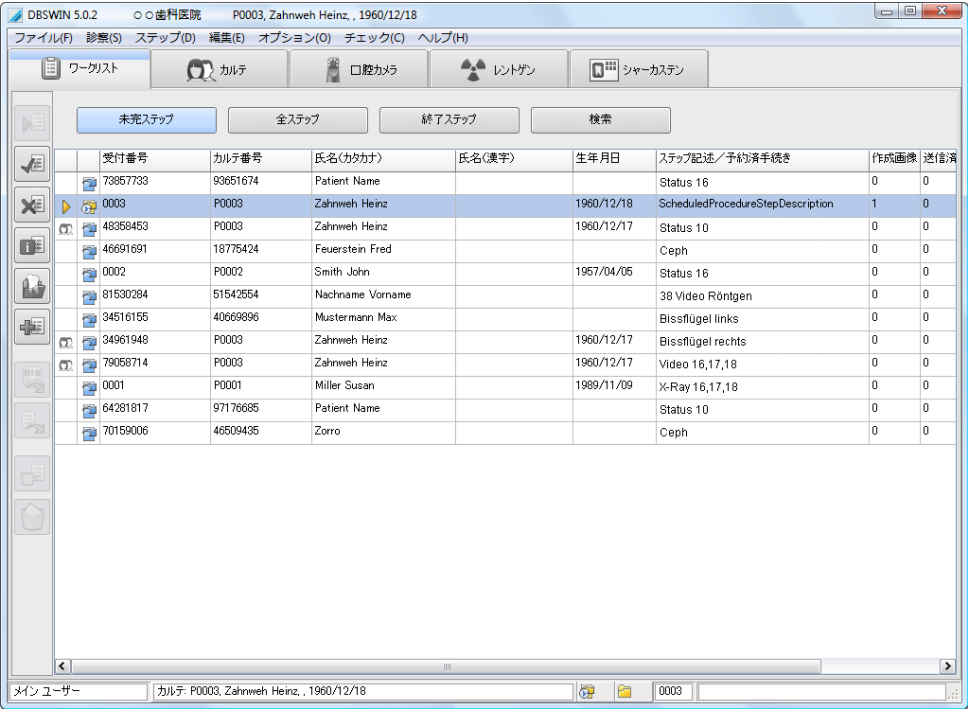
11.7 アーカイブされた画像を表示

画像保存通信システムに保存が確定した画像(Storage Commitment)を表示又は確認するには、「シャーカステン」タブを選択してから、メニューの「シャーカステン」→「DICOMアーカイブ」→「PACSでアーカイブされ、保存が確定した画像を表示」を選択するとリストが作成・表示されます。

11.8 アーカイブされた画像の消去

画像保存通信システムに保存が確定した画像(Storage　Commitment)は、DBSWINデータから消去することができます。そのためには、「シャーカステン」タブを選択してから、メニューの「シャーカステン」→「DICOMアーカイブ」→「PACSでアーカイブされ、保存が確定した画像をDBSWINデータから消去」を選択します。
その際、画像ファイルのみが消去され、画像の情報と画像一覧のサムネール
はそのままで残ります。このような画像を画像一覧から開くと、画像データをPACSから受信します。
注意:色を「Original」の設定で送信した画像のみをDBSWINデータから消去できます。

11.9 ワークリスト

ワークリストでは、DICOMのワークリストサーバー(RIS)のステップ(作業)又はローカルで作成したステップを管理できます。

ステップの状態

左側にあるシンボルでステップの状態を表示します。

RISステップ	ローカル ステップ	ステータス	説明
		予約済み	まだ始まっていないステップ
		作業中	現在アクティブなステップ:新しい撮影がこのステップに帰属します。
		一時停止	このステップは既に始まっていますが、現在は非アクティブ
		完了	完了したステップ
		キャンセル	キャンセルしたステップ

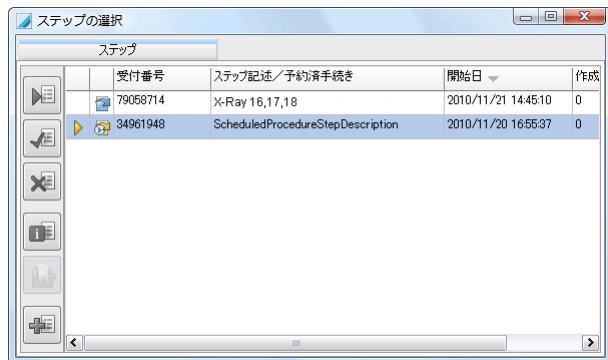
	現在アクティブなステップを示します。
	選択中患者カルテのステップを示します。

ワークリスト ツールバー ボタンの機能

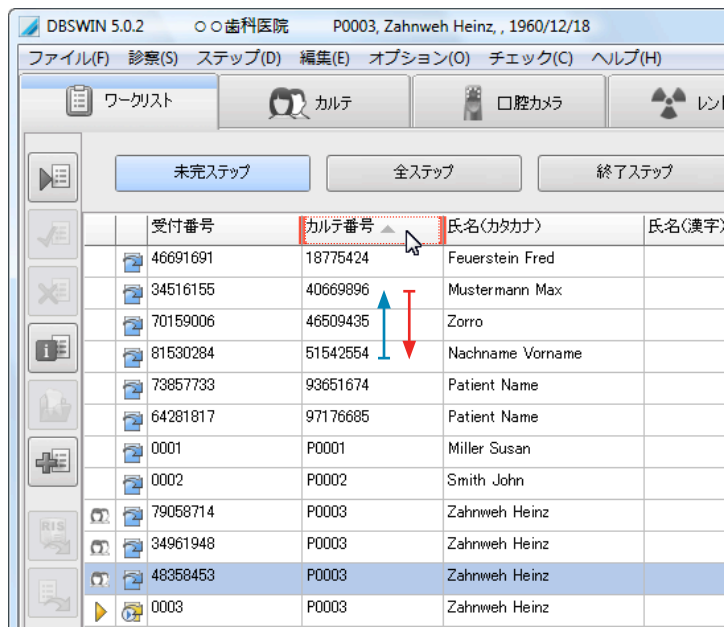
	選択したステップを開始／続行します(これでステップがアクティブになります): このステップの患者カルテを選択又は新規作成し、カルテのプロパティで設定した画面に切り替えます。「**10.8　カルテのプロパティ**」参照。この時点から新しく撮影された画像はこのステップに帰属します。リストのステップ上をダブルクリックしても開始できます。
	選択したステップの状態を「完了」にします。 ステップの状態を自動的に完了にする方法は、「**11.13 ワークリスト設定**」章をご覧ください。
	選択したステップをキャンセルします。
	選択したステップの内容を表示します。
	選択したステップの画像をシャーカステンで表示します。 注意:ステップに属する患者カルテが開いていない場合は、まずこのカルテが開きます。
	ステップを新規作成します。「**11.12 ステップの新規作成**」章をご覧ください。
	DICOMワークリストサーバー(RIS)からステップを受信します。 注意:ワークリストの更新は設定に従って自動的に行われます。「**11.13　ワークリスト設定**」章をご覧ください。
	DICOMワークリストサーバー(RIS)から受信ステップを未完ステップのリストに追加します。インポートしてまだ始まっていないステップを予約済みとしてマークします。
	選択したステップを削除します。 注意:「予約済み」「完了」「キャンセル」の状態のステップのみが削除できます。
	全ての「完了」「キャンセル」の状態のステップを削除します。 注意:作業したステップは日数によって自動的に削除されます。保留期間の設定については「**11.13 ワークリスト設定**」章をご覧ください。

【ステップの選択】

診察メニュー又は、タスクバーのボタンで「診察／ステップの選択」ダイアログを表示します。ダイアログでステップを選択、又は新しいステップを作成したり現在のステップ内容を表示したりできます。

左図のボタンは、患者カルテが選択されている時のみ表示されます。

	選択したステップを開始／続行します（これでステップがアクティブになります）： この時点から新しく撮影された画像はこのステップに帰属します。リストのステップ上をダブルクリックしても開始できます。
	選択したステップの状態を「完了」にします。 ステップの状態を自動的に完了にする方法は、「**11.13 ワークリスト設定**」章をご覧ください。
	選択したステップをキャンセルします。
	選択したステップの内容を表示します。
	選択したステップの画像をシャーカステンで表示します。 注意：ステップに属する患者カルテが開いていない場合は、まずこのカルテが開きます。
	現在選択している患者カルテにステップを新規作成します。「**11.12　ステップの新規作成**」章をご覧ください。

ワークリストのステップを絞り込む

リストの上にあるボタンでステップの状態によって表示／非表示を選択できます。

ボタン	説明
未完ステップ	「予約済み」「作業中」「一時停止」状態のステップを表示します。 「完了」「キャンセル」状態のステップを表示しません。
全ステップ	全てのステップを表示します。
終了ステップ	「完了」「キャンセル」状態のステップのみを表示します。
検索	DICOMワークリストサーバー(RIS)で、該当の「患者名」や「カルテ番号」などを入力してステップを検索し、追加することができます。

リスト列表示の選択

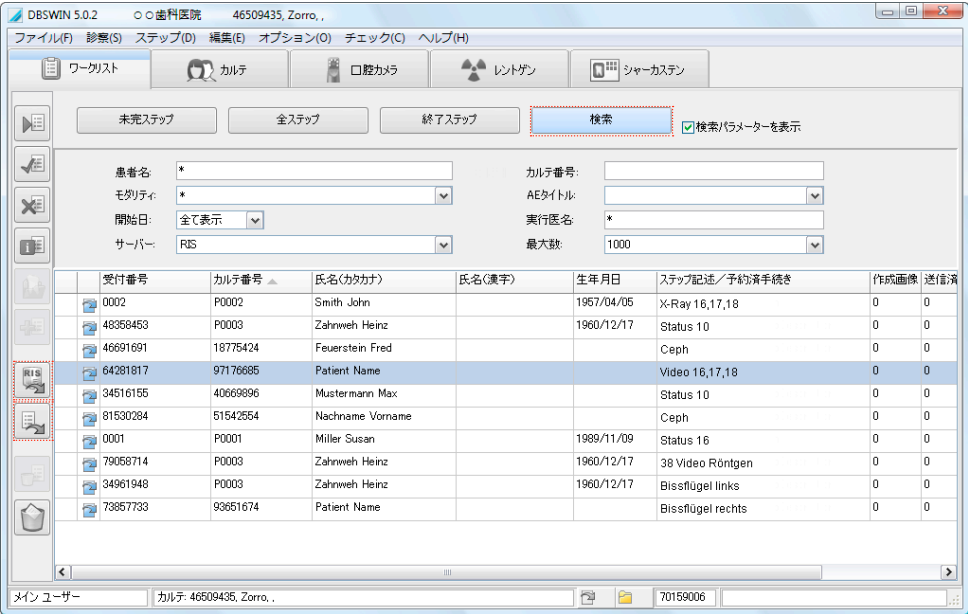
リストの最上項目を右クリックすると、メニューが表示され、どの列を表示するかを選択できます。

【列内の順番並べ替え】

リスト最上項目をクリックすると、表示を昇順(クリック×1)か降順(クリック×2)に並べ替えができます。

列の順番を変更するには、列の最上項目をクリックしながらご希望の場所に移動し、マウスを離します。列幅を変更するには、最上項目の罫線をクリックしながら動かしてください。罫線上でダブルクリックすると、自動的に列幅を調整します。

11.10 ステップの検索

検索欄にパラメーターを入力し、ツールバーのボタンをクリックします。リスト上に見つかったステップを表示します。ステップを選び、ツールバーのボタンでステップを未完ステップのリストに追加します。

検索欄パラメーター	DICOMタグ	
患者名	(0010,0010)	患者さんのお名前 検索形式:「カタカナ氏名(RISによって全角か半角)」^「漢字氏名」カタカナ氏名のみで検索する場合は、^は必要ありません。*を入力すると全ての文字で検索されます。例えば「ワタ*」で検索すると「ワタ」で始まる名前を全て表示します。
カルテ番号	(0010,0020)	患者さんのカルテ番号。空欄で全て表示、注意:*は文字になります。
モダリティ	(0008,0060)	画像情報デバイスのカテゴリーで検索(*は全て)
AEタイトル	(0040,0001)	アプリケーションのために計画されたステップの検索します。 空欄で全て表示、注意:*は文字になります。
開始日	(0040,0002)	開始日や期間のために予約されたパラメーターで検索します。
実行医名	(0040,0006)	実行医師のパラメーターでステップを検索します。
サーバー	—	検索するDICOMワークリストサーバーの選択。
最大数	—	ワークリストワーバーから受け取るステップの最大件数。

11.11 ステップ内容

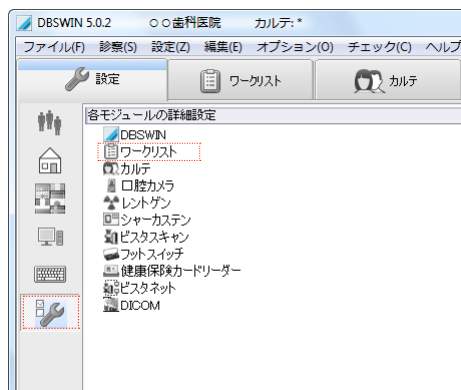
ツールバーのボタン又はメニューの「ステップ」→「ステップ内容表示」で選択したステップの内容がダイアログで表示されます。

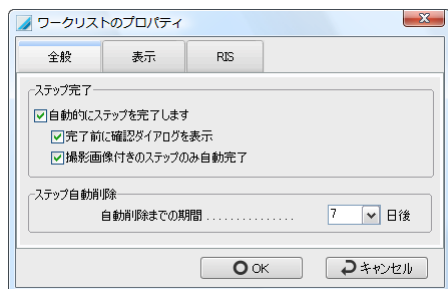
DBSWINのローカルで作成し、まだ予約済みの状態のステップは、このダイアログで編集できます。

11.12 ステップの新規作成

ツールバーのボタン又はメニューの「ステップ」→「ステップ新規作成」で新しいステップが作成できます。

灰色の欄は編集ができません。白い欄のみに入力してください。

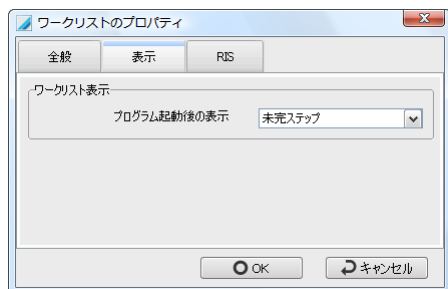
「OK」ボタンをクリックして新しいステップを保存してください。入力必須欄が空欄のまま「OK」をクリックすると、欄が赤く表示されます。

11.13 ワークリスト設定

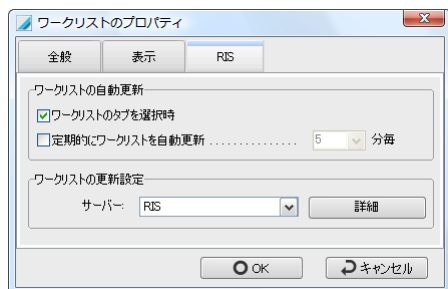
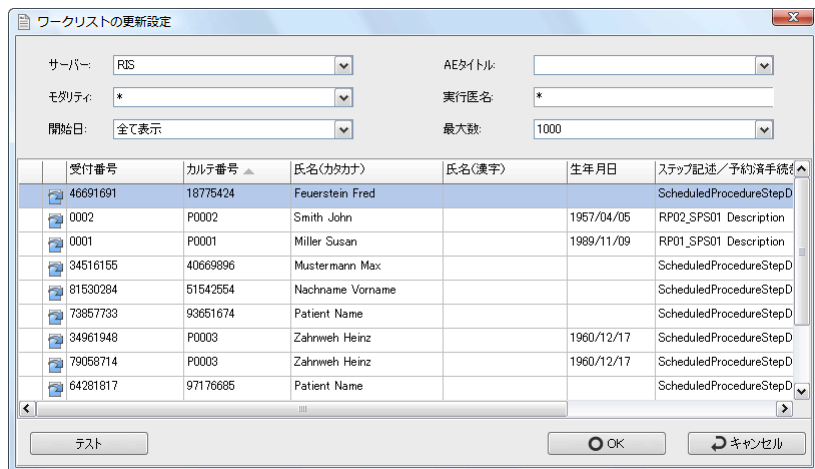
設定タブのモジュール設定で「ワークリスト」アイコンをダブルクリックすると「ワークリストのプロパティ」のダイアログが表示され、設定を行うことができます。

【全般】

○「自動的にステップを完了します」にチェックが入っていると、別の患者カルテ又はステップを選択する時、現在アクティブなステップの状態を「完了」にします。ただし、全ての撮影画像がDICOM画像保存通信システム(PACS)に送信された場合に限ります。それ以外は「一時停止」の状態になります。

○「完了前に確認ダイアログを表示」にチェックが入っていると、確認のメッセージを表示します。

○「撮影画像付きのステップのみ自動完了」にチェックが入っていると、ステップで撮影がされた時のみ「完了」の状態にします。

○「ステップ自動削除」で「完了」と「キャンセル」状態のステップを何日間保管するかを決めます。

【表示】

○DBSWIN起動時に表示される項目を選択できます。

【RIS】

○「ワークリストのタブを選択時」にチェックが入っていると、ワークリストのタブに切り替える際、ワークリストを更新します。

○「定期的にワークリストを自動更新」では、何分毎に自動更新するかを設定できます。

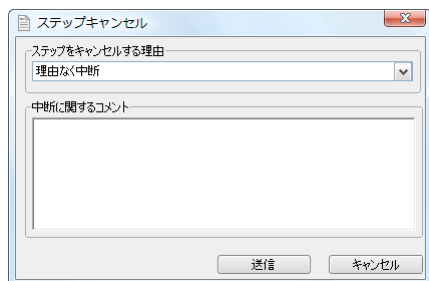
○「ワークリストの更新設定」では、どのサーバーからワークリストを受信するかを選択します。「詳細」のボタンでワークリスト更新パラメーターを決定します。

【ワークリストの更新設定】

このダイアログでワークリストを更新する際の設定を行います。パラメーターの詳細は「**11.10 ステップの検索**」をご覧ください。「テスト」のボタンでサーバーに接続して設定を確認することができます。

11.14 MPPS

「MPPS・SCPに対応」になっているDICOM装置(「**11.2 DICOM装置の設定**」参照)から、ワークリストのステップを受け取った場合、ステップ状態の変更をDICOM装置にMPPS経由で知らせます。

【ステップ完了】

ステップを完了すると「ステップ記述」や「コメント」が記入できるダイアログが表示されます。

注意:MPPSが有効の場合、全ての画像が事前にDICOM画像保存通信システム(PACS)に送信されている場合のみステップを完了することができます。ワークリストステップの「作成画像」と「送信済み」の列で全画像が送信されたかどうかが確認できます(この場合、両欄の数が同じになります)。

もし、全画像が送信されなかった場合、ボタンをクリックするとシャーカステンで開いた画像と手動でDICOM画像保存通信システム(PACS)に画像をエクスポートしてください。

【ステップキャンセル】

ステップをキャンセルする際に、キャンセルの理由、又は中断に関するコメントが入力できるダイアログが表示されます。

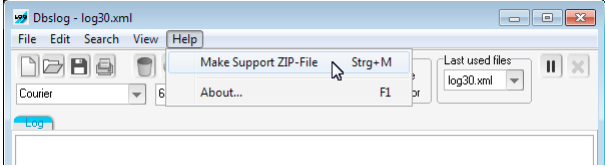
11.14 略語のリスト

AE	Application Entity アプリケーションの実体
DICOM	Digital Information and Communication in Medicine 医用デジタル画像と通信に関する標準規格
IP	Internet Protocol インターネット通信プロトコール
MPPS	Modality Performed Procedure Step 検査の実施状況の交信
PACS	Picture Archiving and Communication System 画像保存通信システム
PDU	Protocol Data Unit プロトコールデータの大きさ
RIS	Radiology Information System 放射線情報システム
SCP	Service Class Provider DICOMサービスを提供するサーバー
SCU	Service Class User DICOMサービスを利用するクライアント

12. 点検

12.1 モニター点検

レントゲン画像を映して診断を行うモニターは、画像の表示が診断を行うのに十分であるかどうかを使用を始める前とそれ以後も定期的に点検することが必要です。このモニター点検を行うにはメニューから「チェック」→「モニター点検」を選んでください。表示されるダイアログに従って点検を行ってください。

12.2 レントゲン装置の点検

レントゲン装置や画像情報システム(ビスタスキャン、ビスタレイなど)の機能が正常であること、画質が診断を行うのに十分であることをレントゲン装置の点検の機能で確認できます。この作業は、訓練を受けた技術者のみが行えます。点検の機能は、メニューから「チェック」→「全点検タブを表示」で表示されるタブからアクセスできます。

13. トラブルシューティング

13.1 デュールデンタル社へのエラー報告

弊社製品にトラブルが発生し、デュールデンタル社又は提携企業にご連絡いただく場合、できるだけ速やかに解決するために、トラブル発生時の詳細な情報をご提供いただきますようご協力のほどをお願い申し上げます。

1.トラブルの発生時期	日付と時刻（ログの記録を照会する際に必要です）
2.発生した不具合の詳細	何が起こったかを詳細にお答えください。またその不具合の発生時にどのような作業をされていたか、および発生の頻度もお伝えください。
3.画像ファイルの送付	画像表示やスキャン画像の画質に関する問題の場合は、まずスキャンパラメーターの設定が正しいかどうかをドライバ設定で確認してください。 画像に関する不具合の場合は、原画像をXTFファイル（カメラの場合VTFファイル）でご提供ください。JPEGなどの他形式のファイルですと、検証が困難になるためご協力をお願いします。
4.サポート用ZIPファイル	エラーの原因を確認するためには、INIファイルやLOGファイルの記録のコピーが必要です。コピーを取るためには通知領域に入ったDBSLOGのアイコンをダブルクリックで開き、HELPメニューからMake Support ZIP-Fileをクリックしてください。デスクトップに作成されたDuerrDental_Support.zipファイルをデュールデンタルのサポートにご送付ください。

13.2 DBSWINのデータベース復元について

DBSWINサーバーマネジャーのバックアップを復元⇒

サーバーマネジャーの取扱説明書「1.5 復元」をご覧ください。

他のバックアップソフトウェアのバックアップを復元⇒

サーバーマネジャーの取扱説明書「1.6 データプールを使用不可能・使用可能」をご覧ください。

データベースに属さない画像を修復する⇒

サーバーマネジャーの取扱説明書「4. データベースに属さない画像を修復する」をご覧ください。

13.3 画像取り込みに関するトラブル

○画像デバイスの設定と接続を確認してください。

○バックアップソフトウェアを起動していないことを確認。バックアップソフトウェアの設定をDBSWINとドライバの作業を妨害しないようにしてください。

○バックアップソフトウェアの設定を確認：「C:¥Program Files¥Duerr¥Images」のフォルダをバックアップしないでください。

○アンチウィルスソフトウェアの設定を確認。アンチウィルスソフトウェアの設定をDBSWINとドライバの作業を妨害しないようにしてください。

○できるだけバックグラウンドで起動しているソフトウェアが少なくなるようにしてください。バックグラウンドで他のソフトウェアが作動していると、CPUパワーとメモリーを消費します。

13.4 パスワードを忘れたら

GDBS.INIファイルで以下の様に編集するとDBSWINのユーザーログインのパスワードをリセットできます。

[Users]

NL=0E7AB2E6465475AE

LoginName1=メイン ユーザー,メイン ユーザー,,19CD7E7FC7A52BF6,0,○○歯科医院

！注意:「○○歯科医院」の代わりに正しい名前を記入してください。

[Grants]

LoginName1=3F5591D092DAFF2E

13.5 「レントゲン」タブなどが表示されない

①DBSWINの取扱説明書に従い、サーバーのパソコンでDBSWINをアクティブ化してください。各クライアントで使用する機能を「モジュールのアクティブ化設定」のタブで選択してください。「モジュールのアクティブ化設定」画面にチェックを入れます。

②モジュール設定で「DBSWINのプロパティ」を開き、「一般」タブで採用するモジュールを選択してください。

13.6 画像の自動エクスポートができない

シャーカステンで自動エクスポートが正しく作動するかどうかを以下のように確認してください:

画像を開きます⇒「画像のエクスポート」のダイアログで「Autoexport」のプリセットを選択し、保存先のパスを確認してから画像のエクスポートができるかどうかテストしてください。できない場合は以下の点を確認し、設定を修正してください。

画像の自動エクスポートが機能するためには保存先のパスが存在することが必要です。ネットワークパスの場合はパソコンを再起動してから存在するまで1分以上かかることがあるので、保存先のIPアドレスを使うのが最速です。

以下のようにGDBS.INIファイルの中に「Autoexport」が記載されているかを確認してください。

...DBSData¥GDBS.ini

...
[Export]

M1=Name=″Autoexport″○○○○○○○○○

例／初期設定:

M1=Name=″Autoexport″,FormatVideo=″JPEG″,FarbtiefeVideo=24,FarbeVideo=″True″,FormatXRay=″JPEG″,FarbtiefeXRay=8,FarbeXRay=″False″,KompressionVideo=100,KompressionXRay=100,Exportpfad=″%DBSW_MYDOC%″,Bildzustand=4,Benutzerfeld=″″,FileNameContent=0,SubDir=″True″,BildInfo=″True″,DiagText=″True″,Viewer=″False″,DICOMDIR=″False″,DICOMDIRAddMode=″False″,ViewerVideo=″″,ViewerXRay=″″,True16Bit=″True″,Anonymous=″False″

GDBS.INIファイルの初期設定は、DBSWINのDVD内の以下のパスにあります:

<DBSWIN DVD>¥DBSWIN¥custom¥GDBS.INI>

M1=Name=″″の項目で古いバージョンには「自動エクスポート」となっていたことがあります。今後は「Autoexport」のみをお使いください。